

2026年度 大学院政治学研究科 講義概要(シラバス)



法政大学

科目一覧

【発行日：2026/5/1】 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目

〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs

〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ

〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル

〈グ〉：グローバル・オープン科目

〈実〉：実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン

〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

政治学専攻_政治学特殊演習【X5000】	政治学特殊演習1 [明田川 融]	春学期授業/Spring	1
政治学専攻_政治学特殊演習【X5001】	政治学特殊演習2 [明田川 融]	秋学期授業/Fall	2
政治学専攻_修士専門科目【X5002】	政治理論研究1 [杉田 敦]	春学期授業/Spring	3
政治学専攻_修士専門科目【X5003】	政治理論研究2 [杉田 敦]	秋学期授業/Fall	4
政治学専攻_修士専門科目【X5004】	政治理論演習1 [上田 知夫]	春学期授業/Spring	5
政治学専攻_修士専門科目【X5005】	政治理論演習2 [上田 知夫]	春学期授業/Spring	6
政治学専攻_修士専門科目【X5006】	政治制度研究1 [河野 有理]	春学期授業/Spring	7
政治学専攻_修士専門科目【X5007】	政治制度研究2 [河野 有理]	秋学期授業/Fall	8
政治学専攻_修士専門科目【X5008】	行政学研究1 [林 嶺那]	春学期後半/Spring(2nd half)	9
政治学専攻_修士専門科目【X5009】	行政学研究2 [林 嶺那]	秋学期後半/Fall(2nd half)	10
政治学専攻_修士専門科目【X5010】	政治史研究1 [細井 保]	春学期授業/Spring	11
政治学専攻_修士専門科目【X5012】	日本政治史研究1 [明田川 融]	春学期授業/Spring	12
政治学専攻_修士専門科目【X5013】	日本政治史研究2 [明田川 融]	秋学期授業/Fall	13
政治学専攻_修士専門科目【X5014】	政治思想史研究1 [犬塚 元]	春学期授業/Spring	14
政治学専攻_修士専門科目【X5015】	政治思想史研究2 [犬塚 元]	秋学期授業/Fall	15
政治学専攻_修士専門科目【X5018】	公共哲学研究1 [宮川 裕二]	秋学期前半/Fall(1st half)	16
政治学専攻_修士専門科目【X5019】	公共哲学研究2 [西谷内 博美]	春学期前半/Spring(1st half)	17
政治学専攻_修士専門科目【X5021】	コミュニティ論研究2 [西谷内 博美]	春学期後半/Spring(2nd half)	18
政治学専攻_修士専門科目【X5026】	公共政策研究1 [西谷内 博美]	秋学期前半/Fall(1st half)	19
政治学専攻_修士専門科目【X5027】	公共政策研究2 [西谷内 博美]	秋学期後半/Fall(2nd half)	20
政治学専攻_修士専門科目【X5030】	政治過程研究1 [山口 二郎]	春学期授業/Spring	21
政治学専攻_修士専門科目【X5031】	政治過程研究2 [山口 二郎]	秋学期授業/Fall	22
政治学専攻_修士専門科目【X5032】	行政理論研究1 [南島 和久]	春学期後半/Spring(2nd half)	23
政治学専攻_修士専門科目【X5035】	政策学研究2 [鄭 智允]	秋学期後半/Fall(2nd half)	25
政治学専攻_修士専門科目【X5043】	連帯社会とサードセクター [伊丹 謙太郎、池本 修悟、WOO JONGWO N]	春学期授業/Spring	26
政治学専攻_修士専門科目【X5044】	立法学研究1 [神崎 一郎]	春学期前半/Spring(1st half)	27
政治学専攻_修士専門科目【X5052】	公務員制度研究 [森谷 明浩]	秋学期後半/Fall(2nd half)	29
政治学専攻_修士専門科目【X5057】	雇用・労働政策研究 [濱口 桂一郎]	秋学期前半/Fall(1st half)	31
政治学専攻_修士専門科目【X5058】	政策法務論 [神崎 一郎]	春学期後半/Spring(2nd half)	32
政治学専攻_修士専門科目【X5059】	防災危機管理研究 [鍵屋 一]	春学期前半/Spring(1st half)	34
政治学専攻_修士専門科目【X5063】	ジェンダー政治研究2 [浅野 幸子]	春学期後半/Spring(2nd half)	35
政治学専攻_修士専門科目【X5065】	自治体議会論 [鍵屋 一]	春学期後半/Spring(2nd half)	38
政治学専攻_修士専門科目【X5066】	NPO論1 [池本 修悟]	春学期前半/Spring(1st half)	39
政治学専攻_修士専門科目【X5067】	NPO論2 [池本 修悟]	春学期後半/Spring(2nd half)	41
政治学専攻_修士専門科目【X5069】	シンクタンク論 [蒔田 純]	集中・その他/intensive・other courses	43
政治学専攻_修士専門科目【X5073】	国際政治の基礎理論1 [青野 利彦]	春学期授業/Spring	45
政治学専攻_修士専門科目【X5078】	国際開発政策研究1 [武貞 稔彦]	秋学期前半/Fall(1st half)	46
政治学専攻_修士専門科目【X5086】	国際地域研究1 [熊倉 潤]	春学期授業/Spring	48
政治学専攻_修士専門科目【X5087】	国際地域研究2 [熊倉 潤]	秋学期授業/Fall	49
政治学専攻_修士専門科目【X5090】	アメリカ政治研究1 [中野 勝郎]	春学期授業/Spring	50
政治学専攻_修士専門科目【X5091】	アメリカ政治研究2 [中野 勝郎]	秋学期授業/Fall	51
政治学専攻_修士専門科目【X5092】	アメリカ外交研究1 [青野 利彦]	春学期授業/Spring	52
政治学専攻_修士専門科目【X5108】	国際行政研究2 [坂根 徹]	春学期授業/Spring	53

政治学専攻_修士専門科目	【X5150】	修士論文	54
政治学専攻_博士専門科目	【X5201】	博士論文演習ⅠA [山口 二郎] 春学期授業/Spring	55
政治学専攻_博士専門科目	【X5202】	博士論文演習ⅠB [山口 二郎] 秋学期授業/Fall	56
政治学専攻_博士専門科目	【X5205】	博士論文演習ⅢA [杉田 敦] 春学期授業/Spring	57
政治学専攻_博士専門科目	【X5206】	博士論文演習ⅢB [杉田 敦] 秋学期授業/Fall	58
政治学専攻_博士専門科目	【X5207】	博士論文演習ⅢA [犬塚 元] 春学期授業/Spring	59
政治学専攻_博士専門科目	【X5208】	博士論文演習ⅢB [犬塚 元] 秋学期授業/Fall	60
政治学専攻_博士専門科目	【X5209】	博士論文演習ⅢA [河野 有理] 春学期授業/Spring	61
政治学専攻_博士専門科目	【X5210】	博士論文演習ⅢB [河野 有理] 秋学期授業/Fall	62
政治学専攻_博士専門科目	【X5211】	政治学特別講義1 [山口 二郎] 春学期授業/Spring	63
政治学専攻_博士専門科目	【X5212】	政治学特別講義2 [山口 二郎] 春学期授業/Spring	64
政治学専攻_博士専門科目	【X5250】	博士論文	65
国際政治学専攻_選択必修科目(基礎理論)	【X5500】	国際政治理論 [青野 利彦] 春学期授業/Spring	66
国際政治学専攻_選択必修科目(基礎理論)	【X5501】	アメリカ外交史 [青野 利彦] 春学期授業/Spring	67
国際政治学専攻_選択必修科目(基礎理論)	【X5502】	政治理論研究1 [杉田 敦] 春学期授業/Spring	68
国際政治学専攻_選択必修科目(基礎理論)	【X5503】	政治理論研究2 [杉田 敦] 秋学期授業/Fall	69
国際政治学専攻_選択必修科目(基礎理論)	【X5504】	国際政治史研究1 [青野 利彦] 春学期授業/Spring	70
国際政治学専攻_選択必修科目(基礎理論)	【X5505】	国際政治史研究2 [青野 利彦] 秋学期授業/Fall	71
国際政治学専攻_選択必修科目(基礎理論)	【X5508】	国際公共政策研究2 [坂根 徹] 春学期授業/Spring	72
国際政治学専攻_選択必修科目(基礎理論)	【X5509】	国際協力政策研究 [武貞 稔彦] 秋学期前半/Fall(1st half)	73
国際政治学専攻_選択必修科目(基礎理論)	【X5511】	非伝統的安全保障研究 [本多 美樹] 春学期授業/Spring	75
国際政治学専攻_必修科目	【X5512】	Academic Reading (初級) [Alan MEADOWS] 春学期授業/Spring	77
国際政治学専攻_必修科目	【X5513】	Academic Reading (上級) [ZAHIR HASAN] 秋学期授業/Fall	78
国際政治学専攻_必修科目	【X5514】	Thesis Writing (初級) [Alan MEADOWS] 春学期授業/Spring	79
国際政治学専攻_必修科目	【X5515】	Thesis Writing (上級) [ZAHIR HASAN] 秋学期授業/Fall	80
国際政治学専攻_必修科目	【X5516】	Presentation & Debate (初級) [Alan MEADOWS] 春学期授業/Spring	81
国際政治学専攻_必修科目	【X5517】	Presentation & Debate (上級) [ZAHIR HASAN] 秋学期授業/Fall	82
国際政治学専攻_選択科目	【X5524】	アジア比較政治 [福田 円] 春学期授業/Spring	83
国際政治学専攻_選択科目	【X5525】	アジア国際関係研究1 [福田 円] 秋学期授業/Fall	84
国際政治学専攻_選択科目	【X5531】	対外政策研究(朝鮮半島)(1) [権 鎬淵] 春学期授業/Spring	85
国際政治学専攻_選択科目	【X5532】	対外政策研究(朝鮮半島)(2) [権 鎬淵] 秋学期授業/Fall	86
国際政治学専攻_選択科目	【X5535】	国際地域研究(中国)(1) [熊倉 潤] 春学期授業/Spring	87
国際政治学専攻_選択科目	【X5536】	国際地域研究(中国)(2) [熊倉 潤] 秋学期授業/Fall	88
国際政治学専攻_選択科目	【X5541】	国際地域研究(東南アジア)(1) [浅見 靖仁] 春学期授業/Spring	89
国際政治学専攻_選択科目	【X5542】	国際地域研究(東南アジア)(2) [浅見 靖仁] 秋学期授業/Fall	90
国際政治学専攻_選択科目	【X5543】	国際地域研究(ヨーロッパ)(1) [宮下 雄一郎] 春学期授業/Spring	91
国際政治学専攻_選択科目	【X5544】	国際地域研究(ヨーロッパ)(2) [宮下 雄一郎] 秋学期授業/Fall	92
国際政治学専攻_選択科目	【X5545】	日本外交研究1 [高橋 和宏] 春学期授業/Spring	93
国際政治学専攻_選択科目	【X5546】	日本外交研究2 [高橋 和宏] 秋学期授業/Fall	94
国際政治学専攻_選択科目	【X5547】	グローバル政治経済特別セミナー [坂根 徹] 秋学期集中/Intensive(Fall)	95
国際政治学専攻_選択科目	【X5551】	総合講座・国際協力講座 [木内 真理子] 秋学期授業/Fall	96
国際政治学専攻_選択科目	【X5552】	NPO/NGOマネジメント研究 [木内 真理子] 春学期授業/Spring	97
国際政治学専攻_選択科目	【X5553】	グローバル課題と市民社会組織研究 [木内 真理子] 秋学期授業/Fall	99
国際政治学専攻_必修科目	【X5560】	国際政治学特殊演習 [坂根 徹] 秋学期授業/Fall	101
国際政治学専攻_必修科目	【X5700】	修士論文 [国際政治学専攻教員]	102
国際政治学専攻_必修科目	【X5800】	リサーチ・ペーパー [国際政治学専攻教員]	103

POL600A3（政治学 / Politics 600）

政治学特殊演習 1

明田川 融

備考（履修条件等）：修士1・2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学特殊演習1および2は、政治学研究科政治学専攻に所属する教員たちが総出で、政治学専攻の大学院生が修士論文を書き上げていく中で必要な指導を行なう論文指導科目である。政治学特殊演習1は春学期の開講科目である。

【到達目標】

修士1年春学期は、政治学の基礎を確立するとともに、修士論文の構想を練り上げること、その秋学期は修士論文執筆に必要な準備を行なっているかどうかを点検すること、修士2年春学期は、修士論文の構想を確定し、先行研究のフォローや必要な資料の洗い出しが終わっていること、その秋学期は、論文執筆が進行中であること、を目標にされたい。最終目標は修士課程院生各が修士論文を完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」「DP3」は特に強く関連している。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

政治学特殊演習1は、7月初旬頃に行なわれる論文構想発表会が、将来に向けた重要な発表の経験を積む機会となる。指導教員の指導を受けながら、その準備と事後の振り返りを着実にこなしていくことが必要となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この演習の概要、進め方について説明する。
第2回	研究倫理	研究倫理についての研修プログラムを受講する。
第3回	論文執筆の心構え	コースワークとは独自に、どのように論文を準備していったらよいかを考える。
第4回	研究論文の基本	研究論文の基本を学習、確認する。
第5回	資料・文献の探索	図書館とオンラインデータベースの使い方に習熟する。
第6回	研究テーマと論文構想	自分なりの研究テーマを確定し、どのような論文を書いていくかを考える。
第7回	先行研究のフォロー	論文で扱うテーマについて、どのような先行研究があるかを調べて整理していく。
第8回	資料収集	特に一次資料については、その所在や入手方法を確認し、収集計画を立てる。
第9回	主要文献・資料の読破	論文で扱うテーマにおいて主要文献ないし重要資料とされているものを読み解く。
第10回	問いと視点の明瞭化	資料・文献の読解、分析に基づいて、どのような研究上の問いと視点を採用するのかを検討する。
第11回	論文構想づくり	論文の構想をまとめて、報告資料を作成する。目次と参考文献リストは必ず準備する。
第12回	論文構想発表会（報告）	それぞれ構想していることについて報告し、全教員による指導を受ける。
第13回	論文構想発表会（精査）	他の院生が行う研究報告を把握・分析し、報告方法や研究の組み立て方などを参考にする。
第14回	論文構想発表会の振り返り	論文構想発表会で指摘されたことを振り返り、論文執筆の準備に生かす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記「授業計画」に示した内容を参考に、普段の授業でのコースワークとは独自に、論文執筆の準備を進められたい。そのために要する時間は通常、授業時間を大幅に上回るものになることから、計画的に進めること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要ときに適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

1年次生については、論文構想発表会での出席と報告（80%）、提出物（20%）で評価する。2年次生については、論文構想発表会での出席と報告（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの対象外である。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【Outline (in English)】

This seminar is supervised by the supervisor and other members of the Department of Politics. The seminar is held as a workshop by the teaching staff and students of the Department of Politics. The aim of this course is to provide the basic skills and knowledge essential for writing a master's thesis. Students are required to take Seminar I in the spring semester and Seminar II in the autumn semester. (Criteria and policy for grading)

Each student must give a presentation on her thesis once a semester. Credit will be given if the requirements are met.

POL600A3（政治学 / Politics 600）

政治学特殊演習 2

明田川 融

備考（履修条件等）：修士1・2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学特殊演習1および2は、政治学研究科政治学専攻に所属する教員たちが総出で、政治学専攻の大学院生が修士論文を書き上げていくうえで必要な指導を行なう論文指導科目である。2は秋学期の開講科目である。

【到達目標】

修士1年春学期は、政治学の基礎を確立するとともに、修士論文の構想を練り上げること、その秋学期は修士論文執筆に必要な準備を行なっているかどうかを点検すること、修士2年春学期は、修士論文の構想を確定し、先行研究のフォローや必要な資料の洗い出しが終わっていること、その秋学期は、論文執筆が進行中であること、を目標にされたい。最終目標は院生各々が修士論文を完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」「DP3」は特に強く関連している。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

政治学特殊演習2では、12月初旬頃に行なわれる論文構想発表会が、修士課程の院生各々にとって最も重要な発表の機会となる。指導教員の指導を受けながら、その準備と事後の振り返りを着実にこなしていくことで、論文完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文テーマの確定	秋学期のはじめには修士2年はもちろん、修士1年の院生も、なるべく論文の大まかなテーマは決めるようにしたい。
第2回	先行研究のフォロー、分析	論文で扱うテーマについて、どのような先行研究があるかを調べ整理していく。
第3回	文献・資料の読破	論文で扱うテーマにおいて必要な文献ないし重要資料を読み解く。
第4回	問いと観点の設定	資料・文献の読解、分析に基づいて、研究上の問いと観点を設定する。
第5回	研究史における位置づけ	論文で扱う（扱おうとしている）研究内容を、当該分野における研究史の文脈上に位置づける。
第6回	論文構想の彫琢	書こうとしている論文についてレジュメを作成してみる。特に修士2年生は詳細なレジュメを作成する。
第7回	論文執筆開始	書きやすいところから実際に論文を書き進めていく。
第8回	論文構成の調整	執筆過程で新たな考察要素を加えることの必要に気付いた場合などには、必要に応じて論文の構成を調整する。
第9回	文献・資料の補強	研究の深化に対応して、文献・資料の収集、分析を必要に応じて継続する。
第10回	校閲、推敲	論文の執筆過程における校閲、推敲の重要性を理解する。
第11回	論文構想発表会資料づくり	論文の構想をまとめて、報告資料を作成する。目次と参考文献リストは必ず準備する。
第12回	論文構想発表会（報告）	それぞれ構想していることについて報告し、全教員による指導を受ける。
第13回	論文構想発表会（精査）	他者の研究報告を把握、分析し、報告方法や研究の組み立て方などを参考にする。
第14回	論文構想発表会の振り返り	論文構想発表会で指摘されたことを振り返り、論文執筆の準備に生かす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記「授業計画」に示した内容を参考に、普段の授業でのコースワークとは独自に、論文執筆の準備を進められたい。そのために要する時間は通常、授業時間を大幅に上回るものになることから、計画的に進めること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要なときに適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

論文構想発表会での出席と報告（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの対象外である。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【Outline (in English)】

This seminar is supervised by the supervisor and other members of the Department of Politics. The seminar is held as a workshop by the teaching staff and students of the Department of Politics. The aim of this course is to provide the basic skills and knowledge essential for writing a master's thesis. Students are required to take Seminar I in the spring semester and Seminar II in the autumn semester.

(Criteria and policy for grading)

Each student must give a presentation on her thesis once a semester. Credit will be given if the requirements are met.

POL600A3（政治学 / Politics 600）

政治理論研究 1

杉田 敦

備考（履修条件等）：学部「外国書講読（英語）Ⅰ」、国際政治「政治理論研究 1」、公共政策「政治理論」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治理論上の重要問題について、英語文献を講読し議論することで、知見を深める。

【到達目標】

権力、民主政治など政治理論上の重大な問題について、研究上必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、英語文献を講読して議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文献講読1	テキストを読んでディスカッションする1
第2回	文献講読2	テキストを読んでディスカッションする2
第3回	文献講読3	テキストを読んでディスカッションする3
第4回	文献講読4	テキストを読んでディスカッションする4
第5回	文献講読5	テキストを読んでディスカッションする5
第6回	文献講読6	テキストを読んでディスカッションする6
第7回	文献講読7	テキストを読んでディスカッションする7
第8回	文献講読8	テキストを読んでディスカッションする8
第9回	文献講読9	テキストを読んでディスカッションする9
第10回	文献講読10	テキストを読んでディスカッションする10
第11回	文献講読11	テキストを読んでディスカッションする11
第12回	文献講読12	テキストを読んでディスカッションする12
第13回	文献講読13	テキストを読んでディスカッションする13
第14回	文献講読14	テキストを読んでディスカッションする14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が必要とする時間を用いて、事前にテキストを熟読し、事後に論点を整理する。

【テキスト（教科書）】

その都度指定する。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

参加状況、知識の獲得状況を総合的に判断し、平常点100点。

【学生の意見等からの気づき】

今後、アンケートをふまえて対応する。

【その他の重要事項】

本講義は、学部における外書講読（英語）と合同で実施する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治学

<研究テーマ>政治理論

<主要研究業績>

『権力論』、『境界線の政治学 増補版』（いずれも岩波現代文庫）

【Outline (in English)】

This class aims to help you have advanced knowledges in political theory through reading academic literature in English.

POL600A3（政治学 / Politics 600）

政治理論研究 2

杉田 敦

備考（履修条件等）：学部「外国書講読（英語）Ⅱ」、国際政治「政治理論研究 2」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治理論上の重要問題について、英語文献を講読し議論することで、知見を深める。

【到達目標】

権力、民主政治など政治理論上の重大な問題について、研究上必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、英語文献を講読して議論する。対面で行う予定であるが、感染症の状況次第では、遠隔に切り替える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文献講読1	テキストを読んでディスカッションする1
第2回	文献講読2	テキストを読んでディスカッションする2
第3回	文献講読3	テキストを読んでディスカッションする3
第4回	文献講読4	テキストを読んでディスカッションする4
第5回	文献講読5	テキストを読んでディスカッションする5
第6回	文献講読6	テキストを読んでディスカッションする6
第7回	文献講読7	テキストを読んでディスカッションする7
第8回	文献講読8	テキストを読んでディスカッションする8
第9回	文献講読9	テキストを読んでディスカッションする9
第10回	文献講読10	テキストを読んでディスカッションする10
第11回	文献講読11	テキストを読んでディスカッションする11
第12回	文献講読12	テキストを読んでディスカッションする12
第13回	文献講読13	テキストを読んでディスカッションする13
第14回	文献講読14	テキストを読んでディスカッションする14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が必要とする時間を用いて、事前にテキストを熟読し、事後に論点を整理する。

【テキスト（教科書）】

その都度、指定する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

参加状況、知識の獲得状況を総合的に判断し、平常点100点。

【学生の意見等からの気づき】

今後、アンケートをふまえ対応する。

【その他の重要事項】

この講義は、学部における外書講読（英語）と合同で実施する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治学

<研究テーマ>政治理論

<主要研究業績>

『権力論』、『境界線の政治学 増補版』（いずれも岩波現代文庫）

【Outline (in English)】

This class aims to help you have advanced knowledges in political theory through reading academic literature in English.

POL600A3（政治学 / Politics 600）

政治理論演習 1

上田 知夫

備考（履修条件等）：法学部専門科目「外国書講読（独語）」と共通して開催します。

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語で読み、学術的なドイツ語の読解力を身につけ、政治哲学の議論に触れる。

【到達目標】

ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。
政治哲学についての基本的な理解を手に入れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

内容としては、演習形式でドイツ語の文章を精読します（各回約2ページ進むことを目指します）。

担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関係する文法事項を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初学者でも問題なくついてこれるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。また授業後のオフィスアワーを活用して、より詳細な解説を行うことも可能です。
また内容について、各回教員が小さな議論を作っていきますので、それを検討することも重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション：今回扱う文献の紹介
第2回	文献精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第3回	文献精読（第2回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第4回	文献精読（第3回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第5回	文献精読（第4回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第6回	文献精読（第5回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第7回	文献精読（第6回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第8回	文献精読（第7回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第9回	文献精読（第8回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第10回	文献精読（第9回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第11回	文献精読（第10回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第12回	文献精読（第11回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第13回	文献精読（第12回の続き）	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所の文法事項を予習することが必須です。文法事項で解説してほしいこと、わかることの区別をきちんとつけてくる予習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Rainer Forst, "Welten der Rechtfertigung: Die Diskursethik als kantischer Konstruktivismus," in: Vernünftige Freiheit: Beiträge zum Spätwerk von Jürgen Habermas, hrsg. Stefan Müller-Dohm, Smail Rapic und Tile Wesche (Berlin: Suhrkamp, 2024), 238-259.
初回にコピーを配布します。

【参考書】

ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を1冊持ってきてください。

独和辞典を所有していない方は、
『アクセス独和辞典』（三修社）
『大独和辞典』（小学館）
などを入手してください。
文法書を所有していない人は、
中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』（白水社）
などを持参してください。
その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点を重視します(89%)。予習に基づいて分かることと分からないことの区別をつけられる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。
大学院生は、レポート執筆ができます（11%）。

【学生の意見等からの気づき】

単にテキストを淡々と訳読することはありません。
文法について考えるのみではなく、書かれていることの背景となる意図や問題についてきちんと掘り起こして議論できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ネットワーク接続ができ、Zoomが使えるPCまたはタブレット、および、オンライン会議に使えるカメラとマイクを準備してください。
辞書は、電子辞書・スマートフォンアプリ・紙媒体のどれでも結構ですが、必ず持ってきてください。
文法書または文法教科書も、必ず持ってきてください。
(どちらも平常点の評価ポイントになります。)

【その他の重要事項】

事情によりオンラインで開講する場合があります（通算7回以内）。
ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。（昨年度は文法を初めて学ぶ学生もいました。）

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

哲学

<研究テーマ>

討議論・信用論

<主要研究業績>

- ・「専門家の知的権威への信用と民主主義的討議」、『政治思想研究』, 25号, 139-170, 2025年5月.
- ・「規範的メタ討議と理論的討議参加者の相互信用」、『法学志林』, 122(2), 1-36, 2024年10月.
- 「カント主義的プラグマティズムの超越論的問題設定」、『法学志林』, 120(4), 13-59, 2023年3月.

【Outline (in English)】

【Course Outline and Learning Objectives】

This course aims to develop academic reading skills in German by reading Forst's work.

【Learning activities outside of the classroom】

This course requires 2 hours of preparation.

【Grading Criteria /Policy】

Preparation of class materials and active participation in the classroom: 89%

Term paper: 11%

POL600A3（政治学 / Politics 600）

政治理論演習 2

上田 知夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、担当者が執筆中の原稿を検討することを通じて、政治哲学や哲学一般について議論し、理解することを目的とします。

【到達目標】

この授業の履修を通じて、公共性とプラグマティズムの間の関係について理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行います。したがって、事前配布のテキストの精読を前提とします。事前に指定箇所を精読し、その中で重要だと思われるものを2箇所指摘し、事前に提出していただきます。

授業では、皆さんから提出された論点について、全員で議論します。事前提出の論点については、授業中にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	公共性の問題についての導入とテキストの概要説明
第2回	公共性についてのテキストの検討	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第3回	公共性についてのテキストの検討（続き）	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第4回	公共性についてのテキストの検討（続き）	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第5回	公共性についてのテキストの検討（続き）	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第6回	公共性についてのテキストの検討（続き）	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第7回	公共性についてのテキストの検討（続き）	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第8回	公共性についてのテキストの検討（続き）	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第9回	公共性についてのテキストの検討（続き）	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第10回	公共性についてのテキストの検討（続き）	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第11回	公共性についてのテキストの検討（続き）	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第12回	公共性についてのテキストの検討（続き）	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第13回	公共性についてのテキストの検討（続き）	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第14回	まとめ	まとめおよび授業内で行った課題の総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は準備学習を基本とし、テキストとして指定された箇所を精読し、事前に議論すべき論点を2つ提案してから、出席してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。毎回担当者が執筆した授業資料を配布します。

【参考書】

参考書は授業内および授業資料内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回、該当のテキストを読んでから出席することを基本とし、
・事前にテキストについて授業で議論すべきことを2つ提出すること（52%）
・議論への参加度（42%）
・期末のレポート（8%）
を基準として成績評価します。
テキストを読まずに出席している場合、または、議論への貢献をしない場合は、議論への参加度を評価する平常点をつけられません。

【学生の意見等からの気づき】

書かれていることの背景となる意図や問題についてきちんと掘り起こして議論できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ネットワーク接続ができ、Zoomが使えるるPCまたはタブレット、および、オンライン会議に使えるカメラとマイク

【その他の重要事項】

事情によりオンラインで開講する場合があります（7回以内）。
オンラインで開催する回は、カメラをオンにして参加すること、および、指名された場合に口頭で回答することを出席の条件（平常点の対象）とします。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

哲学

<研究テーマ>

討議論・信用論

<主要研究業績>

・「専門家の知的権威への信用と民主主義的討議」、『政治思想研究』、25号、139-170、2025年5月。
・「規範的メタ討議と理論的討議参加者の相互信用」、『法学志林』、122(2)、1-36、2024年10月。
「カント主義的プラグマティズムの超越論的問題設定」、『法学志林』、120(4)、13-59、2023年3月。

【Outline (in English)】

【Course outline】Students will read the text on publicity and discuss the issues it raises.

【Learning Objectives】Students will learn basic ideas about publicity and pragmatism, and engage in discussions around them.

【Learning activities outside the classroom】Participation requires detailed reading of the text and the submission of two discussion points in advance.

【Grading Criteria /Policy】Submission of prior discussion points (52%) + Active participation (42%) + term paper (8%)

POL600A3（政治学 / Politics 600）

政治制度研究 1

河野 有理

備考（履修条件等）：公共政策学「政治制度研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治制度および日本政治思想史の重要問題について、文献を講読し議論することで、知見を深める。

【到達目標】

政治制度および日本政治思想史上の重大な問題について、研究上必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、文献を講読して議論する。

対面で行う予定。

文献は参加者と相談のうえで決める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文献講読1	テキストを読んでディスカッションする1
第2回	文献講読2	テキストを読んでディスカッションする2
第3回	文献講読3	テキストを読んでディスカッションする3
第4回	文献講読4	テキストを読んでディスカッションする4
第5回	文献講読5	テキストを読んでディスカッションする5
第6回	文献講読6	テキストを読んでディスカッションする6
第7回	文献講読7	テキストを読んでディスカッションする7
第8回	文献講読8	テキストを読んでディスカッションする8
第9回	文献講読9	テキストを読んでディスカッションする9
第10回	文献講読10	テキストを読んでディスカッションする10
第11回	文献講読11	テキストを読んでディスカッションする11
第12回	文献講読12	テキストを読んでディスカッションする12
第13回	文献講読13	テキストを読んでディスカッションする13
第14回	文献講読14	テキストを読んでディスカッションする14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が必要とする時間を用いて、事前にテキストを熟読し、事後に論点を整理する。

【テキスト（教科書）】

その都度指定する。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

参加状況、知識の獲得状況を総合的に判断し、平常点100点。

【学生の意見等からの気づき】

今後、アンケートをふまえて対応する。

【その他の重要事項】

本講義は、大学院における博士論文指導演習1Aと合同で実施する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治学

<研究テーマ>日本政治思想史

<主要研究業績>

『明六雑誌の政治思想』『田口卯吉の夢』

【Outline (in English)】

Deepen your knowledge of important issues in the history of Japanese political thought by reading and discussing literature.

POL600A3（政治学 / Politics 600）

政治制度研究 2

河野 有理

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本政治思想史の重要問題について、文献を講読し議論することで、知見を深める。

【到達目標】

日本政治思想史上の重大な問題について、研究上必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、文献を講読して議論する。

対面で行う予定。

文献は参加者と相談のうえで決める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文献講読1	テキストを読んでディスカッションする1
第2回	文献講読2	テキストを読んでディスカッションする2
第3回	文献講読3	テキストを読んでディスカッションする3
第4回	文献講読4	テキストを読んでディスカッションする4
第5回	文献講読5	テキストを読んでディスカッションする5
第6回	文献講読6	テキストを読んでディスカッションする6
第7回	文献講読7	テキストを読んでディスカッションする7
第8回	文献講読8	テキストを読んでディスカッションする8
第9回	文献講読9	テキストを読んでディスカッションする9
第10回	文献講読10	テキストを読んでディスカッションする10
第11回	文献講読11	テキストを読んでディスカッションする11
第12回	文献講読12	テキストを読んでディスカッションする12
第13回	文献講読13	テキストを読んでディスカッションする13
第14回	文献講読14	テキストを読んでディスカッションする14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が必要とする時間を用いて、事前にテキストを熟読し、事後に論点を整理する。

【テキスト（教科書）】

その都度指定する。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

参加状況、知識の獲得状況を総合的に判断し、平常点100点。

【学生の意見等からの気づき】

今後、アンケートをふまえて対応する。

【その他の重要事項】

本講義は、大学院における博士論文指導演習2Bと合同で実施する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治学

<研究テーマ>日本政治思想史

<主要研究業績>

『明六雑誌の政治思想』『田口卯吉の夢』

【Outline (in English)】

Deepen your knowledge of important issues in the history of Japanese political thought by reading and discussing literature.

POL600A3（政治学 / Politics 600）

行政学研究 1

林 嶺那

備考（履修条件等）：公共政策学・サステナビリティ学・連帯社会「行政学基礎」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになること、専門的な論文の読解ができるようになること、を本講義の目的とします。行政学における広範なテーマを扱う一方で、特定のテーマに関する専門的な論文も扱います。

【到達目標】

行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになり、専門的な論文の読解ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

予め指定した論文を読み、担当者が自らの作成したレジュメを元に報告を行います。その後、全体で議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の基本方針と進め方、論文報告の役割分担
第2回	論文の報告①	割り当てられた論文についての報告
第3回	「論文の報告①」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第4回	論文の報告②	割り当てられた論文についての報告
第5回	「論文の報告②」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第6回	論文の報告③	割り当てられた論文についての報告
第7回	「論文の報告③」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第8回	論文の報告④	割り当てられた論文についての報告
第9回	「論文の報告④」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第10回	論文の報告⑤	割り当てられた論文についての報告
第11回	「論文の報告⑤」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第12回	論文の報告⑥	割り当てられた論文についての報告
第13回	「論文の報告⑥」を踏まえたディスカッション	報告された論文に関する議論を行う
第14回	まとめ	これまで扱った論文について振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、割り当てられた論文の読解 60 分、論文報告資料準備 120 分で、合計 180 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

真淵勝（2020）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価 4290 円

曾我謙悟（2022）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価 2970 円

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーの提出（50%）

論文の報告（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

行政や政策に関するニュースを見る。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学

<研究テーマ> 人事行政

<主要研究業績> 林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】

The course aims to give students an overview of the primary research themes in public administration and enable them to read and understand research papers on specialized topics. While we will cover a wide range of issues in public administration, we will also deal with papers on specific issues. The standard preparation time for this class is 180 minutes in total: 60 minutes for reading the textbook and 120 minutes for preparing the presentation. 50% of the evaluation will be based on the comment papers, and the remaining 50% will be based on the presentation.

POL600A3 (政治学 / Politics 600)

行政学研究 2

林 嶺那

備考（履修条件等）：公共政策学・サステナビリティ学「行政学事例研究の方法」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、行政学における事例研究の理論と実践について理解を深め、事例研究を実践できるようになることを目的とする。なお、本講義では、事例研究を「より大きな事例の集合に、少なくとも部分的に光を当てることを目的とするような単一あるいは複数事例の研究」と定義する。

【到達目標】

行政学における事例研究の理論と実践について理解を深め、事例研究を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

指定した論文や著作に関する受講者の報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第2回	研究のタイプと研究論文の構造	記述的な研究と因果的な研究の区別を理解した上で、研究論文の基本的な構造を学ぶ。
第3回	事例研究のタイプ	事例研究のタイプに関する著作の一部を読む。
第4回	事例選択の基準	事例選択の基準に関する著作の一部を読む。
第5回	記述的な事例研究	記述的な事例研究に関する著作の一部を読む。
第6回	因果的な事例研究	因果的な事例研究に関する著作の一部を読む。
第7回	定性的研究と定量的研究の違い	定性的研究と定量的研究の違いを理解し、両者を組み合わせた混合手法について理解する。
第8回	事例研究の評価基準	事例研究の評価基準に関する著作の一部を読む。
第9回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。行政改革に関する論文を予定している。
第10回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。第一線公務員論に関する論文を予定している。
第11回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。リーダーシップに関する論文を予定している。
第12回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。ガバナンスに関する論文を予定している。
第13回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。途上国の行政に関する論文を予定している。
第14回	研究構想の発表	事例研究に基づく研究計画の構想を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備90分、論文内容の復習30分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

King, G., Keohane, R. O., & Verba, S., 1994, Designing social inquiry, Princeton university press.

Gerring, J., 2016, Case Study Research: Principles and Practices, Cambridge University Press.

Yin, R.K., 1994, Case Study Research: Design and Methods, Sage.

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（70%）

研究報告（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学

<研究テーマ>人事行政

<主要研究業績>林嶺那（2020）『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』東京大学出版会

【Outline (in English)】

This course aims to deepen students' understanding of the theory and practice of case studies in public administration and enable them to implement case studies. In this course, a case study is defined as a study on single or multiple cases that aims to shed light, at least partially, on a more extensive set of cases. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

POL600A3（政治学 / Politics 600）

政治史研究 1

細井 保

備考（履修条件等）：学部「政治学特殊講義 1」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の原典を購読する。今年度はさしあたりハンス・ケルゼンの『Vom Wesen und Wert der Demokratie デモクラシーの本質と価値』などを購読する予定。

【到達目標】

ケルゼンのデモクラシー論と純粋法学の関連を説明する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態としては演習形態を予定している。すなわち授業内での発表、リアクションペーパーの提出などを考えている。シラバス執筆段階では以下の授業計画を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期をはじめるにあたって	準備情報
2	Hans Kelsen	Vom Wesen und Wert der Demokratie
3	Hans Kelsen	Vom Wesen und Wert der Demokratie
4	Hans Kelsen	Vom Wesen und Wert der Demokratie
5	Hans Kelsen	Vom Wesen und Wert der Demokratie
6	Hans Kelsen	Vom Wesen und Wert der Demokratie
7	Hans Kelsen	Vom Wesen und Wert der Demokratie
8	春学期中間考察	前半をふりかえる
9	Hans Kelsen	Reine Rechtslehre
10	Hans Kelsen	Reine Rechtslehre
11	Hans Kelsen	Reine Rechtslehre
12	Hans Kelsen	Reine Rechtslehre
13	Hans Kelsen	Reine Rechtslehre
14	春学期総括考察	後半と全体をふりかえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読み、読書ノートを作成。

【テキスト（教科書）】

Hans Kelsen, Vom Wesen und Wert der Demokratie（デモクラシーの本質と価値）

Hans Kelsen, Reine Rechtslehre（純粋法学）

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告および討論）を総合して評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Diese Vorlesung beschäftigt sich mit den klassischen Werken bzw. Standardwerken der Politikwissenschaft.

English Keywords: classical works of political science

POL600A3（政治学 / Politics 600）

日本政治史研究 1

明田川 融

備考（履修条件等）：公共政策学「日本政治史研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、あらためて日本政治史において対日占領期の持つ意味を問う研究が上梓されている。本授業は、連合国といっても主力は米国であったが一による対日占領と、米国による琉球／沖縄占領とを比較しながら、第二次大戦後の日本占領について再検討・再評価を試みるものである。いわゆる日本本土占領および琉球／沖縄占領にかかわる一次資料・研究論文・文献の精読を踏まえたうえで、受講生と議論を行いたい。

【到達目標】

受講生は、占領史に関する先行研究を踏まえたうえで、日本政治史における対日、対琉球／沖縄占領の光と影の所産を的確に把握・評価できるようにすることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストとしては、福永文夫『日本占領史 1945-1952 東京・ワシントン・沖縄』（中央公論新社、2014年）および櫻澤 誠『沖縄現代史 米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』（中央公論新社、2015年）を精読し、議論する。なお、2回目以降となるが、授業のはじめに課題（試験やレポート等）に対して講評し、受講生に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	対日占領性政策の立案	SWINCC150シリーズ、JCS1380シリーズ、ボツダム宣言、ブラックリスト作戦の形成
第2回	対日占領のはじまり	その究極目的
第3回	統治体制の変革	象徴天皇制と主権在民への道
第4回	双面神の憲法構想	「平和憲法」と沖縄要憲法の相関
第5回	対日早期講和の提唱と安保問題	いわゆる芦田メモと沖縄の将来に関する昭和天皇メッセージ
第6回	戦後政党政治の起動	占領初期における本土と沖縄の政党活動
第7回	対日政策の転換	PPS28シリーズ～NSC13シリーズの形成
第8回	講和論争	日米で二分される国論
第9回	講和準備研究作業	NSC60/1への道、A・B・C・D作業
第10回	講和交渉	日米の外交指導
第11回	対日講和条約の成立	第3条（潜在主権方式）の形成を中心に
第12回	日米安保条約の成立	「安保条約の論理」を中心に
第13回	サンフランシスコ体制	その光と影を考察する
第14回	日本、琉球／沖縄占領とは何だったのか	日本政治史における占領の意味を考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業を履修する大学院生は、自ら関連する文献や資料を読んだり、レポート課題に取り組んだりすることにより、各々が適当と判断する時間の、授業時間外学習が必要となる。参考までに、本学学則に鑑みた場合、この授業の準備学習・復習時間は4時間以上が標準となる。

【テキスト（教科書）】

福永文夫『日本占領史 1945-1952 東京・ワシントン・沖縄』中央公論新社、2014年。
櫻澤 誠『沖縄現代史 米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』中央公論新社、2015年。

【参考書】

思想の科学研究会編『共同研究／日本占領』徳間書店、1972年。
竹前栄治『GHQ』岩波書店、1983年。
五百旗頭真『米国の日本占領政策 戦後日本の設計図』上・下、中央公論社、1985年。
坂本義和・R. E. ウォード編『日本占領の研究』東京大学出版会、1987年。
袖井林二郎『吉田茂＝マッカーサー往復書簡集 1945-1951』法政大学出版局、2000年。
賀茂道子『ウォー・ギルト・プログラム GHQ 情報教育政策の実像』法政大学出版局、2018年。

前田勇樹・古波蔵契・秋山道宏編『つながる沖縄近現代史—沖縄のいまを考えるための十五章と二十のコラム』ボーダーインク、2021年。
平良好利・高江洲昌哉編『戦後沖縄の政治と社会 「保守」と「革新」の歴史的位相』吉田書店、2022年。
沖縄県教育庁文化財課史料編集班『沖縄県史 各論編 第七巻 現代』沖縄県教育委員会、2022年。
宮城 修『ドキュメント 〈アメリカ世〉の沖縄』岩波書店、2022年。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみ（100％）。やや詳しくは、授業への積極的な貢献度（出席等）、報告（レジュメ）の内容やプレゼンテーションぶり、議論のようすなどをみて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】

受講生は学習支援システムを小まめにチェックするようにしてください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 日米関係史、日本政治外交史

<研究テーマ> 日米地位協定の成立過程

沖縄と日米安保体制の歴史

日本と核兵器との関係史

<主要研究業績および刊行物>

- ・『日米行政協定の政治史—日米地位協定研究序説—』法政大学出版局、1999年。
- ・『沖縄基地問題の歴史—非武の島、戦の島—』みすず書房、2008年（第30回沖縄協会・沖縄研究奨励賞[社会科学部部門]受賞）。
- ・『日米地位協定—その歴史と現在—』みすず書房、2017年。
- ・波多野澄雄・河野康子監修（明田川補）『沖縄返還関係資料』（第1回配本分、全7巻）現代史料出版、2017年。
- ・「核兵器と『国民の特殊な感情』」1～6（雑誌『みすず』に2013年6月号より2015年8月まで不定期連載）。

- ・ジョン・ハーシー『ヒロシマ 増補版』法政大学出版局、2003年（共訳）。
- ・ジョン・W. ダワー著『昭和 戦争と平和の日本』みすず書房、2010年（監訳）。
- ・ジョン・W. ダワー／ガバン・マコーマック著『転換期の日本へ 「バックス・アメリカナ」か「バックス・アジア」か』NHK出版、2014年（共訳）。
- ・『占領期年表 1945-1952年 沖縄・憲法・日米安保』創元社、2015年（監修）。

近年、広島・長崎・ビキニを経験した日本の核兵器に対する「国民感情」と政府の安全保障政策との連関について研究をまとめるべく、資料収集や分析視覚の検討を行っている。

また、1950年代半ばの沖縄で米軍により強行された土地強制収用にさいして、住民代表である立法院（県議会のような組織）がなしたことなく、なしえなかったことの実証にも取り組んできた。

現在は、波多野澄雄・筑波大学名誉教授および河野康子・法政大学名誉教授ならびに平良好利・中京大学准教授らによる監修で刊行が進められている沖縄施政権返還交渉関係資料集成の編集補佐がおもな仕事となっている。この仕事においては、第1回配本（全7巻）および第5回配本（全6巻）の解説を執筆した。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In recent years, remarkable literatures on Allied occupation of Japan proper and American occupation of Ryukyu (Okinawa) islands have been published. Political history of Japan 1 is an essay to revise and re-evaluate occupation of Japan. In this class, comparison perspective between occupation of Japan proper and that of Ryukyu (Okinawa) is used. Students must read a lot of articles, literatures, and historical documents.

【Learning objectives】

The goal of this course is to understand political process of the Allied Occupation of Japan.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution: 100%

POL600A3（政治学 / Politics 600）

日本政治史研究 2

明田川 融

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二次大戦後を扱った日本政治史において、一見して意外に思われるのが、沖縄・昭和天皇・安保を含む日米関係の連関である。そして、その生成および展開過程についての検証や考察が充分になされてきたとは言いがたい。本授業では、当該期の日本を取り巻く国際環境や日本が置かれた地理的条件などとも関連づけながら、戦後日本政治史においてあまり取りあげられてこなかった未解明の領域について知見を深め拡げていきたい。そのような作業は「昭和」の終焉から40年近くが経ち、平成も終わった今日、不可欠と考える。当該期にかかわる新発見史料、研究論文、文献の精読を踏まえたうえで、受講生と議論を行いたい。

【到達目標】

これまで、第二次大戦後を扱った日本政治史研究において最も欠落していたのは、沖縄および昭和天皇という、じつは密接な連関をもつ二つのファクターを十分に分析し、定位するという作業であった。本授業では、近年公開された沖縄をめぐる日米両政府の公文書や『昭和天皇拝謁記 初代宮内庁長官田島道治の記録』（古川隆久ほか編、岩波書店）を読み込みながら、戦後日本政治史についての知見をより深め、拡げることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストとして、田島道治著、田島恭二翻刻・編集、古川隆久・茶谷誠一・富永 望・瀬畑 源・河西秀哉・舟橋正真編、〈協力〉NHK『昭和天皇拝謁記 初代宮内庁長官田島道治の記録』（岩波書店、2021-2023年）および関連資料を精読し、議論する。

なお、2回目以降となるが、授業のはじめに課題に対して講評し、受講生に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	長官就任	1949年2月3日の条～同12月29日の条（以下、1949.2.3～12.29などと略記する）を精読する。なお、左記の「テーマ」と当該の条にある記述とは必ずしも一致しない場合もあります。
第2回	拝謁記執筆	1950.1.2～5.25を精読する。
第3回	憲法問題	1950.5.30～10.23を精読する。
第4回	共産主義	1950.10.31～1951.5.27を精読する。
第5回	逆コース	1951.5.29～6.27を精読する。
第6回	レッド・パージ	1951.8.3～9.4を精読する。
第7回	追放解除	1951.9.4～9.22を精読する。
第8回	朝鮮戦争	1951.9.22～10.23を精読する。
第9回	再軍備	1951.10.30～12.14を精読する。
第10回	講和問題	1951.12.17～1952.3.5を精読する。
第11回	安保条約	1952.3.5～1952.4.30を精読する。
第12回	沖縄	1952.5.3～1952.9.16を精読する。
第13回	米軍駐留	1952.9.19～1952.12.19を精読する。
第14回	「拝謁記」が語ること	1952.12.24～1953.12.15を精読する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業を履修する大学院生は、自ら関連する文献や資料を読んだり、レポート課題に取り組んだりすることにより、各々が適当と判断する時間の、授業時間外学習が必要となる。参考までに、本学学則に鑑みた場合、この授業の準備学習・復習時間は4時間以上が標準となる。

【テキスト（教科書）】

田島道治著、田島恭二翻刻・編集、古川隆久・茶谷誠一・富永 望・瀬畑 源・河西秀哉・舟橋正真編、〈協力〉NHK『昭和天皇拝謁記 初代宮内庁長官田島道治の記録』1～7（岩波書店、2021～2023年）。

【参考書】

豊下 栢彦『安保条約の成立—吉田外交と天皇外交』（岩波書店、1996年）。
同上『昭和天皇・マッカーサー会見』（岩波書店、2008年）。
同上『昭和天皇の戦後日本—〈憲法・安保体制〉にいたる道—』（岩波書店、2015年）。
吉次公介「知られざる日米安保体制の“守護者”—昭和天皇と冷戦」『世界』第755号所収。
古川隆久『昭和天皇—「理性の君主」の孤独—』（中央公論新社、2011年）。

宮内庁『昭和天皇実録 第九』（東京書籍、2016年）。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみ（100％）。やや詳しくは、授業への積極的な貢献度（出席等）、報告（レジュメ）の内容やプレゼンテーションぶり、議論のようすなどをみて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスできるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】
受講生は学習支援システムを小まめにチェックするようにしてください。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 日米関係史、日本政治外交史
＜研究テーマ＞ 日米地位協定の成立過程
沖縄と日米安保体制の歴史
日本と核兵器との関係史

＜主要研究業績および刊行物＞

・『日米行政協定の政治史—日米地位協定研究序説—』法政大学出版局、1999年。
・『沖縄基地問題の歴史—非武の島、戦の島—』みすず書房、2008年（第30回沖縄協会・沖縄研究奨励賞[社会科学部門]受賞）。
・『日米地位協定—その歴史と現在—』みすず書房、2017年。
・波多野澄雄・河野康子監修（明田川補）『沖縄返還関係資料』（第1回配本分、全7巻）現代史料出版、2017年。
・「核兵器と『国民の特殊な感情』」1～6（雑誌『みすず』に2013年6月号より2015年8月まで不定期連載）。
・ジョン・ハーシー『ヒロシマ 増補版』法政大学出版局、2003年（共訳）。
・ジョン・W. ダワー著『昭和 戦争と平和の日本』みすず書房、2010年（監訳）。
・ジョン・W. ダワー／ガバン・マコーマック著『転換期の日本へ 「バックス・アメリカーナ」か「バックス・アジア」か』NHK出版、2014年（共訳）。
・『占領期年表 1945-1952年 沖縄・憲法・日米安保』創元社、2015年（監修）。
近年、広島・長崎・ビキニを経験した日本の核兵器に対する「国民感情」と政府の安全保障政策との連関について研究をまとめるべく、資料収集や分析視覚の検討を行っている。

また、1950年代半ばの沖縄で米軍により強行された土地強制収用にさいして、住民代表である立法院（県議会のような組織）がなしたとこと、なしえなかったことの実証にも取り組んできた。

現在は、波多野澄雄・筑波大学名誉教授および河野康子・法政大学名誉教授ならびに平良好利・中京大学准教授らによる監修で刊行が進められている沖縄施政権返還交渉関係資料集の編集補佐がおもな仕事となっている。この仕事においては、第1回配本（全7巻）および第5回配本（全6巻）の解説を執筆した。

【Outline (in English)】
【Course outline】

Political history of Japan 2 is an essay to clarify the relation among Okinawa, Showa emperor and U.S.-Japan security arrangements. At a glance, students feel strange about the relation of the three. But recent years, some historical materials were discovered and have shown the evidences of the relation. Today—30 years after the Showa period— it is essential for us to examine newly found historical fact.

【Learning objectives】

The goals of this course are to understand the political history of post-war Japan and the role of Showa Emperor.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class contribution: 100%

POL600A3（政治学 / Politics 600）

政治思想史研究 1

犬塚 元

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治思想史、政治思想、政治理論などの研究の基礎となるスキルと知識を修得するために、英語で書かれた学術論文を丁寧に輪読する授業です（演習形式）。テキストは、履修者の研究テーマをふまえて決定します。原則として隔週に2コマ連続で開講。

【到達目標】

（1）英語で書かれた学術論文を正確に読解する。（2）政治思想史、政治思想、政治理論研究の基礎的な知識とスキルを修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指定文献を丁寧に読解します。各回の授業は、担当者による報告と、ディスカッションによって構成されます。報告者のみならず、すべての参加者が文献を精読していることを前提にして授業は行われます。原則として隔週に2コマ連続で開講（授業予定日 4/13、27、5/18、6/1、15、29、7/6。予備日7/20）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の方法と内容
第2回	イントロダクション	研究の基本スキル
第3回	文献読解1	文献1（1）
第4回	文献読解1	文献1（2）
第5回	文献読解2	文献2（1）
第6回	文献読解2	文献2（2）
第7回	文献読解3	文献3（1）
第8回	文献読解3	文献3（2）
第9回	文献読解4	文献4（1）
第10回	文献読解4	文献4（2）
第11回	文献読解5	文献5（1）
第12回	文献読解5	文献5（2）
第13回	文献読解6	文献6（1）
第14回	文献読解6	文献6（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります。

【テキスト（教科書）】

受講者の問題関心や研究テーマに即して講読文献を選定します。たとえば、Oxford HandbookシリーズやCambridge Companionシリーズなどに収録された論文や、学術ジャーナル掲載論文などが候補となります。

【参考書】

必要に応じて毎回の授業で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100点）。毎回参加することが成績評価の大前提です。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のニーズに応じてカスタマイズしたプログラムとします。

【学生が準備すべき機器他】

この授業で購読してみたい論文の複数候補をリストアップしておくのが望ましい。

【その他の重要事項】

他専攻所属の学生も履修できます。

【担当教員の専門分野等】

専門領域：政治学史、政治思想史

主要研究業績：『デイヴィッド・ヒュームの政治学』（著書）東京大学出版会、2004、『岩波講座政治哲学2』（編著書）岩波書店、2014、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』（翻訳）岩波文庫、2020など

【Outline (in English)】

A graduate seminar on the history of political thought, This class contribute to the improvement of your research skill on the history of ideas. Students are required to prepare for the class for more than four hours every week. Students will be graded on the basis of their regular performance.

POL600A3（政治学 / Politics 600）

政治思想史研究 2

犬塚 元

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治思想史、政治思想、政治理論などの研究の基礎となるスキルと知識を修得するために、英語で書かれた学術論文を丁寧に輪読する授業です（演習形式）。テキストは、履修者の研究テーマをふまえて決定します。原則として隔週に2コマ連続で開講。

【到達目標】

（1）英語で書かれた学術論文を正確に読解する。（2）政治思想史、政治思想、政治理論研究の基礎的な知識とスキルを修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指定文献を丁寧に読解します。各回の授業は、担当者による報告と、ディスカッションによって構成されます。報告者のみならず、すべての参加者が文献を精読していることを前提にして授業は行われます。原則として隔週に2コマ連続で開講（授業予定日 9/21、10/5、26、11/9、23、12/7、21。予備日10/12、1/18）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の方法と内容
第2回	イントロダクション	研究の基本スキル
第3回	文献読解1	文献1（1）
第4回	文献読解1	文献1（2）
第5回	文献読解2	文献2（1）
第6回	文献読解2	文献2（2）
第7回	文献読解3	文献3（1）
第8回	文献読解3	文献3（2）
第9回	文献読解4	文献4（1）
第10回	文献読解4	文献4（2）
第11回	文献読解5	文献5（1）
第12回	文献読解5	文献5（2）
第13回	文献読解6	文献6（1）
第14回	文献読解6	文献6（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります。

【テキスト（教科書）】

受講者の問題関心や研究テーマに即して講読文献を選定します。たとえば、Oxford HandbookシリーズやCambridge Companionシリーズなどに収録された論文や、学術ジャーナル掲載論文などが候補となります。

【参考書】

必要に応じて毎回の授業で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100点）。毎回参加することが成績評価の大前提です。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のニーズに応じてカスタマイズしたプログラムとします。

【学生が準備すべき機器他】

この授業で購読してみたい論文の複数候補をリストアップしておくのが望ましい。

【その他の重要事項】

他専攻所属の学生も履修できます。

【担当教員の専門分野等】

専門領域：政治学史、政治思想史

主要研究業績：『デイヴィッド・ヒュームの政治学』（著書）東京大学出版会、2004、『岩波講座政治哲学2』（編著書）岩波書店、2014、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』（翻訳）岩波文庫、2020など

【Outline (in English)】

A graduate seminar on the history of political thought, This class contribute to the improvement of your research skill on the history of ideas. Students are required to prepare for the class for more than four hours every week. Students will be graded on the basis of their regular performance.

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

公共哲学研究1

宮川 裕二

備考（履修条件等）：公共政策学・サステナビリティ学「公共哲学基礎」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策論の理論的な基礎をなす考え方を培うことを目指して設置されている科目の一つである。近代以降の社会思想の展開をたどり、「自由」と「公共」という公共哲学の基礎的な概念について理解し、現代の公共的課題を探究できる能力を涵養することを目的とする。

【到達目標】

公共哲学の基礎的な概念である「自由」と「公共」、およびそれらの関連について理解し、それを踏まえて現代の公共的課題を探究できる能力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキスト（教科書）を講読する。受講生は分担して、指定された文献の箇所について要点と論点を整理して授業で報告し、教員のサジェストを交えつつ全体で議論と考察をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	導入的講義／文献講読：坂本後掲書序章・第1章	導入的講義、「社会思想とは何か」、「マキアヴェリ」の社会思想
第3,4回	文献講読：坂本後掲書第2章・第3章	「宗教改革の社会思想」、「古典的『社会契約』思想の展開」
第5,6回	文献講読：坂本後掲書第4章・第5章	「啓蒙思想と文明社会論の展開」、「ルソーの文明批判と人民主権論」
第7,8回	文献講読：坂本後掲書第6章・第7章	「スミスにおける経済学の成立」、「『哲学的急進主義』の社会思想——保守から改革へ」
第9,10回	文献講読：坂本後掲書第8章・第9章	「近代自由主義の批判と継承——後進国における『自由』」、「マルクスの資本主義批判」
第11,12回	文献講読：坂本後掲書第10章・第11章	「J・S・ミルにおける文明社会論の再建」、「西欧文明の危機とヴェーバー」
第13,14回	文献講読：坂本後掲書第12章・第13章・終章	「『全体主義』批判の社会思想——フランクフルト学派とケインズ、ハイエク」、「現代『リベリズム』の諸潮流」、「社会思想の歴史から何を学ぶか」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は文献を準備学習し、授業の後は復習を行う。また報告（分担制）のためのレジュメ作成を含む準備と、授業の最終回に提示する期末レポートの作成を行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂本達哉『社会思想の歴史——マキアヴェリからロールズまで』（名古屋大学出版会、2014年）を文献講読のテキストとする。各章とも、社会思想家の思想内容が要領よく整理されていると同時に、まとめとしてその思想が「自由」と「公共」という概念にどのように結び付いているのかが提示されており、本科目の趣旨に相応しい文献と思われる。

【参考書】

必要に応じて授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（50%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度授業改善アンケートの結果が得られていないためフィードバックできない。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

公共政策の政治社会学

<研究テーマ>

新しい公共、ガバナンス、統治性研究、地方自治

<主要研究業績>

『「新しい公共」とは何だったのか—四半世紀の軌跡と新自由主義統治性』（風行社、2023年）

『「公共」のオルタナティブは可能か—「新しい公共」言説の検証から』（『世界』2023年9月号、2023年）

『統治性研究・ガバナンス理論と国家・政治の概念に関する一断章』（『インフォーマルな政治の探究—政治学はどのような政治を語りうるか』所収、吉田書店、2025年）

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this course is to understand the fundamental concepts of public philosophy, namely "freedom" and "public," by tracing the development of social thought since the modern era, and to cultivate students' ability to investigate contemporary public issues.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to develop an understanding of the fundamental concepts of public philosophy, namely "freedom" and "public" and their correlations, and to acquire the ability to investigate contemporary public issues based on this understanding.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have read the relevant chapter from the text and review it after the class. In addition, students are expected to share in the preparation of in-class reports, and to write a term-end report to be presented at the end of the class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process; in-class report (30%), term-end report (50%), and in-class contribution(20%).

POL500A3（政治学 / Politics 500）

公共哲学研究 2

西谷内 博美

備考（履修条件等）：公共政策学「公共哲学研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において、環境主義の言説は広く受け入れられつつあります。本科目では、現代環境思想への理解を深めることを目的に、環境主義の古典（重要文献）を講読します。

【到達目標】

- ・環境保全に関する言説の展開や背景、論理について説明できる。
- ・「持続可能な開発」の含意について、批判的に考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講読対象となる文献は「Our Common Future: Report of the World Commission on Environment and Development」です。この文献は、現在進行中のSDGsが目指す「持続可能な開発」という概念を定義した国連の報告書であり、オンラインで入手可能です。序章・第1章・第2章は必須で、その他の章は時間が許す限り扱います（つまり、以下の授業計画は暫定的なものです）。原則として授業では、受講者がレジюмеを作成し、その報告に基づいて文献の検討を行います。報告に対しては、授業中に参加者全員で質疑・議論を行い、講評を通じてフィードバックを行います。また、毎回の授業の最後にリアクションペーパーを書き、個々の学びを振り返り整理します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入的講義	・授業の内容と進め方を共有する。とりわけ、講読の方法・方針を共有する。 ・SDGsの二本柱となっている環境主義と南北問題の大きな流れを確認する
第2回	「ブルントラント委員長の緒言」と「序章」のはじめ	・「ブルントラント委員長」の緒言から当報告書の主題・背景・意義・成り立ちなどを確認する ・デモンストレーションとして、講師が「序章」の序文から第1節までの精読のプロセスをファシリテートする
第3回	序章 『地球は一つ』から『世界は一つ』へ	2. 政策の方向性 3. 国際協力と制度改革 4. 行動の呼びかけ
第4回	第1章 脅かされる未来	1. 症状と原因 2. 環境と開発への新たなアプローチ
第5回	第2章 持続可能な開発に向けて	1. 持続可能な開発の概念 2. 公平性と共通の利益 3. 戦略的要請
第6回	第3章 国際経済の役割	1. 国際経済、環境、そして開発 2. 1980年代の減少 3. 持続可能な開発の実現

第7回	第12章 共同の行動に向けて	1. 制度的・法的改革への挑戦 2. 制度的・法的改革の提案 3. 行動の呼びかけ
-----	----------------	---

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は、各4時間を標準とします。文献は事前に精読してください。授業後には、その内容を復習してください。さらに、担当箇所のファシリテーション準備と、期末レポートの作成も必要です。

【テキスト（教科書）】

「Our Common Future: Report of the World Commission on Environment and Development」(<https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/5987our-common-future.pdf>)

【参考書】

the World Commission on Environment and Development, 1987, "Our Common Future" Oxford University Press (=1987, 大来佐武郎監訳『地球の未来を守るために』福武書店.)

【成績評価の方法と基準】

レジюмеによる報告（30%）及び期末レポート（30%）に加え、授業中の質疑や討論における発言などの授業参加（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、事前にクリティカル・リーディングの方法を共有することに時間を割いた結果、より質の高い精読が実現されました。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なPCのご準備を推奨します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境社会学、国際社会学、アカデミックライティング
<研究テーマ>廃棄物管理、開発援助、アカデミックライティング
<主要研究業績>
2024「社会人大学院生の論文執筆に関する特性実務上の執筆習慣と干渉するか」『公共政策志林』12: 1-18.
2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂。
2016『開発援助の介入論』東信堂。

【Outline (in English)】

(Course outline) In contemporary society, the discourse of environmentalism is becoming widely accepted. This course aims to deepen the understanding of modern environmental thought by reading a classical work (important text) of environmentalism .
(Learning Objectives) At the end of the course, students should be able to :
・ explain the recent environmental policies in terms of their historical background, achievements, limitations, and so on.
・ take a critical look at the meaning of "sustainable development".
(Learning activities outside of classroom) Students are required to read the relevant chapter(s) from the text prior to every class meeting. It takes you more than four hours to study for each class meeting.
(Grading Criteria /Policy) Reporting in class (including regime) 30%, Term-end essay 30%, and Class contributions 40%.

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

コミュニティ論研究2

西谷内 博美

備考（履修条件等）：公共政策学「コミュニティ制度論」と合同
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティとは、合併によって制度的枠組を失った身近な地域的まとまりである。という観点から、このコミュニティを再制度化する政策ないし制度を国際比較的に考察する。これによってコミュニティ政策というもののについて基礎的な理解を得ることが目的である。

【到達目標】

・「参加」と「協働」、「地域的まとまり」や「都市内分権」といった概念を用いて、現実のさまざまなコミュニティの制度を比較分析することができる。
 ・コミュニティの制度について、それぞれの地域の歴史文化的特性を踏まえたうえで、制度の特徴や課題について考察し説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストの問題意識や理論・分析枠組みに依拠し、基本的にはテキストで扱われている都市を対象として、コミュニティの制度を分析します。あわせて、テキスト刊行後17年間における状況の変化にも目を向けます。

第3～7回は受講生がレジュメを作成し、その報告に基づいて授業を進めます。報告後には、参加者全員による質疑・議論を行い、担当教員が講評を通じてフィードバックを行います。また、時間調整を兼ねて、毎授業回の後半にインドの事例についての考察を進めます。また、毎回の授業の最後にリアクションペーパーを作成し、各自の学びを振り返り、理解の整理を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入的講義	・授業の内容と進め方を共有する。 ・コミュニティの制度を分析するためのキー概念・視角を共有する（テキスト第1章）
第2回	日本のコミュニティの制度	・自治会・町内会 ・日本型都市内分権（テキスト第2章） ・宮崎市の制度分析
第3回	ドイツの制度	・テキスト第3章 ドイツ・ブレーメン市 ・（残りの時間）インド農村部の制度
第4回	スコットランドの制度	・テキスト第4章 スコットランド・エディンバラ市 ・（残りの時間）インド都市部の制度
第5回	フランスの制度	・テキスト第5章補論 フランスのリヨン大都市圏 ・（残りの時間）インド、廃棄物管理とコミュニティ

第6回	フィリピンの制度	・テキスト第7章 フィリピンのケソン市 ・（残りの時間）インド、デリー州のバギダリ政策
第7回	テキスト外事例	・テキスト外の事例を対象としてコミュニティの制度を分析する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は、各4時間を標準とします。文献は事前に精読してください。授業後には、その内容を復習してください。
 さらに、担当箇所のファシリテーション準備と、期末レポートの作成も必要です。

【テキスト（教科書）】

名和田是彦編, 2009, 『コミュニティの自治』日本評論社。
 （※もし入手が難しい場合には、法外な価格で購入する前にご相談ください）

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（30%）に加え、授業中の質疑や討論における発言などの授業参加・貢献（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なPCのご準備を推奨します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境社会学、国際社会学、アカデミックライティング
 <研究テーマ>廃棄物管理、開発援助、アカデミックライティング
 <主要研究業績>

2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂。

2016『開発援助の介入論』東信堂。

2011『デリー準州のバギダリ（Bhagidari）政策』『国際開発研究』20(1):67-80。

2009『廃棄物管理における慣習の逆機能』『環境社会学研究』15: 89-103。

【Outline (in English)】

Viewing communities as local units that have lost their institutional framework as a result of municipal mergers, this course conducts an international comparative analysis of policies and institutions designed to re-institutionalize such communities. Through this analysis, students will acquire a basic understanding of community policy.

・ Students will be able to comparatively analyze institutional arrangements of various real-world communities.

・ Students will be able to examine and explain the characteristics and challenges of community institutions with due consideration of the historical and cultural contexts of each region.

Students are required to read the relevant chapter(s) from the text prior to every class meeting. It takes you more than four hours to study for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Reporting in class (including regime) 30%, Term-end essay 30%, and Class contributions 40%.

POL500A3（政治学 / Politics 500）

公共政策研究 1

西谷内 博美

備考（履修条件等）：公共政策学・サステナビリティ学・連帯社会「政策学基礎」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『公共政策学の基礎 第3版』を用い、クリティカル・リーディングの手法で読解を進めます。そうすることで、公共政策学の理解に必要な基礎知識を、体系的に習得、あるいは再確認することを目的とします。

【到達目標】

- ・公共政策に関する基礎的な理論やキーワードを説明できる。
- ・政策学の全体像を体系的に捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキスト内在的に学習を進めます。つまり、テキストに即して体系的に、知識を習得、整理、補足します。

原則として、受講者がレジュメを作成し、その報告に基づいて各授業の内容を検討します。報告に対しては、授業中に参加者全員で質疑・議論を行い、講評を通じてフィードバックを行います。

また、毎回の授業の最後にリアクションペーパーを書き、個々の学びを振り返り整理します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入的講義	・授業の内容と進め方を共有する。 ・発表のデモンストレーション：第1章
第2回	公共政策とは何か？	・テキスト第2章
	／アジェンダ設定	・テキスト第3章
第3回	政策問題の構造化／	・テキスト第4章
	公共政策の手段	・テキスト第5章
第4回	規範的判断／政策決定と合理性	・テキスト第6章 ・テキスト第7章
第5回	政策決定と利益／政策決定と制度	・テキスト第8章 ・テキスト第9章
第6回	政策決定とアイディア／公共政策の実施	・テキスト第10章 ・テキスト第11章
第7回	公共政策の評価／公共政策管理のシステム	・テキスト第12章 ・テキスト第13章

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は、各4時間を標準とします。

文献は事前に精読してください。授業後には、その内容を復習してください。

さらに、担当箇所のファシリテーション準備と、期末レポートの作成も必要です。

【テキスト（教科書）】

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉, 2020, 『公共政策学の基礎 第3版』有斐閣。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（30%）に加え、授業中の質疑や討論における発言などの授業参加（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、少人数だったこともあり、時間をかけて十分に議論を深めることができました。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なPCのご準備を推奨します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境社会学、国際社会学、アカデミックライティング

<研究テーマ>廃棄物管理、開発援助、アカデミックライティング

<主要研究業績>

2024「社会人大学院生の論文執筆に関する特性実務上の執筆習慣と干渉するか」『公共政策志林』12: 1-18.

2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂.

2016『開発援助の介入論』東信堂.

【Outline (in English)】

(Course outline) The goal is to systematically acquire or revisit the foundational knowledge necessary to understand public policy studies.

(Learning Objectives) Be able to explain the basic theories and key terms related to public policy.

(Learning activities outside of classroom) Students are required to read the relevant chapter(s) from the text prior to every class meeting. It takes you more than four hours to study for each class meeting.

(Grading Criteria /Policy) Reporting in class (including regime) 30%, Term-end essay 30%, and Class contributions 40%.

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

公共政策研究 2

西谷内 博美

備考（履修条件等）：公共政策学「政策学研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策学分野の研究論文を対象に、主題・理論・方法といった研究の構成要素に着目して分析を行います。これを通じて、政策学の先行研究に対する理解を深めるとともに、研究の捉え方に関する視野を広げ、実践的な方法論を身に付けることを目的とします。

【到達目標】

- ・政策学分野の研究論文を対象として、研究の構成要素を整理・分析することができる。
- ・研究の構成要素に基づいて、政策学分野における研究を構想することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の前半では、既存の研究論文を対象に、研究の構成要素の分析を行います。後半では、これまでの分析を踏まえ、研究の構成要素に則して、受講生が自らの政策学研究を構想します。

原則として受講生がレジュメを作成し、その報告に基づいて授業を進めます。報告後には、参加者全員による質疑・議論を行い、担当教員が講評を通じてフィードバックを行います。

また、毎回の授業の最後にリアクションペーパーを作成し、各自の学びを振り返り、理解の整理を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入的講義	・授業の目的、内容、進め方の共有 ・研究の構成要素に関する基礎的理解の共有（主題、対象、主張、メソッド、視角、レシピ、オリジナリティ、研究の系譜） ・研究論文分析のデモンストラーション
第2回	先行研究の分析・1	受講生にとっての重要な先行研究を対象に、研究の構成要素の分析を行う（受講者A・B想定）
第3回	先行研究の分析・2	先行研究の分析（受講者C・D想定）
第4回	先行研究の分析・3	先行研究の分析（受講者E・F想定）
第5回	政策学研究の構想・1	研究の構成要素に則して、受講生が自らの政策学研究を構想する。（受講者A・B想定）
第6回	政策学研究の構想・2	受講生の研究構想（受講者C・D想定）
第7回	政策学研究の構想・3	受講生の研究構想（受講者E・F想定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は、各4時間を標準とします。
文献は事前に精読してください。授業後には、その内容を復習してください。

さらに、担当箇所のファシリテーション準備と、期末レポートの作成も必要です。

【テキスト（教科書）】

指定しない

【参考書】

小熊英二, 2022, 『基礎からわかる——論文の書き方』講談社。
秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉, 2020, 『公共政策学の基礎 第3版』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（30%）に加え、授業中の質疑や討論における発言などの授業参加（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なPCのご準備を推奨します。

【その他の重要事項】

本科目は、「学術論文作成演習—基礎」と「政策学基礎」を統合する位置づけにあります。

研究を構成する要素については主に「学術論文作成演習—基礎」で扱い、それらの要素に具体的な内容を与えるテーマや理論については、「政策学基礎」で学ぶ内容と重なる部分が多く含まれます。

これらの科目の履修は必須ではありませんが、本科目における学習効果を高める目的において履修を推奨します

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境社会学、国際社会学、アカデミックライティング
<研究テーマ>廃棄物管理、開発援助、アカデミックライティング
<主要研究業績>

2024「社会人大学院生の論文執筆に関する特性実務上の執筆習慣と干渉するか」『公共政策志林』12: 1-18.

2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂.

2016『開発援助の介入論』東信堂.

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course analyzes research articles in the field of policy studies by focusing on key components of research such as the research topic, theoretical framework, and methodology. Through this process, the course aims to deepen students' understanding of policy studies, broaden their perspectives on how research is conceptualized, and enable them to acquire practical methodological skills.

(Learning Objectives)

- ・ Students will be able to analyze and identify the core components of research in scholarly articles in the field of policy studies.
- ・ Students will be able to design and conceptualize research in the field of policy studies.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have completed their assignment(s). It is necessary for you to spend more than four hours studying for each class meeting.

(Grading Criteria /Policy)

Reporting in class (including regime) 30%, Term-end essay 30%, and Class contributions 40%.

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

政治過程研究 1

山口 二郎

備考（履修条件等）：連帯社会「政治学概論」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の民主政治において政策が立案，決定，実施される過程を理解するための基本的な理論枠組み，概念を理解する。

【到達目標】

日本の民主政治の特徴を理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義。

授業を補完するために課題を出しますので、提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	冷戦崩壊とグローバル化によって、日本の戦後はどう変わったのかを論じる。
第2回	1-1 政治とは何か	政治という活動の定義を明らかにする。
第3回	1-2 政治とは何か 2	政府の仕事とは何か、他のシステムとの対比で明らかにする。
第4回	1-3 市場と政府	市場に対する政府の任務を明らかにする。
第5回	2-1 政治に参加するということ	政治参加と民主主義を論じる。
第6回	2-2 政治に参加するということ	多数決と民主主義の関係について考える。
第7回	3 人間の不完全性と民主政治	人間の不完全性と民主政治－人間の認識におけるステレオタイプと言葉の問題について考える。
第8回	4-1 民主政治の理念とは何か	政治と生命の関係を考える。
第9回	4-2 民主政治の理念とは何か 2	政治における自由と平等について考える。
第10回	4-3 民主政治の理念とは何か 3	政治における共同体と国家について考える。
第11回	5-1 民主政治の基本的な原理と構成	民主政治と議会政治について考える。
第12回	5-2 民主政治の基本的な原理と構成 2	民主政治における政党と政治家、官僚制について考える。
第13回	6 政治はどのように展開されるのか	政策形成の動態について観察し、そのメカニズムを明らかにする。
第14回	7 民主政治のこれから	これからの民主政治の可能性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山口二郎 今を生きるための政治学 岩波書店

【参考書】

文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】

課題レポートと期末レポートの総合による

【学生の意見等からの気づき】

双方向的な議論の時間を確保したい

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムから講義の資料をあらかじめダウンロードしておくこと。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞政治学、行政学

＜研究テーマ＞現代日本の政策過程、政官関係

＜主要研究業績＞

内閣制度（東京大学出版会、2007年）

政権交代とは何だったのか（岩波書店、2012年）

【Outline (in English)】

1 Aim

This lecture aims at providing basic theoretical framework and concepts to understand dynamics of modern democracy.

2 Method

Students need to read the textbook and other material and try to adapt concepts explained in lectures to actual political phenomena through reading news.

3 Grading

Grading will be decided based on mid-term essay(30%) and term-end examination(70%).

POL500A3（政治学 / Politics 500）

政治過程研究 2

山口 二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Francis Fukuyama, Liberalism and Its Discontents (Picador Paper, 2023)

上記の文献を講読する。

欧米におけるポピュリズムの隆盛、政党政治の機能不全が民主政治に及ぼす影響と、民主政治再建のための諸課題について考える。

【到達目標】

現代民主主義の変化、危機について理解を深める。

民主政治の再生の道筋について考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、テキストを読み、翻訳しながら、著者の主張について吟味する。参加者は毎回指定された部分をあらかじめ読み、翻訳を準備すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Liberalism and Its Discontents chapter 1	訳読と討論
第2回	Liberalism and Its Discontents chapter 1	訳読と討論
第3回	Liberalism and Its Discontents chapter 1	訳読と討論
第4回	Liberalism and Its Discontents chapter 2	訳読と討論
第5回	Liberalism and Its Discontents chapter 2	訳読と討論
第6回	Liberalism and Its Discontents chapter 2	訳読と討論
第7回	Liberalism and Its Discontents chapter 3	訳読と討論
第8回	Liberalism and Its Discontents chapter 3	訳読と討論
第9回	Liberalism and Its Discontents chapter 3	訳読と討論
第10回	Liberalism and Its Discontents chapter 4	訳読と討論
第11回	Liberalism and Its Discontents chapter 4	訳読と討論
第12回	Liberalism and Its Discontents chapter 4	訳読と討論
第13回	Liberalism and Its Discontents chapter 4	訳読と討論
第14回	Liberalism and Its Discontents chapter 4	訳読と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Colin Crouch, Post-Democracy After the Crises, Polity 2020

【参考書】

コリン・クラウチ ポストデモクラシー 青灯社 2007年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

予習の負担は大きい、それだけ得られるものがあるというのが先輩の感想。

【担当教員の専門分野等】

現代政治

民主主義論

民主主義へのオデッセイほか

【Outline (in English)】

This seminar aims at investigating changes and crisis of contemporary liberal democracy caused by deterioration of party politics, through reading Liberalism and Its Discontents written by Francis Fukuyama.

POL500A3（政治学 / Politics 500）

行政理論研究 1

南島 和久

備考（履修条件等）：公共政策学・サステナビリティ学「政策評価論」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990年代後半には日本の公的部門において評価がブームとなった。自治体では行政評価と呼ばれる手法が定着し、国では中央省庁等改革に伴い政策評価制度が導入された。しかし、そもそも政策評価が何であるのか、どのようにすればこれを活用できるのかといった点については、十分な議論が交わされてこなかった。本講義では、これら公的部門の評価のあり方を議論する。その際、歴史を踏まえつつ理論的な検討を行うとともに海外の取組との比較も視野に入れる。

【到達目標】

本科目では、政策評価論を構成する基礎概念を順次紹介する。これら基礎概念の理解を本科目の基礎的な到達目標とする。ポイントは以下の3点である。

- ①政策評価の類型に関する理解
政策分析、業績測定、プログラム評価の概念の理解
- ②政策評価の歴史に関する理解
PPBS、GAOのプログラム評価、GPRA/GPRAMAの史的展開
日本の政策評価の史的展開に関する理解
- ③政策評価の理論に関する理解
ロジックモデル、評価階層、アカウンタビリティの理解
政策分析とプログラム評価、業績測定とプログラム評価の論争
政策評価にかかる実用主義と科学主義に関する論争など

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義はオンラインにて行う。授業は2コマ連続で実施する。スケジュールは授業計画の内容をイメージしているが、各回のテーマは受講生の関心を考慮して変更することがある。テーマに沿った形での討論を交える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション ：行政学、政策学との関係について議論する。	この科目について、成績評価の方法についてなど
第2回	政策の概念：公共政策学と評価学の政策のイメージの違い、ロジックモデルについて概説する。	政策の合理性、体系性、循環性、ロジックモデル
第3回	評価の概念：政策分析、プログラム評価、業績測定の違いを概説する。	政策分析、プログラム評価、業績測定の違い
第4回	政策分析：政策分析に関して、公共事業評価、規制影響分析について学ぶ。	費用便益分析、公共事業評価、規制評価

第5回	業績測定と自治体① ：自治体評価がどのように組み立てられたのか。三重県の事例も含めて概説する。	事務事業評価、総合計画の評価
第6回	業績測定と自治体② ：自治体評価において用いられる必要性、有効性、効率性の規準を議論する。また、政治と評価について議論する。	計画と評価、マニフェストと評価
第7回	業績測定と独立行政法人①：国の独立行政法人の評価とその課題について議論する。	NPMと評価、独法の歴史、3つの独法形態と評価
第8回	業績測定と独立行政法人②：地方独法の評価とその課題について議論する。	地方独立行政法人、公立大学の評価、公立病院の評価
第9回	国の府省の評価①：政策評価制度の導入の経緯を詳細に議論する。政策評価法の構造にも触れる。	中央省庁等改革と評価、総務省の行政評価局調査、政策評価法
第10回	国の府省の評価②：国の府省の政策評価の実像に迫る。あわせて行政事業レビューの取組を紹介する。	府省の自己評価、3つの評価方式、行政事業レビューと政策評価、EBPM
第11回	アメリカの評価①：アメリカの政策評価の歴史を概観する。	PPBS、プログラム評価、PGRA
第12回	アメリカの評価②：アメリカの政策評価のうちGPRAの改革過程と論点を議論する。	GPRAMA、データドリブン、エビデンスベースド、APGs、CAPGs、評価の日米比較
第13回	評価理論①：評価類型を整理する。あわせて評価階層の理論について議論する。	評価の類型論、評価階層の理論（システマティックアプローチ）
第14回	評価理論②：評価に関する学説史について概要に触れる。	評価をめぐる学説、科学主義と実用主義の対立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

南島和久『政策評価の行政学：制度運用の理論と分析』見洋書房、2020年。（但し品切れ中。講義は配付レジメに基づいて行う。）

【参考書】

今村都南雄・武藤博己・佐藤克廣・沼田良・南島和久『ホーンブック基礎行政学（第3版）』北樹出版、2015年。
石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。
行政管理研究センター編『詳解・政策評価ガイドブック』ぎょうせい、2008年。
南島和久編『JAXAの研究開発と評価』見洋書房、2020年。
馬場健・南島和久編『地方自治入門』法律文化社、2023年。
武藤博己監修、南島和久・堀内匠編著『自治体政策学』法律文化社、2024年。
益田直子『アメリカ行政活動検査院』木鐸社、2010年。
松田憲忠・岡田浩編著『よくわかる政治過程』ミネルヴァ書房、2018年。
武藤博己編著『公共サービス改革の本質』、2014年。
広田照幸『組織としての大学』岩波書店、2013年。
山谷清志『政策評価の理論とその展開』見洋書房、1997年。
山谷清志『政策評価の実践とその課題』明書房、2006年。

山谷清志編著『公共部門の評価と管理』見洋書房、2010年。
山谷清志『政策評価』ミネルヴァ書房、2012年。
山谷清志監修、大島巖、源由理子編著『プログラム評価ハンドブック』見洋書房、2020年。
山谷清志編『政策と行政』見洋書房、2021年。
山谷清志『日本の政策評価』見洋書房、2025年。

【成績評価の方法と基準】

討論への参加（40％）、期末レポート（60％）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

履修にはZoomに接続可能な機器が必要です。講義はZoomを利用して行います。

【その他の重要事項】

初回の講義にて案内します。万が一初回講義に欠席する場合には連絡してください。メールアドレスは、najima■policy. ryukoku.ac.jp（「■」は「@」に、ピリオドは半角にしてください。）

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞行政学、政策学、評価学

＜研究テーマ＞政策評価の制度運用

＜主要研究業績＞『政策評価の行政学』（単著、見洋書房）、『科学技術政策とアカウンタビリティ』（編著、見洋書房）、『英国の諸相』（編著、創成社）、『地方自治入門』（編著、法律文化社）『自治体政策学』（編著、法律文化社）、『協働型評価とNPO』（共著、見洋書房）、『JAXAの研究開発と評価』（編著、見洋書房）、『政策と行政』（共著、ミネルヴァ書房）、『プログラム評価ハンドブック』（共著、見洋書房）、『公共政策学』（編著、ミネルヴァ書房）、『「それでも大学が必要」と言われるために』（共著、創成社）、『ホーンブック基礎行政学（第3版）』（編著、北樹出版）、『公共サービス改革の本質』（共著、敬文堂）、『東アジアの公務員制度』（共著、法大出版）、『組織としての大学』（共著、岩波書店）、『公共部門の評価と管理』（共著、見洋書房）など

【Outline (in English)】

Since 1990's, policy evaluation system become a boom in the Japanese public sector. In the municipality, performance measurement has become established. In central government, a policy evaluation system was introduced to the ministries and agencies. However, sufficient debate has not been exchanged. We will conduct a theoretical study while considering the history, and also consider comparison with overseas initiatives.

POL500A3（政治学 / Politics 500）

政策学研究 2

鄭 智允

備考（履修条件等）：公共政策学「政策過程事例研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、政策過程理論を応用し、個別行政分野における政策形成・展開の実態を分析的に理解することである。まず、主要な文献を用いて政策過程に関する基礎理論を体系的に確認する。次に、具体的な政策事例を対象とした事例研究を通じて、各アクターがどのような役割と責任を担い、相互に作用しているのかを分析する。また、既存制度のもとで、外部・内部の環境要因がアクターの行動や政策選択に及ぼす影響を与え、政策が形成・修正・漸進していくのかを検討する。これらの分析を通じて、政策過程に関する理論的理解を深化させるとともに、実証的な政策分析を行うための視座と方法論を修得することを目指す。

【到達目標】

既存の政策形成過程の理法を理解し、個々の政策過程事例を考察する中で政策過程の視点・考え方など、政策過程に関する幅広い知識を習得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行う。まず政策過程の全対象について、事例を用いて復習する。その後、参加者の報告順を決め、報告およびそれについて質疑・討論の方法で進める。また、リアクションペーパーにおける質問事項等に対しては、次の授業で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1.2回	ガイダンス	授業の概要を説明し、講義の狙いとテーマを確認する。受講生各自の研究テーマ・関心分野を紹介する。
第3.4回	政策過程とその主体について	政策過程の理論を確認する。政策過程に参加する主体とその行動について各政策段階で検討する。
第5.6回	政策と官僚、そして規制	官僚はなぜ規制したがるのか、その原因について考える。
第7.8回	政策事例① 市町村合併と公共施設の再編	市町村合併がもたらしたことについて、公共施設の統廃合問題から考察する。
第9.10回	政策事例② 大都市制度	政令指定都市を事例として大都市の現況と課題について考察する。
第11.12回	政策事例③ 広域連携	自治体における広域連携の現状とその課題について考察する。
第13.14回	政策事例④ ヤングケアラー	ヤングケアラーに関する対策と課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

最初の授業で指示する。

【参考書】

C.E. リンドブロム、E.J. ウッドハウス著『政策形成の過程：民主主義と公共性』（東京大学出版会、2004年）
ハーバート・カウフマン著『官僚はなぜ規制したがるのか』（勁草書房、2015年）
クリストファー・M・フィブル編『公共政策』（成文堂、2023年）
その他、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業における積極的議論への参加（60%）、報告またはレポート（40%）を判断して、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、地方自治、環境政策

<研究テーマ> 国策と地方自治

<主要研究業績>

『廃棄物行政と自治の領域』 敬文堂 2024年

「合併政令市の引力と遠心力 浜松市行政区再編住民投票で問われた行革と自治体意識」『自治総研』2020年（第499号 pp.86-122）

「土砂災害危険区域と行政改革による行政の撤退戦略—浜松市北区引佐町鎮玉地域を事例に—」『年報中部の経済と社会』2019年（pp.69-80）

「指定廃棄物処理における自治のテリトリー」『自治総研』2019年（第489号 pp.45-82）

『「自区内処理の原則」と広域処理」『自治総研』2014年（第428号 pp.29-46、第429号 pp.45-65、第430号 pp.35-53）

「災害廃棄物の処理をめぐる」『月刊自治研』2012年（第637号 pp.56-65）

『「漂着ごみ」に見る古くて新しい公共の問題』小原・寄本編著『新しい公共と自治の現場』コモンズ 2011年（pp.202-216）

「廃棄物問題から考える合併・参加・住民組織の論点」『環境自治体白書 2008年版』環境自治体会議編 2008年（pp.40-52）

『市民参加・合意形成手法事例とその検証』（共著）市民がつくる政策調査会 2005年

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to apply theories of the policy process in order to develop an analytical understanding of how policies are formulated and implemented in specific administrative fields. The course begins with a systematic review of fundamental theories of the policy process based on key academic literature. It then examines concrete policy cases to analyze how various actors assume roles and responsibilities and interact within institutional frameworks. In addition, the course explores how internal and external environmental factors influence actors' behavior and policy choices, and how policies are formulated, modified, and incrementally developed over time. Through these analyses, students are expected to deepen their theoretical understanding of the policy process and acquire perspectives and methodologies for conducting empirical policy analysis.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end reports : 40%, in class contribution: 60%.

POL500A3（政治学 / Politics 500）

連帯社会とサードセクター

伊丹 謙太郎、池本 修悟、WOO JONGWON

備考（履修条件等）：連帯社会と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では連帯社会とは何か、それを担うサードセクター（労働組合、協同組合、NPO、社会的企業など）の役割は何かを学ぶ。

【到達目標】

連帯社会は、これまでの社会とはどこが違うのか、また連帯社会の構築と存続を担う主体であるサードセクターはどのような役割を果たし、どう協力しあうのかを理論的、実践的に学ぶことを目標とする。この授業を履修することによって、本インスティテュートの学生にふさわしい姿勢、知識を獲得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講師（専任、非常勤）および実践家による講義を行ったうえで、討論を行うという形で進める。

授業形式は対面授業を予定しているが状況次第でオンライン実施に変更される。なお、Zoomによるオンライン形式で行う場合は、ZoomのID・パスコードについては、初回授業前に学習支援システムに掲載する。

最終授業では、これまでの授業を踏まえて、連帯社会の構築、存続のために何が必要かについて、学生が各自報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	連帯社会とサードセクター	専任教員による問題提起
第2回	NPO 活動（1）、（2）	NPO の実践家による講義
第3回	労働組合の活動（1）、（2）	労働組合の実践家による講義
第4回	協同組合の活動（1）、（2）	協同組合の実践家による講義
第5回	共生と連帯の社会をデザインする	外部講師による特別講義
第6回	労働組合の活動（3）、（4）	労働組合の実践家による講義
第7回	NPO の活動（3）、（4）	NPO の実践家による講義
第8回	協同組合の活動（3）、（4）	協同組合の実践家による講義
第9回	フィールドスタディ	NPO を訪問し、実態を学ぶ
第10回	労働組合の活動（5）、（6）	労働組合の実践家による講義
第11回	協同組合の活動（5）、（6）	協同組合の実践家による講義
第12回	NPO の活動（5）、（6）	NPO の実践家による講義
第13回	労働組合の活動（7）、協同組合の活動（7）	労働組合の実践家、協同組合の実践家による講義
第14回	総括	これまでの授業を踏まえて、連帯社会の構築、存続のために何が必要かを各自が報告する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。「リポート」（最終報告書）の作成は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

特に指定しない。

随時、授業中に関連文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点が60％、授業への貢献が20％、最終報告20％。なお、平常点は、予習をしたうえで授業に出席しているかどうかで測り、授業への貢献は討議への積極的な参加で測る。最終報告は、提出されたレポートとその発表内容で判断する。

【学生の意見等からの気づき】

連帯社会、サードセクターの理論的枠組みを考察するとともに各分野における実践例を提示する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

非常勤講師、実践家に報告をしてもらうために、上記の授業計画を変更することがある。

【担当教員の専門分野等】

禹宗杭

<専門領域>労使関係論

<研究テーマ>労働組合の機能、労働組合の意義、労使関係の国際比較、労使関係のダイナミズム

<主要研究業績>

①〔沼尻晃伸と共著〕『〈一人前〉と戦後社会―対等を求めて―』（岩波書店、2024年）

②「ストライキの現代的意義と課題 ―日本の歴史と実態をふまえて―」（『日本労働研究雑誌』第67巻第5号、2025年、4-16頁）

③「『雇用区分廃止』の人事戦略―背景・要因・効果―」（『社会政策』第13巻第2号、2021年、21-33頁）

④「『一億総活躍』と身分制雇用システム」（『社会政策』第11巻第3号、2020年、14-28頁）

⑤「アジアの賃金―『学歴別・熟練度別賃金』―」（『大原社会問題研究所雑誌』721号、2018年、46-60頁）

⑥「戦後における資格給の形成―八幡製鉄の事例を中心に―」（『大原社会問題研究所雑誌』688号、2016年、5-28頁）

【Outline (in English)】

In this course, students learn the concept of solidarity-based society and the roles of third sector actors such as trade unions, co-operatives, NPOs, and social enterprises.

POL500A3（政治学 / Politics 500）

立法学研究 1

神崎 一郎

備考（履修条件等）：公共政策学・サステナビリティ学「立法学研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

我が国の法学は、もっぱら法解釈を中心に発展してきた。昭和21年に、既に末弘巖太郎博士は、法令立案の作業がもっぱら関係官僚の職業的な熟練によって行われているのみであって、立法者としての能力とはいかなるものであり、その能力をどのようにして養成すればよいかといった問題についての科学的な考究が全くなされていないことを指摘している。以降、様々な研究成果が蓄積されてきているが、本講義は、それらを踏まえ、「立法学」を体系化する作業を試みるものである。「立法」を政治評論的に、立法プロセスを見るにとどまるのではなく、法的視点（法学の基礎知識から立法における憲法・行政法上の比例原則まで）も含めて検討していきたい。

【授業目的】

我が国の国家作用を基礎付ける法律について、企画・制定から運用にいたるまでについて、立体的な知識を得るとともに思考の訓練をすることにより、立法における「制度設計」の在り方を習得する。

【到達目標】

- ・我が国の立法について、企画立案段階から制定施行段階までのプロセスについて、正確な知識を得る。
- ・上記のベースとなる法学についての基礎的知識を得る。
- ・法令の構造や政策目的達成手段に関する知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
- ・なお、立法学や政策法務論の現状として、政治的分析や組織論的なものにとどまるものが多く見られる。本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ①本講義においては、立法過程の諸段階の分析にとどまらず、立法作業の際に依拠すべき「立法事実」、規制立法を設計する上での行政手法の選択、実際の立法作業の現場における思考などにも立ち入りたい。
 - ②授業は、講義を中心とするが、講義は参加者との対話を重視しながら展開する。必要に応じて、参加者の調査と発表、ディスカッションを組み合わせで行う。
 - ③講義の仕上げとして、立法演習を行う。講義において会得した発想方法、ツールを用いて、与えられた課題に対し、合理的な法制度設計を行い、自分が設計した法制度について報告し、討議を行う。これに対する講評が学生へのフィードバックの位置付けになる。
- ※本講義は、原則として対面で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	立法学総論～立法学とは	1.序論～立法学とは 2.現代立法の状況と特質～我が国の法体系、法令の数、戦後日本の立法動向など

3-4	立法過程論①～国会提出前の企画立案段階	1.内閣による法案提出プロセス 2.政党内の意思決定システム 3.議員立法のプロセスの特徴 4.民主党政権下における立法過程の変容～ウェストミンスター・モデルとの比較
5-6	立法過程論②～国会審議段階	1.国会審議過程の現状と課題 2.内閣提出法案・議員提出法案それぞれの役割と課題 3.ねじれ国会下における立法傾向 4.ねじれ国会を経験して、ねじれ解消後に何が起きたか
7-10	法律とは何か	1.「法律」とは何か～歴史的経緯から憲法41条の解釈まで 2.現実の法律の傾向～個別特例法の増加など 3.「法律事項」とは何か
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	立法を行う上で重要となる政策目的の設定と目的達成手段の選択について検討する（必要に応じて主要判例を検討する）。 提示した事例について制度設計を行う（演習形式）。
13-14	立法演習	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】

講義録を配付する予定である。

【参考書】

大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011年）
法制執務・法令用語研究会『条文の読み方 第2版』有斐閣（2021年）

【成績評価の方法と基準】

平常点30％・立法演習40％・報告30％。

立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の2点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。

なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の3点目）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

条文を参照するため、パソコン・タブレットを持参されたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>立法学

<研究テーマ>立法過程論・自治体政策法務論・条例論

<主要研究業績>

- ①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』（自治研究2009年8月・第一法規）
- ②『政策法務』試論～自治体と国のバラックス(1)(2)（自治研究2009年2月・3月・第一法規）
- ③「地方議会の立法機関性―議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）
- ④「基本法と基本条例」自治実務セミナー2018年3月号

【Outline (in English)】

Course outline;

Traditionally, our legal science has been centered on the methodology of legal interpretation. As early as 1946, Professor Izutaro Suehiro pointed out that legislative drafting was conducted through the professional expertise of bureaucrats, and that there had been no scientific inquiry into the capacity and training of legislators. Since then, a significant body of research has been accumulated. Building upon these achievements, this lecture attempts to systematize "Legisprudence."

The objective is to move past simple political commentary on the legislative process and instead examine it using a legal approach that covers everything from fundamental law to Constitutional and Administrative Law.

Course Objectives:

The objective of this course is to provide students with a three-dimensional understanding of the laws that underpin our nation's functions, from their planning and enactment to their implementation. Through critical thinking exercises, students will master the principles of institutional design in the legislative process.

Grading Criteria/Policy;

The classes are mainly lectures, but for the Legislative Exercise sessions, the participants are divided into several groups, and while discussing within the groups, design an administrative and regulatory system, and present and discuss the results.

Participation in the Legislative Exercise Sessions is mandatory for the evaluation of this lecture.

From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures.

POL500A3（政治学 / Politics 500）

公務員制度研究

森谷 明浩

備考（履修条件等）：公共政策学、連帯社会と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、国家公務員を取り巻く環境は大きく変化しています。少子高齢化の流れの中における人材確保策、組織や個人のパフォーマンスを最大化するための勤務環境や給与制度の見直し、政官関係の在り方など、様々な課題に対する解決策を同時に考えていくことが求められています。この講義では、国家公務員制度の現状や見直しに向けた動向などについて解説を行うとともに、民間企業における人事管理や主要諸外国との比較なども行いながら、新時代の公務員の人事管理の在り方としてどのような方向性が考えられるかについて探求していきます。

【到達目標】

公務組織における近年の勤務環境の整備や給与制度の見直しなどの様々な取組を考察し、

- ①人事管理において重要な事柄とは何か
- ②組織を構成する一人一人のモチベーションを高め、組織のアウトプットを最大化するために必要なポイントとは何か
- ③これからの新時代の人事管理を考えるに当たって大切にすべきことは何か

などについて、公務組織を題材にして考えることで、公共政策を人事面などから考察する際の視座を獲得することを目指して学習することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は対面で行います。公務における近年の人材確保策、人事評価の仕組みや昇進管理の現状、給与制度や勤務環境の見直しなどいくつかの主要分野について、民間企業や主要諸外国の状況にも触れながら解説を行います。

各回の授業の前半は、教員がその回に取り上げる分野について解説を行い、後半では受講される方自らのご意見や疑問点などをきっかけとした自由討議を行い、更なる研究を進めるに当たっての視座を提供していくことを主眼とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回・第2回	公務人材をいかに確保するか、能力・実績主義実現のための人事評価の仕組みと昇進管理の実態とは	近年の人材確保策、国家公務員の昇進実態、国家公務員の人事評価制度と近年の見直し等について解説し、組織のパフォーマンスを高めるための昇進管理や人事評価の手法としてどのような姿が望ましいかを考えます。
第3回・第4回	給与制度の現状と今後の望ましい制度の在り方とは	近年の給与制度の見直し（人材確保や組織パフォーマンスの向上、働き方やライフスタイルの多様化への対応）等について解説し、組織のパフォーマンスを向上させる観点からの給与制度の見直しとして何が考えられるかを議論します。

第5回・第6回 勤務環境の現状とよりよい勤務環境を目指して

第7回・第8回 民間人材をいかに確保し官民共同で課題に対応するか

第9回・第10回 シニア職員の活用をいかに図るか

第11回・第12回 公務員に求められる中立公正性とは何か

第13回・第14回 政治と行政の関係性はどうあるべきか（これまでの制度改革の歴史から学ぶ）

近年の勤務環境の見直しに関する施策（柔軟なフレックスタイム制度の導入やテレワークの現状、その他の働き方改革の推進の状況）を踏まえつつ、職員の多様なワークスタイル・ライフスタイルをどのように人事制度に反映させていくことが必要かを考えます。

部内人材の育成のみでは公務組織を維持することはできません。近年の民間人材の活用方策を解説しつつ、複雑・多様化する行政課題を解決するために、官と民の人事の垣根を柔軟化していくためにはどのようなことが求められるのかを考えます。

今後の日本社会において、シニア層の経験やノウハウをいかに活用していくかも重要な課題です。公務におけるシニア職員の活用の現状を解説し、今後の少子高齢化社会でどのようなシニア層の活用施策が考えられるかを検討します。

身分保障の仕組みや国家公務員として守るべきルール（服務）、それに反した場合の制裁（懲戒処分）、職員が懲戒処分等の不利益な処分を受けた際の人事院への不服申立制度等について解説し、公務に特有の中立・公正な人事管理を実現するためには何が必要かについて考えます。

1990年代以降の政官関係の変化、内閣人事局の設置（2014年）に至る公務員制度改革の動向等を中心に解説し、政治と行政の適切な関係とはどのようなものかについて考えます。また、講義全体を振り返り、将来の在るべき公務員制度を設計するに当たり、どういった視点が必要かを考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

村松岐夫編著『公務員人事改革—最新米・英・独・仏の動向を踏まえて—』（2018年学陽書房）
村松岐夫編著『最新公務員制度改革』（2012年学陽書房）
西尾勝著『行政学 [新版]』（2001年有斐閣）
西尾隆著『公務員制』（行政学叢書⑩）（2018年東京大学出版会）
吉田耕三・尾西雅博編『逐条国家公務員法 <第2次全訂版>』（2023年学陽書房）
吉田耕三編著『公務員給与法精義第五次全訂版』（2018年学陽書房）
嶋田博子著『職業としての官僚』（2022年岩波新書）
人事院HP <https://www.jinji.go.jp/top.html>
内閣官房内閣人事局 HP <https://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/jinjikyoku/index.html>
内閣官房（旧）国家公務員制度改革推進本部 HP <https://www.gyokaku.go.jp/koumuin/index.html>
など

【成績評価の方法と基準】

- 平常点50%（毎回の授業において、その回における課題を理解して自らの理解の上に立って議論に参加・貢献しているか）
- 小論文（レポート）50%（自ら選択する課題について考察を行った小論文）

【学生の意見等からの気づき】

学生自らが問題点を発見し考察を深めることができますようにします。

【その他の重要事項】

教員は、人事院に在職し、国家公務員の人事行政の制度及びその運用を実際に担当しています。さらに内閣人事局などへの出向経験を通じ、人事院以外の角度からも人事行政に関わってきています。

これらを通じた経験や知見を紹介し、近年の公務員制度の動向や将来の在るべき公務員像などについて幅広く議論していきたいと思っています。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞公務員制度

＜研究テーマ＞我が国の公務員制度の動向

＜主要研究業績＞

森園幸男ほか編『逐条国家公務員法全訂版』（2015年学陽書房）（共著）

吉田耕三編著『公務員給与法精義第五次全訂版』（2018年学陽書房）（共著）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire Japanese civil service system including international comparison(U.K.,U.S.A.,Germany and France).

This course deals with detailed explanation of the Japanese civil system and its actual implementation.

Your overall grade in this course will be decided based on the following

Short reports: 50%,In-class contribution: 50%

POL500A3（政治学 / Politics 500）

雇用・労働政策研究

濱口 桂一郎

備考（履修条件等）：公共政策学・連帯社会「雇用労働政策研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公労使三者構成の審議会において労使団体と政府（厚生労働省）の間で行われる対立と妥協のメカニズムを中心に、その延長戦としての国会における審議や修正も含め、具体的な労働立法の政策決定過程を跡づける形で、労働法制の内容を説明する。いわば、完成品としての労働法ではなく、製造過程に着目した労働法の講義である。

【到達目標】

現代日本におけるさまざまな雇用労働問題を、表層的なマスコミ報道等に踊らされることなく、雇用システムと労働法制の複雑な関係を踏まえて理解し、説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン授業を予定している。
各コマとも、前半は下記テキスト（『日本の労働法政策』）に沿って概略の説明を行い、後半はそれに基づきフリーディスカッションとする。
あらかじめテキストを読んできたことを前提に、毎回のトピックについて各自の職業経験に基づく意見を尋ねることがあるので、各自用意しておくことが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1.2回	イントロダクション、労働力需給調整システム、労働市場のセーフティネット	全体の概観、労働者派遣事業と職業紹介事業、雇用保険、生活保護、求職者支援制など
第3.4回	雇用政策の諸相、高齢者・障害者の雇用就業政策	雇用政策思想、外国人雇用対策、高齢者、障害者など
第5.6回	職業教育訓練政策、労働基準監督システム、労災保険、労働安全衛生政策	職業訓練、職業教育、若年者、過労死・過労自殺、過重労働・メンタルヘルス・受動喫煙など
第7.8回	労働時間政策、賃金処遇政策	時間外・休日労働、年休、裁量労働制、最低賃金など
第9.10回	賃金処遇政策、労働契約政策	非正規均等待遇、解雇規制、有期契約、労働条件変更、フリーランスなど
第11.12回	男女平等政策、ワークライフバランス、ハラスメント	男女平等、育児・介護休業、セクハラ・パワハラなど
第13.14回	集团的労使関係システム	労働組合、労使協議制、個別労使紛争など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『日本の労働法政策』 労働政策研究・研修機構（2018年）

なお、刊行からかなり時間が経っているため、アップデートしたPDFファイルを受講者に配布する予定。

【参考書】

濱口桂一郎『新しい労働社会』岩波新書（2009年）
濱口桂一郎『日本の雇用と労働法』日経文庫（2011年）
濱口桂一郎『若者と労働』中公新書ラクレ（2013年）
濱口桂一郎『日本の雇用と中年』ちくま新書（2014年）
濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書（2015年）
濱口桂一郎・海老原嗣生『働き方改革の世界史』ちくま新書（2020年）
濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か』岩波新書（2021年）
濱口桂一郎『賃金とは何か』朝日新書（2024年）
濱口桂一郎『管理職の戦後史』朝日新書（2025年）
濱口桂一郎『外国人労働政策』中央公論新社（2026年）
なお、関連する論文等が講師ホームページにアップされているので、適宜読むこと。

<http://hamachan.on.coocan.jp/>

【成績評価の方法と基準】

参加人数にもよるが、今のところレポート作成を予定している。
レポートの提出先は、次の講師メールアドレスとする。
SGB00231@nifty.com

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域>
労働法政策
< 研究テーマ>
日本とEUの労働法政策、日本の個別労働紛争の分析
< 主要研究業績>
『EUの労働法政策』、『日本の労働法政策』、『日本の雇用終了』、『日本の雇用紛争』、『団結と参加』（いずれも労働政策研究・研修機構）

【Outline (in English)】

It is not a lecture on labor law as a finished product, but one on labor law focusing on the manufacturing process.
The goal of this course is to explain the contents of labor legislation in such a way as to trace the decision making process.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.
: Grading will be decided based on short reports.

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

政策法務論

神崎 一郎

備考（履修条件等）：公共政策学、サステナビリティ学と合同
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

2000年の第一次分権改革以降、自治体の法務担当者を中心に、「政策法務」という概念が唱えられてきた。しかしながら、国の中央官庁の法務担当者間で「政策法務」という言葉は一般的ではない。地方と中央のこの意識の差に着目し、「自治体政策法務とは何か」について解き明かしつつ、自治体法務が直面する問題点等を検討する。

【授業目的】

現在の自治体法務が直面している問題点を検討する。特に、条例論について深掘りする。

【到達目標】

- ・自治体政策法務のイメージをつかむ。
- ・条例案立案のポイントをつかむ。
- ・条例に関する基礎的な知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
- ・現代の自治体法務が直面している問題を整理し、自治体法務の向上のためには何が必要かを深掘りする。
- ・特に、条例立案の際に強調される「立法事実論」について深く学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ①本講義においては、自治体法務を全般的に取り扱うが、中心は条例論となる。
- ②授業は、講義を中心とする。講義は、参加者との対話を重視しながら展開する。
- ③本講義の最後の2回を立法演習（条例演習）に当てる。立法演習が、講義内容の総まとめとなる。立法演習において、提示した事例を解決するための制度設計をしてもらい、各学生が報告する。報告に対する講評が学生へのフィードバックとなる。
- ④立法演習の回については、参加者をいくつかのグループに分け、グループ内で議論しつつ、与えられた条件において、与えられた政策目的を達成するための行政規制システムを設計し、発表・議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	政策法務論総論	1.はじめに～「政策法務」とは？ 2.自治体法務の歴史～戦前から戦後の連続性、第一次分権改革前の自治体法務の実情、自治体の立法技術の課題など
3-4	憲法第八章（地方自治）をめぐる日本政府とGHQの攻防	1.GHQ民政局内における条文の変遷とその意味するところ～ホームルール制とチャーター 2.日本側草案の起草～民政局案との対比 3.チャーター制定権の変貌

5-6	基本法・基本条例について～特に、自治基本条例を中心に	1.基本法・基本条例の法規範的性格の稀薄性 2.法体系上の位置づけ 3.自治基本条例の意義 4.民主的契機としての住民投票 5.議会基本条例の意義
7-8	条例論	1.条例の定義 2.条例の類型 3.法律と条例の関係～徳島市公安条例事件最高裁判決の基準とそのあてはめ
9-10	立法事実と比例原則	1.分権改革前の判例 2.比例原則 3.分権改革後の判例 4.違憲審査基準論と合理性の基準 5.合理性を基礎づけるものとしての立法事実
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	政策法務にとって重要な「政策目的の設定」と「目的達成手段の選択」について検討する。
13-14	条例案立法演習	提示した事例について制度設計・条文作成まで行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】

講義録を配付する予定である。

【参考書】

大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011年）
神崎一郎『『政策法務』試論～自治体と国のパララックス(1)(2)』（自治研究2009年2月・3月・第一法規）
「地方議会の立法機関性―議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）

【成績評価の方法と基準】

平常点30％・立法演習40％・報告30％。

立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の2点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。
なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の3点目）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>立法学

<研究テーマ>立法過程論・自治体政策法務論・条例論

<主要研究業績>

- ①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究2009年8月・第一法規）
- ②『『政策法務』試論～自治体と国のパララックス(1)(2)』（自治研究2009年2月・3月・第一法規）
- ③「地方議会の立法機関性―議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017年）
- ④「基本法と基本条例」自治実務セミナー2018年3月号

【Outline (in English)】

Course outline;

Following the Decentralization Reform of 2000, the concept of "Policy Legal Affairs" (Seisaku Houmu) was proposed and has since been championed primarily by legal officers within local governments. In contrast, this concept has not gained general currency among legal practitioners in central government ministries. By focusing on this discrepancy, this course examines the ideal role and future direction of legal affairs within local municipalities.

Learning Objectives;

To get an idea of "policy legal affairs".

To understand the key points of drafting ordinances.

Grading Criteria/Policy;

The classes are mainly lectures, but for the Legislative Exercise sessions, the participants are divided into several groups, and while discussing within the groups, design an administrative and regulatory system, and present and discuss the results.

Participation in the Legislative Exercise Sessions is mandatory for the evaluation of this lecture.

From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures.

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

防災危機管理研究

鍵屋 一

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東日本大震災の発生以後、国土強靱化など防災対策の重要性が叫ばれている。しかし、その後の災害でも十分な成果は上げられていない。また、災害には大地震、風水害、火山など自然災害、原子力災害など大規模な事故、テロなど人為的災害など多様に存在する。現代は危機の時代であり、防災危機管理は、市民、行政、団体、企業にとって避けて通れないテーマとなっている。本授業は、大学院生が防災危機管理に強い人材になるよう支援する。

【到達目標】

- ①日本の国・自治体の防災危機管理の現状と課題を理解する。
- ②現状の政策と被害軽減の具体例を研究する。
- ③今後の国・自治体の防災危機管理政策のあるべき姿を研究する。
- ④大学院生自身の危機対応力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形式：対面授業

授業では、自然災害を中心に防災対策の現状と課題を理解し、現実的な解決政策を研究する。その際、わが国の防災文化、法制度、行政構造、市民意識を念頭において政策的アプローチを重視した講義を行う。

また、ワークショップ形式も併用し、自らの頭で考え、仲間や講師と議論することで、より深い理解につながるように努めていく。

授業の最後には、学生からの質問、コメントを求め、その場でフィードバックを行う。また、授業後であってもメール等による質問も受け付けてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回・2回	ガイダンス及び国・自治体の防災危機管理政策の概観	講師の自己紹介、防災危機管理の講義の狙い、概要の説明。 PPTおよび中央防災会議資料を使用して国、自治体の防災危機管理政策の全体像を説明する。
第3回・4回	大災害時の市民、行政の活動	阪神淡路大震災時の対応をした行政職員の生々しい記録を読む。その後、グループワークでKJ法を使用しながら大災害の市民、行政の行動の実態を理解し、課題を抽出する。
第5回・6回	地震防災と耐震化	地震防災の最重要課題である耐震化の政策の変遷について解説する。現在の、専門家や地域の取り組みを紹介しながら、今後の推進方策を検討する。
第7回・8回	災害時の要配慮者支援	高齢者や障害者は、災害時には特別な支援が必要である。事前にどのような準備が必要かを説明し、それが日常生活の延長上にあり、また地域コミュニティの絆を高めた事例を検討する。

第9回・10回 防災教育、ボランティア

東日本大震災では、防災教育に取り組んだ岩手県沿岸地域の子どもの生存率が極めて高かった。防災教育の内容と効果を考える。また被災地においてボランティアの存在感が高まっている。ボランティアがどのように進化したかを議論する。

第11回・12回 地域防災計画、防災条例、政策評価

東日本大震災を受けて地域防災計画の見直しが進んでいる。その具体例を検討する。また防災条例の制定過程とその効果について議論する。防災の政策評価のあり方と活用について検討する。

第13回・14回 企業、行政等の事業継続（BCP）

企業や行政等は災害時に災害対応するだけでなく、自らの事業を継続していかなければならない。その計画がBCPであり、その内容と効果について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

防災政策は生きているものであり、最新の状況を把握することが重要である。内閣府「防災情報のページ」「防災白書」を事前に見ていただきたい。

また、ボランティアなどの活動体験があれば望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業では、PPTや論文を使用するが、その資料を毎回配付する。

【参考書】

鍵屋一「地域防災力強化宣言」ぎょうせい・2005年

鍵屋一「よくわかる自治体の地域防災・危機管理」学陽書房・2019年令和4年「防災白書」

【成績評価の方法と基準】

質疑への参加 70%（講義中の質疑、意見表明などを積極的に行ったものを高く評価する）
リアクションペーパー等 30%

【学生の意見等からの気づき】

実務体験が評価されているので、今後もリアリティある講義を行いたい。また、学生と積極的に議論していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

地域防災、危機管理

＜研究テーマ＞

防災危機管理政策、建築物の耐震化、災害時要援護者支援、防災教育、人材育成、事業継続（BCP）

＜主要研究業績＞

・『都市災害を生き残る』『現代用語の基礎知識2009』2008年、自由国民社

・『ひな型でつくる福祉防災計画』（共著）2020年、東京都福祉保健財団

・『地域防災力強化宣言』2005年、ぎょうせい

【Outline (in English)】

(Course outline) The modern age is an age of crisis, and disaster risk management has become an unavoidable theme for citizens, governments, organizations, and businesses.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to help graduate students to become strong in disaster prevention and crisis management.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports :30 %, in class contribution: 70%

POL500A3（政治学 / Politics 500）

ジェンダー政治研究 2

浅野 幸子

備考（履修条件等）：公共政策学「ジェンダー政策研究」と合同
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ジェンダーの視点から政策について考察することを目的とする。1999年に男女共同参画社会基本法が施行されてから様々な分野でジェンダー政策が進められている。しかしGGGI（グローバルジェンダーギャップ指数）で比較すると日本の順位は100位以下が続いている。2024年7月に発表されたランキングは146ヶ国中118位である。政府が出している骨太方針でも女性の経済的自立や男女の賃金格差の是正、男女共同参画の視点に立った防災・復興等が挙げられている。本講義では、現在の日本のジェンダー政策の現状と課題を把握し、その要因を分析した上で課題解決の方策についてディスカッションを行う。ディスカッションを通じて考えたことを振り返り、ジェンダー政策の理解を深めるとともに今後を展望する。

【到達目標】

- ・21世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置づけられた男女共同参画社会を実現するための基本法である「男女共同参画基本法」と基本法に基づいて5年ごとに定められる「男女共同参画基本計画」について理解する。
- ・今年の前半に閣議決定が予定されている「第6次男女共同参画基本計画」の内容について掘り下げ、計画策定の社会背景と政策の意義についてディスカッションしたい。
- ・授業では、男女間の不平等、女性の生きづらさ・困難を考える上でも重要な、男性性をめぐる議論（集団としての男性のあり様、男性内格差など）も紹介する。
- ・第4回世界女性会議から約30年が経過したが、国際的なジェンダー平等の取り組みの進捗や、日本とも関係する国境を越えたジェンダー課題についても視野を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用して講義を進める。課題ごとのレポートを提出する。提出されたレポートをもとにプレゼンテーションとディスカッションで理解を深める。
レポートの提出は「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の目的、進め方、基本的な概念や用語について説明する。

第2回	国内外の男女共同参画に関する動向を理解する	○第2次世界大戦以降の国際社会の動き：国連女性の地位委員会（CSW）、女子差別撤廃条約（CEDAW） 国際婦人年（1975年）以降の世界女性会議 持続可能な開発目標（SDGs）世界経済フォーラムが発表するGGGIなどから国際社会の変遷を捉える。 ○国内の動向：1975年に総理府に設置された婦人問題企画推進本部、「国内行動計画」、「雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」「DV防止法」「女性の職業生活における活躍推進に関する法律」「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」などから国内の変遷を捉える。
第3回	男女共同参画基本法と男女共同参画基本計画①	1999年に施行された「男女共同参画基本法」の基本理念を理解するとともに、「男女共同参画基本計画」の複数の分野のうち一つを選んで報告し議論する。
第4回	男女共同参画基本法と男女共同参画基本計画②	1999年に施行された「男女共同参画基本法」の基本理念を理解するとともに、「男女共同参画基本計画」の複数の分野のうち一つを選んで報告し議論する。
第5回	ワーク・ライフ・バランス 働き方改革①	勤続年数を重視しがちな年功序列的な処遇、長時間労働や転勤が当然というこれまでの男性中心の働き方を前提とする労働慣行（男性中心型労働慣行）について考える。 また、いわゆる女性のM字カーブ問題等がいまだに解決しない要因を考える。 女性活躍推進法の改正によって、2022年から条件に該当する企業は「男女の賃金の差異」情報の公表が義務付けられることになった。また、「年収の壁」を意識せず働くことができる環境づくりも進められている。このような動きの中で男女賃金格差問題を考える。
第6回	ワーク・ライフ・バランス 働き方改革②	女性も男性もワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現するためにはどのような解決策があるのか、実態や政策を踏まえて議論する。2021年育児・介護休業法が改正され男性の育児休業取得促進のための子の出生直後の時期における柔軟な育児休業の枠組みの創設された。現在政策的課題として関心が高まっている男性の育児休業についても検討する。

第7回	女性の活躍推進	2003年、男女共同参画推進本部は「社会のあらゆる分野において2020年までに、指導的地位に占める女性の割合が、少なくとも30%程度になるよう期待する(202030)」との目標を設定した。その後の動向を踏まえて、クォータ制やポジティブアクションについて議論する。自治体、議会、審議会、地域社会における女性の参画状況についても共有する。	第13回	新たな課題②－多様性に対応するジェンダー政策	選択的夫婦別姓や同性結婚、LGBTQをどのように考えるかが政策的な課題となっている。どのような政策的議論が進んでいるのか、どのような方向性を考えればいいのかを議論する。2023年に成立したLGBT理解増進法について説明する。夫婦別氏や同性婚に関する裁判結果にも言及する。
第8回	女性に対する暴力①	重大な人権侵害である女性に対する暴力、性暴力について考える。配偶者等からの暴力、ストーカーなどに加えて、最近ではデートDV、デートレイプドラッグ、JKビジネス、AV出演強要など問題が多様化している。こうした状況を踏まえ、暴力の根絶を図るための方策について議論する。	第14回	ジェンダーと政治	政策・方針決定過程への女性の参画の拡大は現在の日本において大きなジェンダー課題となっている、特に政治分野における女性の参画拡大を進めるためにはどのような方策がとられているかを理解する。
第9回	女性に対する暴力②	重大な人権侵害である女性に対する暴力、性暴力について考える。その予防と被害からの回復、暴力の根絶を葉来するためのはどうすべきかを考える。改正された刑法について説明し「性的同意」を考える。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の準備学習・復習時間は、各1.5時間を標準とします。 【テキスト（教科書）】 毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。 【参考書】 ・男女共同参画基本計画（シラバス作成時点では5次計画が最新だが、今年前半に策定予定の第6次計画を参照のこと） https://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/index.html ・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて http://www.cao.go.jp/wlb/index.html ・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html ・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html ・国立女性教育会館 学校教育における男女共同参画推進 https://www.nwec.go.jp/research/teacher.html ・内閣府男女局 理工チャレンジ（リコチャレ） http://www.gender.go.jp/c-challenge/ ・科学技術振興機構 ダイバーシティ推進 http://www.jst.go.jp/diversity/index.html ・NWEC実践研究第9号「ジェンダーに基づく暴力」 https://www.nwec.go.jp/about/publish/2018/ecdat60000002jgc.html ・若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材 http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html ・内閣府男女共同参画局 災害対応のページ https://www.gender.go.jp/policy/saigai/index.html		
第10回	教育・メディア①	男女共同参画を推進し多様な選択を可能にするために学校教育はどうすればいいのか、教育現場をジェンダーの視点で見たときの課題を捉える。理工系を選択する女子学生が少なく研究者、技術者の女性割合が少ない状況を踏まえ、女子学生・生徒の理工系分野の選択促進及び理工系人材の育成のための方策を考える。また学校現場の管理職の女性割合が少ない要因についても考える。その背景にあるアンコンシャスバイアスについても説明する。	【成績評価の方法と基準】 授業参加（ディスカッションでの発言）と課題ペーパーの提出（40%）レポート（60%） 【学生の意見等からの気づき】 今年度、担当者が変更となったためフィードバックはない。 【Outline (in English)】 Course outline Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens. This course introduces gender concept, gender policy and gender issues in Japanese society to students taking this course. Learning Objectives The goals of this course are to understand Japanese gender issues and develop the ability to think critically about social phenomena. Learning activities outside of classroom Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than three hours for a class. Grading Criteria /Policies		
第11回	教育・メディア②	意識形成にメディアの与える影響は大きい。メディアの中で女性がどのように描かれているかについて広報媒体や映像を見ながら分析し、性別役割分担意識の解消のための広報・啓発のあり方について議論する。			
第12回	新たな課題①－自然災害やパンデミックなどのリスクに対応するジェンダー政策	能登半島地震、東日本大震災等の経験から、性別、年齢や障害の有無等社会的立場によって影響が異なることが明らかにされたことから女性と男性で災害から受ける影響に配慮し、ジェンダーの視点から防災復興体制を確立することが求められている。何が問題だったのかを踏まえ、解決の方策について議論する。			

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports: 30%、in class contribution: 20%

POL500A3（政治学 / Politics 500）

自治体議会論

鍵屋 一

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自治体議会の歴史、意義を学び、議会の課題、国内外における先進事例を調査研究することにより、二元代表機関としての議会・議員のあり方について理解を深める。これにより、執行機関との緊張関係の下で住民福祉の向上を図る議会・議員となることを目指す。

【到達目標】

研究活動の基本となる議会の意義、歴史、先進事例を調査研究し、学生間、講師とともに討議を行いそれぞれの問題意識に合わせて課題を深掘りしていく。これにより、現実の自治体議会の抱える課題と今後の議会改革方策を浮き彫りにできる。学生は洞察力を深め、討議による集合知を紡ぎだすことができる。学生が積極的に討議に参加し、自らと他者の理解を深める主体となっているかを評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形式：対面授業。主として松下圭一「政策型思考と政治」の議会関係部分を講師が解説し、重要部分について討議、集合知の紡ぎ出しを行う。また、現実の自治体議会のニュース、トピックスを積極的に取り上げ、解説、討議を行うことで学生の洞察力を高める。授業の最後には、学生からの質問、コメントを求め、その場でフィードバックを行う。また、授業後にメール等による質問も受け付けてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1.2回	議会の成立、歴史、意義と歴史	議会の成立過程、歴史、意義を学ぶ
第3.4回	各国の議会	わが国、および各国の議会の歴史、意義を学ぶ
第5.6回	各国の自治体議会の歴史	わが国、および各国の自治体議会の歴史、意義を学ぶ
第7.8回	各国の自治体議会の課題	わが国、および各国の自治体議会の現状と課題を学ぶ
第9.10回	自治体議会のあり方について	現実の自治体議会の課題、今後の方向性を学ぶ
第11.12回	自治体議会改革について	自治体改革の歴史と概要を学ぶ
第13.14回	災害時の自治体議会・議員について	災害時の自治体議会・議員のあべき行動規範について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生の住む自治体議会のホームページ、直近の議事録を読む。直近の自治体改革の動向を示す書籍、ホームページ等を調査しておく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

政策型思考と政治、松下圭一、東京大学出版会、1991年、4,644円
なお、講師が必要な部分を資料として提供するので、購入する必要はない。

【参考書】

江藤俊昭「自治体議会学 議会改革の実践手法」等

自治体議会改革フォーラムホームページ、www.gikai-kaikaku.net

【成績評価の方法と基準】

討議への参加など平常点 70%

振り返りシート 30%

【学生の意見等からの気づき】

学生からは、講義内容が濃密であるとの意見があった。理解が難しいと思われる部分については、質疑を促すとともに丁寧に解説していきたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自治体、防災

<研究テーマ>自治体議会・議員の災害対策

<主要研究業績>紀要論文、議員研修

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire the history and significance of the local council.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to deepen the understanding of the council and members of parliament as a dual representative body.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports :30 %, in class contribution: 70%

POL500A3（政治学 / Politics 500）

NPO論1

池本 修悟

備考（履修条件等）：公共政策学「NPO論」、連帯社会「NPO論（現状と課題）Ⅰ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、NPO（民間非営利組織）が現代の地域・社会課題の解決および社会システムの変革において、いかなる役割を担ってきたのかを明らかにする。具体的には、NPOの理論と歴史、ネットワーク論、セクター間協働、社会的企業などを取り上げ、NPOの発展を支えてきた社会的関係や制度的背景について学ぶ。

そのうえで、労働組合や協同組合といった他のセクターがNPOとどのような協働関係を構築しうるのかを、具体的な事例をもとに検討し、連帯社会における協働の可能性と課題を考察する。

【到達目標】

本講座の修了後、受講生は以下の点を達成することを目指す。

- 1. NPO（民間非営利組織）の理論的枠組みおよび歴史的展開を説明できる
- 2. 現代社会におけるNPOの役割を、地域課題解決および社会システム変革の観点から分析できる
- 3. セクター間協働（行政・企業・労働組合・協同組合等）の構造と特徴を理解し、その利点と課題を整理できる
- 4. 具体的な事例をもとに、NPOと他セクターとの協働関係を批判的に検討できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・教員による講義

各回の講義の資料は、事前に学習支援システムにアップする。これを読み、講義内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習を行っていることを前提として、授業を進めていく。毎回の講義は、原則として3分の2程度を教員からのプレゼンテーションとする。残りの時間で学生との質疑応答を含めた議論を行い、最後にまとめる。

・学生の発表

講義への理解度を確認するとともに、不明瞭な点を明確にするため、期間中に講義のまとめ（ふりかえり）のセッションを2回実施する。また、授業に関連したテーマのレポートの作成を行う。作成に先立ち、アウトラインを作成し、授業で発表する。レポートは、レジュメに基づいて発表を行う。ふりかえり、アウトライン、レポートの発表の際には、教員・受講生からフィードバックを受ける。

・オフィス・アワー

講義の疑問点やふりかえり、レポートの作成に関する指導を受けることができる。

・授業の形式

授業は、対面形式で行う予定。ただし、学生の希望や災害や新型コロナウイルス等の感染症の拡大によっては、オンラインで実施する可能性がある。その場合、ZoomのID・パスコード等を学習支援システムにアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法などについて説明するとともに、受講生のNPOマネジメントの知識や関心を知り、今後の授業に反映させる。
第2回	関係構築・チーム構築	労働組合、協同組合、NPOが連帯して取り組むべき社会課題について検討し最終発表するためのチーム分けを行う。
第3回	NPOの概要説明①	NPOの定義・歴史について古典を学ぶことでベースの考え方について知る。 ・NPOの要件 ・特定非営利活動法人のあらまし
第4回	NPOの概要説明②	NPOの現状について最新のデータを紐解くことで理解を深める。 ・データでみるNPO ・NPO関連施策
第5回	ケーススタディ①労働組合とNPOの協働	労働組合と協働したNPOの事例紹介。

第6回	ディスカッション①	労働組合との協働のメリットデメリットを分析し、改善提案を行うNPOへの提案内容をブラッシュアップする。
第7回	ケーススタディ②労働金庫とNPOの協働	労働金庫と協働したNPOの事例紹介。
第8回	ディスカッション②	労働金庫との協働のメリットデメリットを分析し、改善提案を行うNPOへの提案内容をブラッシュアップする。
第9回	協力のテクノロジー①	NPO法を作った松原明氏が提唱する協力のテクノロジーを学ぶ。理論編。
第10回	協力のテクノロジー②	NPO法を作った松原明氏が提唱する協力のテクノロジーを学ぶ。実践編。
第11回	ケーススタディ④生活協同組合とNPOの協働	生活協同組合と協働したNPOの事例紹介。
第12回	ディスカッション④	生活協同組合との協働のメリットデメリットを分析し、改善提案を行うNPOへの提案内容をブラッシュアップする。
第13回	提案発表会①	オリエンテーションで提示した課題についてチームごとに発表してもらう。
第14回	提案発表会②	オリエンテーションで提示した課題についてチームごとに発表してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは定めない。授業中に配布する資料を用いて、授業を行う。

【参考書】

松原明『協力のテクノロジー関係者の相利をはかるマネジメント』（2022）
宮垣 元『NPOとは何か-災害ボランティア、地域の居場所から気候変動対策まで』（2024）
内閣府『特定非営利活動法人のあらまし』（2023）
金子郁容『ボランティア』岩波新書（1992）
金子郁容『新版コミュニティ・ソリューション：ボランティアな問題解決にむけて』岩波書店（2002）
レスリー・R・クラッチフィールド他『世界を変える偉大なNPOの条件―圧倒的な影響力を発揮している組織が実践する6つの原則』ダイヤモンド社（2012）
室田信一他『コミュニティ・オーガナイズの理論と実践：領域横断的に読み解く』有斐閣（2023）

【成績評価の方法と基準】

配分：平常点（授業中の議論への参加度など）50％、「ふりかえり」と最終発表50％。
最終発表の評価基準：授業内容との関連性、学術性、創意工夫、論旨、プレゼンテーション。

【学生の意見等からの気づき】

グループワーク等への評価は高いが、その反面インプット量が少なくなるため、意識的に参考文献などを紹介していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

前述のように授業は対面で実施する予定だが、オンライン授業になる可能性もある。オンライン事業の場合は、必要なPCやWi-Fi設備などを用意したうえで、学習支援システム利用できる環境の準備が必要。

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

ボランティア
NPO
コミュニティ・オーガナイズ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course examines the roles that Nonprofit Organizations (NPOs) have played in addressing contemporary local and social issues and in transforming social systems.

The course introduces key concepts and perspectives related to NPOs, including their theories and history, network theory, cross-sector collaboration, and social enterprises. Through these lenses, students explore the social relationships and institutional contexts that have supported the development of NPOs.

Based on concrete case studies, the course further investigates how other sectors — such as labor unions and cooperative organizations — can build collaborative relationships with NPOs. By analyzing both opportunities and tensions in such collaborations, students critically examine the possibilities and challenges of collaboration in a solidarity-based society.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students will be able to:

- 1.Explain the theoretical foundations and historical development of NPOs
- 2.Analyze the roles of NPOs in addressing social issues and contributing to social system change

3. Understand the structures, benefits, and challenges of cross-sector collaboration involving NPOs

4. Critically examine collaborative relationships between NPOs, labor unions, and cooperative organizations

5. Propose collaboration models relevant to their own research or professional practice

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to engage in the following activities outside of class:

- Reading assigned academic articles, reports, and case-study materials
- Preparing discussion questions and short reflection notes for class sessions
- Reviewing materials provided by guest speakers
- Conducting independent research related to the final presentation or paper
- Reflecting on how course content relates to their own research interests or professional experience

(Grading Criteria /Policy)

- Class participation and contribution to discussions: 30%

(Includes active engagement in lectures, discussions, and guest sessions)

- Short assignments / reflection papers: 30%

(Written responses to readings, lectures, or guest presentations)

- Final presentation and/or final paper: 40%

(Analysis or proposal related to cross-sector collaboration involving NPOs)

Active participation is essential in this course, as it emphasizes dialogue, case analysis, and practical reflection.

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

NPO論2

池本 修悟

備考（履修条件等）：公共政策学「市民社会ガバナンス論」、連帯社会「NPO論（現状と課題）Ⅱ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、連帯社会の実現に向けて、NPOをはじめとする市民セクターにおける多様性（Diversity）・公正性（Equity）・包摂性（Inclusion）から成るDEIの実践を理論と現場の双方から学ぶ。
具体的には、先進的なDEIの取り組みを行うNPOの事例を取り上げるとともに、本学が全学的に推進しているDEIの取り組みを重要な学習資源として位置づけ、キャンパスそのものを「DEI実践のフィールド」として捉え、検討・評価する。
また、評価研究の専門家をゲストとして招き、DEIをどのように可視化・評価しうるのかについて議論するとともに、履修生自身がDEIの評価指標づくりに取り組む。
履修生は、企業、労働組合、労働金庫、共済、生協、NPOなど、それぞれの所属組織・実践領域と本学におけるDEI施策を比較検討し、自組織におけるDEIの現状と課題を評価・検討することを通じて、連帯社会に資するDEI実践のあり方を探究する。

【到達目標】

- 1. DEIの基本概念を、連帯社会およびNPOの文脈から説明できる
- 2. 大学や市民セクターに内在する排除や不平等の構造を分析できる
- 3. 組織運営・事業設計におけるDEI実践の課題を具体的に把握できる
- 4. 自身の所属組織において応用可能なDEI実践の視点や手法を整理し、言語化できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・教員による講義

各回の講義の資料は、事前に学習支援システムにアップする。これを読み、講義内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習を行っていることを前提として、授業を進めていく。毎回の講義は、原則として3分の2程度を教員からのプレゼンテーションとする。残りの時間で学生との質疑応答を含めた議論を行い、最後にまとめる。

・学生の発表

講義への理解度を確認するとともに、不明瞭な点を明確にするため、期間中に講義のまとめ（ふりかえり）のセッションを2回実施する。また、授業に関連したテーマのレポートの作成を行う。作成に先立ち、アウトラインを作成し、授業で発表する。レポートは、レジュメに基づいて発表を行う。ふりかえり、アウトライン、レポートの発表の際には、教員・受講生からフィードバックを受ける。

・オフィス・アワー

講義の疑問点やふりかえり、レポートの作成に関する指導を受けることができる。

・授業の形式

授業は、対面形式で行う予定。ただし、学生の希望や災害や感染症等によっては、オンラインで実施する可能性がある。その場合、ZoomのID・パスコード等については、学習支援システムにアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の進め方とフィールド設定。
第2回	ケーススタディ	DEIとは何か（理念と実装の違い）について法政大学におけるDEI実践から学ぶ。
第3回	DEIを「どう評価するか」①	社会課題解決に向けた評価方法の基礎を学ぶ。
第4回	DEIを「どう評価するか」②	DEI評価づくりのワークショップを行う。
第5回	DEIを「どう評価するか」③	前の週に行ったワークショップの結果できた評価指標をどのように活用するかを検討する。
第6回	DEIを「どう評価するか」④	具体的な調査手法を検討する。
第7回	組織にDEIを実装する①	DEI推進・評価に取り組むNPOからゲスト講師を招く。

第8回	組織にDEIを実装する②	労働組合、協同組合等へのDEI推進・評価の取り組みを導入するにはどうしたらよいかをグループワークを行う。
第9回	大学DEIをフィールドとして評価する①	第3回から6回までに作成したDEI評価指標を用いて評価を行う。
第10回	大学DEIをフィールドとして評価する②	第3回から6回までに作成したDEI評価指標を用いて評価を行う。
第11回	自組織のDEIを評価する①	受講生が所属する各自の組織を題材に評価設計を行う。
第12回	自組織のDEIを評価する②	「評価できること／できないこと」など、実装に向けた課題整理を行う。
第13回	最終発表	・大学DEI評価 or 自組織DEI評価の発表。
第14回	振り返り・総括	連帯社会におけるDEIと評価の意義を確認する。 全体振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大島巖『プログラム評価ハンドブックー社会課題解決に向けた評価方法の基礎・応用』2020、晃洋書房

【参考書】

法政大学DEIセンター
<https://www.hosei.ac.jp/diversity/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54>
一般財団法人PBEE研究・研修センター
<https://pbее-rc.org/>

【成績評価の方法と基準】

配分：平常点（授業中の議論への参加度など）50％、「ふりかえり」と最終発表50％。

最終発表の評価基準：授業内容との関連性、学術性、創意工夫、論旨、プレゼンテーション。

【学生の意見等からの気づき】

グループワーク等への評価は高いが、その反面インプット量が少なくなるため、意識的に参考文献などを紹介していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

前述のように授業は対面で実施する予定だが、オンライン授業になる可能性もある。オンライン事業の場合は、必要なPCやWi-Fi設備などを用意したうえで、学習支援システム利用できる環境の準備が必要。

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

ボランティア
NPO
コミュニティ・オーガナイズジング

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course explores the practice of Diversity, Equity, and Inclusion (DEI) within nonprofit organizations (NPOs) and the broader civic sector, with a focus on building a solidarity-based society.

Students examine DEI not only as a set of normative principles but as a practical framework embedded in organizational governance, program design, and evaluation.

The course introduces case studies of NPOs with advanced DEI practices and positions Hosei University's institution-wide DEI initiatives as a key learning resource. The campus itself is treated as a "field" for DEI practice and evaluation.

Students compare DEI initiatives at Hosei University with those in their own organizations—such as companies, labor unions, labor banks, mutual aid cooperatives, consumer cooperatives, and NPOs—and critically assess DEI practices in their respective contexts.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students will be able to:

- 1.Explain the core concepts of DEI within the context of a solidarity-based society and nonprofit organizations
 - 2.Analyze structures of exclusion and inequality embedded in universities and civic-sector organizations
 - 3.Identify practical challenges in implementing DEI in organizational management and program design
 - 4.Organize and articulate DEI perspectives and methods that can be applied to their own organizations
- (Learning activities outside of classroom)

Students are expected to engage in the following activities outside of class:

- ・Reading assigned materials and case studies provided in advance via the learning management system
- ・Preparing questions, comments, and reflections prior to each class session
- ・Reviewing materials and insights from guest lectures
- ・Conducting independent research related to DEI evaluation and practice
- ・Developing outlines and drafts for presentations and final assignments (Grading Criteria /Policy)

- ・ Class participation and engagement in discussions: 50%
(Includes contributions to discussions, reflection sessions, and feedback exchanges)
 - ・ Final presentation: 50%
(Assessed based on relevance to course content, academic rigor, originality, clarity of argument, and quality of presentation)
- Active participation is essential, as the course emphasizes dialogue, practical reflection, and collaborative learning.

POL500A3（政治学 / Politics 500）

シンクタンク論

蒔田 純

備考（履修条件等）：公共政策学、連帯社会と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策形成過程、統治機構、政官関係、国家－社会関係等、公共政策に関わる基礎的要素の概念的な意味と具体的な成り立ちに関する理解を踏まえ、それらにおいてシンクタンクがどのように位置づけられ、どのような役割を果たしているか、について考察する。

【到達目標】

- ・海外および国内の主要なシンクタンクについて、その機能と政策形成過程における役割について把握することができる。
- ・政策形成過程、統治機構、政官関係、国家－社会関係等、公共政策に関わる基礎的概念を踏まえた上で、シンクタンクという視点を通して、それらの仕組みや特徴、課題等について理解することができる。
- ・「仮説」⇒「検証」という科学的思考の基礎を踏まえて、公共政策の文脈の中で、シンクタンクと他の諸要素との因果関係について論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業前半では、「シンクタンクとは何か」「シンクタンク論を学ぶ意義とは何か」について踏まえた上で、国家－社会間関係や政策形成過程等、公共政策の概念をシンクタンクの視点から考察し、加えて、政策形成への人材供給や資金の在り方等、シンクタンクをめぐる主要な論点について検討する。これに基づき後半では、機能や母体等の観点からシンクタンクを分類した上で、海外・日本のそれぞれにおけるシンクタンクについて、その政策形成における位置づけや役割について具体的に論ずる。

特定の教科書は使用せず、毎回、レジュメを配布する。授業を行う上では、概念的な説明のみではなく、できるだけ具体的に現実における動きを踏まえた講義とすることを心掛けたい。場合によっては、実際にシンクタンクで働く方やその関係者等、各回のテーマに沿うゲストスピーカーを招聘し、実際におけるシンクタンクの働きをお話いただく。

授業は一方的な講義ではなく、受講者による質問・意見交換を歓迎する。一つの質問を基に教室中に議論が起こるような、参加型の学習空間としたい。授業後半では受講者に何らかのプレゼンテーションを行ってもらおう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（8月1日）	授業内容・日程等の説明、講師の自己紹介など
第2回	シンクタンクとは（8月1日）	シンクタンクの定義、歴史、機能など
第3回	国家と社会（8月1日）	国家－社会間関係、「政策ネットワーク論」など
第4回	政策形成とシンクタンク（8月1日）	政策形成過程の基礎、シンクタンクから見た政策形成過程
第5回	シンクタンクの人材（8月1日）	リポリングドア、政治任用など
第6回	シンクタンクの資金（8月2日）	フィランソロピー、501(C)3など

第7回	シンクタンクの分類（8月2日）	コントラクト、アカデミック、アドボカシーなど
第8回	海外のシンクタンク①（8月2日）	米国を中心に海外のシンクタンクについて
第9回	海外のシンクタンク②（8月2日）	米国を中心に海外のシンクタンクについて
第10回	日本のシンクタンク（8月2日）	日本のシンクタンクについて
第11回	立法補佐機関とシンクタンク（8月3日）	議会の立法活動を補佐する機関としての立法補佐機関とシンクタンクの関係性について
第12回	団体とシンクタンク（8月3日）	利益集団・圧力団体とシンクタンクの関係性について
第13回	自治体シンクタンク（8月3日）	自治体が創設したシンクタンクについて
第14回	まとめ（8月3日）	全体のまとめと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

Alex Abella, 2009. *Soldiers of Reason: The RAND Corporation and the Rise of the American Empire*, Mariner Books.

飯尾潤. 2007. 『日本の統治構造』中央公論新社.

小池洋次（編著）. 2010. 『政策形成』ミネルヴァ書房.

Shimizu, Mika. 2015 “Think Tanks and Policy Analysis: Meeting the Challenges of Think Tanks in Japan”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., *Policy Analysis in Japan*, Policy Press at the University of Bristol, Chap.14.

Smith, James A. 1991. *The Idea Brokers: Think Tanks and the Rise of the New Policy Elite*, Free Press.

鈴木崇弘. 2007. 『日本に民主主義を起業する一自伝的シンクタンク論』第一書林.

鈴木崇弘. 2011. 「日本になぜ（米国型）シンクタンクが育たなかったのか？」『季刊政策・経営研究』pp.30-50.

鈴木崇弘・上野真城子. 1993. 『世界のシンク・タンカー「知」と「治」を結ぶ装置』サイマル出版会.

鈴木崇弘・風巻浩・中林美恵子・上野真城子・成田喜一郎. 2005. 『シチズン・リテラシー—社会をよりよくするために私たちにできること』教育出版

Smith, James, 1993. *The Idea Brokers: ThinkTanks And The Ruse if The New Policy Elite*, Free Press.

Suzuki, Takahiro. 2015. “Policy Analysis and Policymaking by Japanese Political Parties”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., *Policy Analysis in Japan*, Policy Press at the University of Bristol, Chap.11.

建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史, 2008 『比較政治制度論』有斐閣.

横江公美, 2008. 『アメリカのシンクタンク 第五の権力の真相』ミネルヴァ書房.

横江公美, 2004. 『第五の権力 アメリカのシンクタンク』文藝春秋.

宮田智之, 2017. 『アメリカ政治とシンクタンク—政治運動としての政策研究機関—』東京大学出版会.

Weaver, R., 2002. *Think Tanks and Civil Societies: Catalysts for Ideas and Action*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

出席・質疑・討論参加45%、レポート35%、プレゼンテーション20%

＜評価基準＞

質疑・討論参加：積極性、分析力、批判力等

レポート・プレゼンテーション：分析力、論理性、新規性、簡潔性等

【学生の意見等からの気づき】

基本的な政治学用語、政治学的な考え方についても適宜、解説を行う。

【その他の重要事項】

レポートの提出期限、内容等については適宜指定する。

やむを得ず授業を欠席する際は、事前あるいは事後にその理由につき連絡すること。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞政治過程、議会、官僚機構、利益団体、地域政策

<研究テーマ>政治過程における民間アクターの役割、議会における立法補佐機関の機能、政策形成における政策ネットワークの役割など

<主要研究業績>

"Institutional development of legislative supporting agencies (LSAs) from a perspective of difference between presidential and parliamentary systems,"

Asian Journal of Comparative Politics, 2022 (<https://journals.sagepub.com/doi/pdf/10.1177/20578911221138475>).

"The institutional development of Legislative Supporting Agencies (LSAs) focusing on the differences among parliamentary-system countries," Parliaments, Estates and Representation, 42(3), 2022, pp.324-340.

"A Study of the Functions of Political Appointees from a Comparative Perspective," Asian Journal of Comparative Politics, 7(1), 2022, pp.146-161.

『立法補佐機関の制度と機能－各国比較と日本の実証分析』晃洋書房、2013年。

【Outline (in English)】

Examining how think-tanks play a role in the political process, based on the understandings regarding the concept meanings and concrete structures of fundamental factors about public policy including policy process, political structure, politician-bureaucrats relationship, nation-society relationship.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Class contribution: 45%、Reports : 35%、Presentation: 20%

< Evaluation standards >

Class contribution: positiveness, analytical capability, critical capability

Reports and presentation: analytical capability, logicity, novelty, simplicity

POL500A3（政治学 / Politics 500）

国際政治の基礎理論 1

青野 利彦

備考（履修条件等）：学部「国際政治学入門」、国際政治学「国際政治理論」、公共政策学・サステナビリティ学「国際政治学基礎」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治学とはどのような学問か。この講義では国際政治学の基礎的な考えを学び、現実の国際政治を理解するための基本的な概念や理論について学ぶことを目的とします。

【到達目標】

- 1. 国際政治学における重要な概念や基礎的な理論について理解し、現実の国際政治を客観的に分析する道具を身につける。
- 2. 国際政治の出来事を学問的に理解し、思い込みや固定観念にとらわれない見方を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本として、講義形式で行います。授業では、定期的にリアクションペーパーを提出してもらう予定です。受講者数によってはディスカッション等を適宜取り入れる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：国際政治学とはなにか	国際政治学とはなにかを、どのように考える学問か。どのように発展してきたか、概略を学ぶ。
2	主権国家体系とは何か	国際政治の舞台となる主権国家体系の成立過程とその性質について、近代ヨーロッパの国際関係を概観しながら検討する。
3	リアリズム	国際政治学の主要理論の一つであるリアリズムという見方について、その背後にある人間観や哲学を踏まえたうえで解説する。
4	リベラリズム	国際政治学の理論の一つであるリベラリズムについて、その背後にある人間観や哲学を踏まえて解説する。
5	ネオ・リアリズムとネオ・リベラリズム	「科学的」であろうとした1970年代以降の国際政治理論の二つの系譜について解説する。
6	構成主義論（コンストラクティビズム）	（ネオ）リアリズム、（ネオ）リベラリズムの説明力の限界を踏まえて冷戦後に登場した、新たな理論的潮流について説明する。
7	パワーとはなにか	リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムという三つの主要理論に関する講義を踏まえて、改めて国際政治学の中心概念である「パワー」について検討する。

8	勢力均衡と同盟	安全保障問題を考える際に必須の勢力均衡、同盟という二つの事象について、理論と歴史を踏まえながら解説する。
9	抑止と核抑止	安全保障問題を考える際に重要な抑止という概念について、核兵器の登場がもたらした影響を踏まえながら、理論と歴史の両面から検討する。
10	覇権安定論と覇権後	イギリスやアメリカのような突出したパワーを持つ国は、国際秩序の形成にどのような役割を果たしたか、歴史と理論の視角から検討する。
11	グローバル化と国際的相互依存	グローバル化として知られる国境を越えた経済的なつながりの拡大は、国際政治の力学をどう変えたのか解説する。
12	政策決定過程論	一国の対外政策はどのように決定されるのか。アリソンが提起した政策決定に関する三つのモデルと、パットナムが提起した「2レベル・ゲーム」モデルを中心に講義する。
13	ナショナリズム	ナショナリズムとはなにか。それは、どのように対外政策と国際関係に影響を与えるのか。理論と歴史の両面から検討する。
14	まとめ	13回の講義内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義のレジュメの事前予習1時間、講義終了後の復習や参考文献の読解に2時間、合計3時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回レジュメを配布する。

【参考書】

講義全体の参考書として、いくつか紹介する。テーマ毎の参考文献はレジュメに記載する。

- 国際政治学の入門書・教科書
- ・大芝亮『国際政治理論－パズル・概念・解釈』（ミネルヴァ書房、2016年）
- ・藤原帰一『国際政治』（放送大学教育振興会、2007年）
- ・村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、栗栖薫子、秋山信将著『国際政治学をつかむ（第3版）』（有斐閣 2023年）
- ・山田敦・和田洋典・倉科一希編『新版 国際関係学: 地球社会を理解するために』（有信堂高文社、2025年）
- 国際政治史・外交史
- 国際政治学を履修する際は、高校の世界史や大学の国際政治史の教科書を手元に置いておくと、事例研究について調べる際に役立つ。例として以下をあげておく。
- ・小川浩之、板橋拓己、青野利彦『国際政治史-主権国家体系のあゆみ（第二版）』（有斐閣 2024年）
- ・森聡、福田円編『入門講義 戦後国際政治史』（慶應義塾大学出版会 2022年）

【成績評価の方法と基準】

授業中のリアクションペーパー提出（30%）および期末試験（70%）の合計100%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

What is international politics as a field of study? This course offers an introduction to basic technical terms and theoretical models for analyzing international politics. Students are expected to obtain basic knowledge and skills to better grasp the dynamics of world politics.

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

国際開発政策研究 1

武貞 稔彦

備考（履修条件等）：国際政治学「国際協力政策研究 1」、公共政策学・サステナビリティ学「国際協力論」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義のテーマは貧困削減のための国際協力、開発援助のありようである。SDGs（持続可能な開発目標）に示されているように、戦後国際社会の大きな課題の一つ-貧困-に立ち向かうために行われている営みである開発援助や国際協力は、どのような動機や意図をもって行われ、どのような効果をこれまでもたらしてきたかを検討し、将来の国際協力のあり方、さらには国際社会のあり方についても議論する。

【到達目標】

一連の講義と議論を通じ、受講生は以下の諸点を達成することが期待される。(1)現代の国際社会の中で行なわれる様々な国際協力や援助、特に、貧困、開発、環境をめぐる国際協力や援助の歴史と制度について基礎的な知識を獲得すること、(2)国際協力や援助をめぐる現代の主要なトピックに関する基礎的な知識を獲得すること、および、(3)誰が何のためにどのような国際協力や援助を行なっているのか、について批判的に見る目を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各回の講義は、①教員による講義、②基本的な文献に関する学生の報告、③ディスカッションで構成する。事前に指定された文献を読んで各回の授業に参加することが必須であり、予習に十分な時間を割くことが必要となる。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせる。

報告対象とする文献については、2026年度秋学期開始前に学習支援システムを通じて通知／配布予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	オリエンテーション 国際協力はなぜ行なわれるのか	国際協力という取り組みが必要とされる理由や背景—途上国の貧困と先進国との格差—について概観する。
第3,4回	国際協力をめぐる歴史と制度（1）経済成長と国際協力	第二次世界大戦後の国際社会秩序形成と、その後1970年代までの国際協力の取り組みを、国際社会の政治／歴史の文脈に位置づけて概観する。
第5,6回	国際協力をめぐる歴史と制度（2）経済成長路線から人間開発路線へ	1980年代、90年代の国際協力の変遷をたどり、基本的な考え方／取り組みの重点の変化を概観する。
第7,8回	国際協力をめぐる歴史と制度（3）環境と持続可能な開発	2000年代以降の国際協力の変遷を国際社会における課題設定や変動の中に位置づける。
第9,10回	日本による国際協力	日本による国際協力の歴史と制度について概観する。そのうえで、その成果および評価を検討する。

第 11,12 回 「開発」とは何か：開発と文化、社会科学

現在すすめられている開発の到達目標（行き着く先）について文化や社会科学の方法論の観点も含め批判的に検討する。

第 13,14 回 民間企業と国際協力

国際協力の主要なアクターの一つとなっている民間企業の活動について概観し、その将来像について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

松本勝男著（2023年）『日本型開発協力 一途上国支援はなぜ必要なのか』（ちくま新書）
牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』（学陽書房）
勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）
外務省（毎年発行）『日本の開発協力』（ODA白書）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末レポート(50%)、各回の担当報告の内容(30%)、授業やディスカッションへの貢献(20%)を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】

過去には議論の時間の充実（拡大）を求める声があったことから、授業運営には留意することとする。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理

<研究テーマ> 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」

<主要研究業績>

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,

『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房2012年,

"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., *Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature*. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course is an advanced course for International Development and Development Assistance. Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as a strong tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. The class consists of lectures and readings focusing on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting a special emphasis on Japan's role in the international society.

[Learning Objectives]

Completing the course, students are expected;

- 1) to acquire basic knowledge on history and institutions in international development efforts,
- 2) to acquire basic knowledge on current/important issues in international development, and

3) to critically analyze who engages in international development efforts and why.

[Learning Activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on a comprehensive evaluation of the final report (50%), the content of each assigned report (30%), and contributions to the class and discussions (20%).

POL600A3（政治学 / Politics 600）

国際地域研究 1

熊倉 潤

備考（履修条件等）：国際政治学「国際地域研究（中国）（1）」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の政治及び現代史について学ぶ。中国の政治・社会の特徴、歴史的な形成過程等についてゼミ形式で論じ、認識を深める。

【到達目標】

本授業の目標は、中国語の研究書、論文等の読解を通じて、中国政治、現代史に関する学術論文を執筆する基礎的な力を養うことにある。また中国語がネイティブでない学生の中国語力、日本語がネイティブでない学生の日本語力を高めることにある。研究者を目指す学生に関しては、特に本授業での学問的修練を経て、次代の中国地域研究を担う人材となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は演習（ゼミ）形式で、【授業計画】に沿って中国語、日本語の研究書、論文等を輪読する。対面授業を想定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	初回ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第2回	毛沢東時代（1）	受講者による文献の読解とディスカッション
第3回	毛沢東時代（2）	受講者による文献の読解とディスカッション
第4回	毛沢東時代（3）	受講者による文献の読解とディスカッション
第5回	毛沢東時代（4）	受講者による文献の読解とディスカッション
第6回	毛沢東時代（5）	受講者による文献の読解とディスカッション
第7回	毛沢東時代（6）	受講者による文献の読解とディスカッション
第8回	フィールドワーク	アジア経済研究所図書館を訪問しての実地研修を予定
第9回	毛沢東時代（7）	受講者の研究報告とディスカッション
第10回	毛沢東時代（8）	受講者の研究報告とディスカッション
第11回	毛沢東時代（9）	受講者の研究報告とディスカッション
第12回	毛沢東時代（10）	受講者の研究報告とディスカッション
第13回	毛沢東時代（11）	受講者の研究報告とディスカッション
第14回	学期末の総括	今学期の授業内容を振り返るとともに、各自が夏休みの研究計画、修士論文執筆計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。受講者の研究テーマに応じて、中国語、日本語の研究書、論文を指示する。

【参考書】

参考書は指定しないが、参考となる論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（50%）、議論への参加度（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見を踏まえて、受講生の関心に近い文献を取り上げている

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

中国語の文献を扱うため、中国語が読めることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>中国、旧ソ連の政治、現代史

<研究テーマ>中ソ関係、民族問題

<主要研究業績>『民族自決と民族団結——ソ連と中国の民族エリート』東京大学出版会、2020年。

【Outline (in English)】

In this class, we will study Chinese politics and modern history, and discuss characteristics of Chinese politics and society, and the historical process.

POL600A3（政治学 / Politics 600）

国際地域研究 2

熊倉 潤

備考（履修条件等）：国際政治学「国際地域研究（中国）（2）」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の政治及び現代史について学ぶ。中国の政治・社会の特徴、歴史的形過程等についてゼミ形式で論じ、認識を深める。

【到達目標】

本授業の目標は、中国語の研究書、論文等の読解を通じて、中国政治、現代史に関する学術論文を執筆する基礎的な力を養うことにある。また中国語がネイティブでない学生の中国語力、日本語がネイティブでない学生の日本語力を高めることにある。研究者を目指す学生に関しては、特に本授業での学問的修練を経て、次代の中国地域研究を担う人材となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は演習（ゼミ）形式で、【授業計画】に沿って中国語、日本語の研究書、論文等を輪読する。対面授業を想定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	初回ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第2回	ポスト毛沢東時代（1）	受講者による文献の読解とディスカッション
第3回	ポスト毛沢東時代（2）	受講者による文献の読解とディスカッション
第4回	ポスト毛沢東時代（3）	受講者による文献の読解とディスカッション
第5回	ポスト毛沢東時代（4）	受講者による文献の読解とディスカッション
第6回	中国社会研究の専門家の講演	専門家の講演を通じて、中国社会への理解を深める
第7回	ポスト毛沢東時代（5）	受講者による文献の読解とディスカッション
第8回	ポスト毛沢東時代（6）	受講者による文献の読解とディスカッション
第9回	ポスト毛沢東時代（7）	受講者の研究報告とディスカッション
第10回	ポスト毛沢東時代（8）	受講者の研究報告とディスカッション
第11回	ポスト毛沢東時代（9）	受講者の研究報告とディスカッション
第12回	ポスト毛沢東時代（10）	受講者の研究報告とディスカッション
第13回	ポスト毛沢東時代（11）	受講者の研究報告とディスカッション
第14回	総括	今年度の学習内容を振り返り、今後の研究計画につなげる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者の研究テーマに応じて、中国語、日本語の研究書、論文を指示する。

【参考書】

参考書は指定しないが、参考となる論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（50%）、議論への参加度（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見を踏まえて、受講生の関心に近い文献を取り上げている

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

中国語の文献を扱うため、中国語が読めることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>中国、旧ソ連の政治、現代史

<研究テーマ>中ソ関係、民族問題

<主要研究業績>『民族自決と民族団結——ソ連と中国の民族エリート』東京大学出版会、2020年。

【Outline (in English)】

In this class, we will study Chinese politics and modern history, and discuss characteristics of Chinese politics and society, and the historical process.

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

アメリカ政治研究 1

中野 勝郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治史や政治思想史研究の考察方法を修得するための一助として、アメリカ政治についての思想的・理論的考察をおこなう。

【到達目標】

- ・英語文献を正確に読む能力を高める。
- ・アメリカ合衆国について、自由主義的伝統（進歩的思想）とは異なる政治思想への考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」「DP3」は特に強く関連している。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキストの精読 1	Hannah Arendt, On Revolution 1
第2回	テキストの精読 2	Hannah Arendt, On Revolution 2
第3回	テキストの精読 3	Hannah Arendt, On Revolution 3
第4回	テキストの精読 4	Hannah Arendt, On Revolution 4
第5回	テキストの精読 5	Hannah Arendt, On Revolution 5
第6回	テキストの精読 6	Hannah Arendt, On Revolution 6
第7回	テキストの精読 7	Hannah Arendt, On Revolution 7
第8回	テキストの精読 8	Hannah Arendt, On Revolution 8
第9回	テキストの精読 9	Hannah Arendt, On Revolution 9
第10回	テキストの精読 10	Hannah Arendt, On Revolution 10
第11回	テキストの精読 11	Hannah Arendt, On Revolution 11
第12回	テキストの精読 12	Hannah Arendt, On Revolution 12
第13回	テキストの精読 13	Hannah Arendt, On Revolution 13
第14回	テキストの精読 14	Hannah Arendt, On Revolution 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Hannah Arendt, On Revolution

【参考書】

授業中、適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline) A historical approach to the U.S. politics (Learning Objectives) By the end of this course, student should be able to explore an intellectual tradition other than liberalism

(Learning activities outside of classroom) N/A

(Grading Criteria /Policy) Student's Class Performance, 100%

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

アメリカ政治研究 2

中野 勝郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治史や政治思想史研究の考察方法を修得するための一助として、アメリカ政治についての思想的・理論的考察をおこなう。

【到達目標】

- ・英語文献を正確に読む能力を高める。
- ・アメリカ合衆国について、自由主義的伝統（進歩的思想）とは異なる政治思想への考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」「DP4」は特に強く関連している。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキストの精読1	Hannah Arendt, On Revolution1
第2回	テキストの精読2	Hannah Arendt, On Revolution2
第3回	テキストの精読3	Hannah Arendt, On Revolution3
第4回	テキストの精読4	Hannah Arendt, On Revolution4
第5回	テキストの精読5	Hannah Arendt, On Revolution5
第6回	テキストの精読6	Hannah Arendt, On Revolution6
第7回	テキストの精読7	Hannah Arendt, On Revolution7
第8回	テキストの精読8	Hannah Arendt, On Revolution8
第9回	テキストの精読9	Hannah Arendt, On Revolution9
第10回	テキストの精読10	Hannah Arendt, On Revolution10
第11回	テキストの精読11	Hannah Arendt, On Revolution11
第12回	テキストの精読12	Hannah Arendt, On Revolution12
第13回	テキストの精読13	Hannah Arendt, On Revolution13
第14回	テキストの精読14	Hannah Arendt, On Revolution14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Hannah Arendt, On Revolution

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline) A historical approach to the U.S. politics (Learning Objectives) By the end of this course, student should be able to explore an intellectual tradition other than liberalism

(Learning activities outside of classroom) N/A

(Grading Criteria /Policy) Student's Class Performance,100%

POL600A3（政治学 / Politics 600）

アメリカ外交研究Ⅰ

青野 利彦

備考（履修条件等）：学部「アメリカ外交史Ⅰ」、国際政治学「アメリカ外交史」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、現在のアメリカ外交を理解するために必要な、歴史的背景や経緯について基礎的な知識を獲得することである。講義では主として第二次世界大戦後からベトナム戦争が泥沼化した1960年代末までの時期を扱うが、戦後アメリカ外交を理解する上で重要な20世紀初頭までの歴史的背景についても概観する。アメリカの対外政策を規定した内政上の要因や、逆に対外関係が内政に与えた影響についても留意しながら講義を進める。（なお、1970年代～2020年代までのアメリカ外交は、2027年度にアメリカ外交Ⅱで扱う予定。）

【到達目標】

科目修得した時点で以下の諸点を把握していることが期待される。
(1) 建国期に起源を持つアメリカ外交の思想的基盤と、それが以降のアメリカ外交に与えた影響。
(2) 建国期から第二次世界大戦、冷戦開始期を経て、1960年代末にいたるまでのアメリカ対外政策の歴史の概要、
(3) アメリカの対外政策形成に影響を与えた国際環境や国内政治の影響。
(4) アメリカ外交が世界に与えたインパクト。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で行うが、受講者数次第で適宜ディスカッションを取り入れる可能性がある。定期的にリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション「アメリカ外交を見る視角」	アメリカ外交をどのような歴史的視角から見るべきかについて検討し、授業の概要を紹介する。
第2回	アメリカ外交の歴史的基盤（1）	建国（1776年）から19世紀末まで
第3回	アメリカ外交の歴史的基盤（2）	20世紀初頭から第一次世界大戦まで
第4回	第二次世界大戦と冷戦の起源（1）	戦間期から第二次世界大戦まで
第5回	第二次世界大戦と冷戦の起源（2）	第二次世界大戦末期～冷戦初期
第6回	朝鮮戦争と冷戦の軍事化（1）	戦後アメリカの東アジア政策の展開
第7回	朝鮮戦争と冷戦の軍事化（2）	朝鮮戦争の勃発とその影響、米国内におけるマッカーシズムの展開
第8回	アイゼンハワー政権とニュールック戦略（1）	アイゼンハワー政権の登場とニュールック戦略の概観、大量報復戦略の適用
第9回	アイゼンハワー政権とニュールック戦略（2）	第三世界への介入拡大、1950年代のアメリカの内政・社会と冷戦
第10回	ケネディ政権とベルリン・キューバ危機（1）	アイゼンハワー政権後期の東西対立の高まり、ケネディ政権の冷戦戦略の概観
第11回	ケネディ政権とベルリン・キューバ危機（2）	ケネディ政権期の米ソ関係とキューバ危機の勃発・展開・解決および影響
第12回	ベトナム戦争とアメリカ的価値観の揺らぎ（1）（ケネディ期まで）	ジョンソン政権期の米ソ関係、ベトナム戦争の起源と展開
第13回	ベトナム戦争とアメリカ的価値観の揺らぎ（2）	ジョンソン政権のアメリカの直接介入、戦争の泥沼化とその影響、1960年代末の米国社会
第14回	まとめ	講義内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義のレジュメを事前に予習するのに1時間、講義終了後に内容を復習したり関連文献を読解するのに2時間、合計3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定せず、毎回レジュメを配布する。各テーマの参考文献はレジュメで紹介する。なお教科書指定はしないが、授業内容の確認に役立つ書籍として以下を参照。
青野利彦『冷戦史』上下、中公新書、2023年（上巻全体および下巻7章）
青野利彦・倉科一希・宮田伊知郎『現代アメリカ政治外交－「アメリカの世紀」から「アメリカ第一主義」まで』（ミネルヴァ書房、2020年）序章～第4章。

【参考書】

参考書として以下もあげておく
小川浩之、板橋拓巳、青野利彦『国際政治史――主権国家体系のあゆみ〔新版〕』有斐閣、2024年。特に5～10章。
佐々木卓也編『新版 戦後アメリカ外交史 第3版』有斐閣、2017年
佐々木卓也『冷戦』有斐閣、2011年
西崎文子『アメリカ外交史』東京大学出版会、2022年
益田実・齋藤嘉臣編著『冷戦史－超大国米ソの出現からソ連崩壊まで』法律文化社、2024年

【成績評価の方法と基準】

学期中のリアクションペーパー：30％
期末試験：70％
上記合計の100点満点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者につきフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

無し

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic knowledge of the historical background and context essential to understand contemporary American foreign policy. While the lectures primarily cover the period from the end of World War II to the late 1960s when the Vietnam War became entrenched, they also provide an overview of the historical background from the American Revolution in the late 18 century to the first four decades of the 20th century, which is crucial for understanding postwar American diplomacy. It also pays attention to the intersections between domestic political and social factors and foreign policy. (Note: American foreign policy from the 1970s to the 2020s is scheduled to be covered in American Diplomatic History II in the 2027 academic year.)

POL600A3 (政治学 / Politics 600)

国際行政研究 2

坂根 徹

備考 (履修条件等)：国際政治学「国際公共政策研究2」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目では、「国際公共政策分野：International Public Policy Areas」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考力も涵養していくことを目的とする。

【到達目標】

本科目の到達目標は、国際公共政策 (国際行政研究 2 では、以下と上記の国際公共政策の記載を国際行政に読み替えて頂きたい) について、複数の政策分野を取り上げ理解を深めつつ、各自が関心を持つ具体的なテーマや政策分野について調査研究を行い、その考察結果を発表し議論することができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

まずガイダンスで、本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心や関連科目・文献等の既習状況を確認する。そして、具体的な国際公共政策分野について関係する国連システム諸機関に注目して日本との関係を含めて検討する。また、履修者が各自の関心に基づき選定したテーマについて、調査研究を行い、その中間及び最終結果を発表し、あわせて発表後に検討・議論等を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本科目のテーマや進め方について説明する
2	国際公共政策分野 1	持続可能な開発 (SDGs) 政策又は地球環境・エネルギー政策についての検討
3	各自の関心の表明と検討	国際公共政策についての各自の関心テーマの表明と取り上げる政策分野を含めた検討
4	各自の関心テーマを踏まえた今後の調査研究の検討	国際公共政策についての各自の関心に基づく調査研究テーマの選定と今後の調査研究の検討
5	国際公共政策分野 2	国際安全保障・国連PKO 政策又は防災・人道・危機管理政策についての検討
6	国際公共政策分野 3	上記で取り上げなかった方の政策についての検討
7	国際公共政策分野 4	国際貿易・金融・経済政策又は国際感染症・保健医療・公衆衛生政策についての検討
8	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する進捗状況や課題についての中間発表
9	国際公共政策分野 5	移民・難民・国際人権政策又は国際教育・文化・科学技術政策についての検討
10	国際公共政策分野 6	上記で取り上げなかった方の政策についての検討

11	調査研究テーマの最終発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関して最終発表に向けての検討
12	調査研究テーマの最終発表 1	各自の調査研究テーマに関する最終発表の開始
13	調査研究テーマの最終発表 2	各自の調査研究テーマに関する最終発表の継続
14	調査研究テーマの最終発表 3 とまとめ	各自の調査研究テーマに関する最終発表の継続とまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回授業テーマの学習に加えて、特に調査研究発表に向けての事前準備にまとまった時間を充当して行うこと。本授業の準備・復習に要する時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

福田耕治・坂根徹『国際行政の新展開：国連・EU とSDGsのグローバル・ガバナンス』法律文化社、2020年。

【参考書】

開講時やその後の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学習状況・最終発表よりも前の発表・授業での積極的貢献・参加度 (平常点) を50%、最終発表・議論を50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

以下の【その他の重要事項】を参照されたい。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、実際の授業の進捗、履修生の数や関心テーマ等により修正・変更されることがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際公共政策・国連研究・行政学等

<研究テーマ>国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・調達行政等

<研究業績の例 (単著論文から3篇を抜粋)>

・「国連システム諸機関の財政の変容—加盟国からの財政収入に焦点を当てた分析」(日本国際連合学会編『変容する国際社会と国連』国連研究第20号、国際書院、2019年に所収)

・「国連PKOの財政支出構造と政府・企業からの調達」(日本国際連合学会編『日本と国連—多元的視点からの再考』国連研究第13号、国際書院、2012年に所収)

・“Public Procurement in the United Nations System” (in Khi V. Thai ed., International Handbook of Public Procurement, Taylor and Francis, 2008)

【Outline (in English)】

Main theme of this course is to learn and consider about international public policy areas. By taking this course, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various policies.

In average, your study time outside of each class will be about 4 hours. Actual needed time will be varied depending on various elements especially when each student is assigned and scheduled presentations and final report submission due date. Grading will be decided based on presentations and discussion (50%), and in-class contribution (50%).

LAW988A3（法学 / law 900）

修士論文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
---	-----	----

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

POL700A3 (政治学 / Politics 700)

博士論文演習ⅠA

山口 二郎

その他属性：

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

This seminar aims at building a plan for dissertation and confirming gradual progress for that goal.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、博士論文作成のために必要な技能を学習するとともに、論文の進捗状況を確認することを目的とする。

【到達目標】

博士論文執筆のためのスケジュールを立て、それを自ら達成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

最初に論文のテーマを設定し、毎回、必要な文献の紹介、論文の道筋に関する構想を報告してもらい、教員がそれについて講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント1
第2回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント2
第3回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント3
第4回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント4
第5回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント5
第6回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント6
第7回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント7
第8回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント8
第9回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント9
第10回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント10
第11回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント11
第12回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント12
第13回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント13
第14回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

院生との対話を深めていきたい。

POL700A3 (政治学 / Politics 700)

博士論文演習ⅠB

山口 二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、博士論文作成のために必要な技能を学習するとともに、論文の進捗状況を確認することを目的とする。

【到達目標】

博士論文執筆のためのスケジュールを立て、それを自ら達成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

最初に論文のテーマを設定し、毎回、必要な文献の紹介、論文の道筋に関する構想を報告してもらい、教員がそれについて講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント1
第2回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント2
第3回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント3
第4回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント4
第5回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント5
第6回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント6
第7回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント7
第8回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント8
第9回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント9
第10回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント10
第11回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント11
第12回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント12
第13回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント13
第14回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

院生との対話を深めていきたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

This seminar aims at building a plan for dissertation and confirming gradual progress for that goal.

POL700A3（政治学 / Politics 700）

博士論文演習ⅢA

杉田 敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、博士課程に在籍の学生に対し、博士論文執筆に向けて指導を行うものである。

【到達目標】

各自の博士論文執筆に向けた個別の指導を行い、論文完成へと導く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

毎回、学生から研究の進捗状況を聞き、研究上必要な文献の指摘や、論点についての解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文指導 1	論文の進捗状況の確認とコメント 1
第2回	論文指導 2	論文の進捗状況の確認とコメント 2
第3回	論文指導 3	論文の進捗状況の確認とコメント 3
第4回	論文指導 4	論文の進捗状況の確認とコメント 4
第5回	論文指導 5	論文の進捗状況の確認とコメント 5
第6回	論文指導 6	論文の進捗状況の確認とコメント 6
第7回	論文指導 7	論文の進捗状況の確認とコメント 7
第8回	論文指導 8	論文の進捗状況の確認とコメント 8
第9回	論文指導 9	論文の進捗状況の確認とコメント 9
第10回	論文指導 1 0	論文の進捗状況の確認とコメント 1 0
第11回	論文指導 1 1	論文の進捗状況の確認とコメント 1 1
第12回	論文指導 1 2	論文の進捗状況の確認とコメント 1 2
第13回	論文指導 1 3	論文の進捗状況の確認とコメント 1 3
第14回	論文指導 1 4	論文の進捗状況の確認とコメント 1 4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講義前に、各自が必要な時間を用いて、その都度の研究状況についてメモにまとめ、質問点を整理しておく。

【テキスト（教科書）】

その都度、指定する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

論文執筆に向けた進捗度により評価する。平常点100点。

【学生の意見等からの気づき】

今後、アンケートをふまえ対応する。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>政治学

<研究テーマ>政治理論

<主要研究業績>

『権力論』、『境界線の政治学 増補版』（いずれも岩波現代文庫）、『自由とセキュリティ』（集英社新書）

【Outline (in English)】

This class aims to help students in the doctoral course to write their theses.

POL700A3（政治学 / Politics 700）

博士論文演習ⅢB

杉田 敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、博士課程に在籍の学生に対し、博士論文執筆に向けて指導を行うものである。

【到達目標】

各自の博士論文執筆に向けた個別の指導を行い、論文完成へと導く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

毎回、学生から研究の進捗状況を聞き、研究上必要な文献の指摘や、論点についての解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文指導1	論文の進捗状況の確認とコメント1
第2回	論文指導2	論文の進捗状況の確認とコメント2
第3回	論文指導3	論文の進捗状況の確認とコメント3
第4回	論文指導4	論文の進捗状況の確認とコメント4
第5回	論文指導5	論文の進捗状況の確認とコメント5
第6回	論文指導6	論文の進捗状況の確認とコメント6
第7回	論文指導7	論文の進捗状況の確認とコメント7
第8回	論文指導8	論文の進捗状況の確認とコメント8
第9回	論文指導9	論文の進捗状況の確認とコメント9
第10回	論文指導10	論文の進捗状況の確認とコメント10
第11回	論文指導11	論文の進捗状況の確認とコメント11
第12回	論文指導12	論文の進捗状況の確認とコメント12
第13回	論文指導13	論文の進捗状況の確認とコメント13
第14回	論文指導14	論文の進捗状況の確認とコメント14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講義前に、各自が必要な時間を用いて、その都度の研究状況についてメモにまとめ、質問点を整理しておく。

【テキスト（教科書）】

その都度、指定する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

論文執筆に向けた進捗度により評価する。平常点100点。

【学生の意見等からの気づき】

今後、アンケートをふまえて対応する

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞政治学

＜研究テーマ＞政治理論

＜主要研究業績＞『権力論』、『境界線の政治学 増補版』（いずれも岩波現代文庫）、『自由とセキュリティ』（集英社新書）

【Outline (in English)】

This is a tutorial for students in the doctoral course.

POL700A3（政治学 / Politics 700）

博士論文演習ⅢA

犬塚 元

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、博士論文作成のために必要な技能を学習するとともに、論文の進捗状況を確認することを目的とする。

【到達目標】

博士論文執筆のためのスケジュールを立て、それを自ら達成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

最初に論文のテーマを設定し、毎回、必要な文献の紹介、論文の道筋に関する構想を報告してもらい、教員がそれについて講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント1
第2回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント2
第3回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント3
第4回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント4
第5回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント5
第6回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント6
第7回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント7
第8回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント8
第9回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント9
第10回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント10
第11回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント11
第12回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント12
第13回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント13
第14回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

ニーズやスケジュールをふまえた授業展開とします。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞政治思想史

＜研究テーマ＞政治思想史

＜主要研究業績＞ウェブサイト参考

【Outline (in English)】

This course helps students acquire important skills to complete a PhD dissertation.

POL700A3（政治学 / Politics 700）

博士論文演習ⅢB

犬塚 元

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、博士論文作成のために必要な技能を学習するとともに、論文の進捗状況を確認することを目的とする。

【到達目標】

博士論文執筆のためのスケジュールを立て、それを自ら達成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

最初に論文のテーマを設定し、毎回、必要な文献の紹介、論文の道筋に関する構想を報告してもらい、教員がそれについて講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント1
第2回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント2
第3回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント3
第4回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント4
第5回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント5
第6回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント6
第7回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント7
第8回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント8
第9回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント9
第10回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント10
第11回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント11
第12回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント12
第13回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント13
第14回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

ニーズとスケジュールをふまえた授業展開とします。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞政治思想史

＜研究テーマ＞政治思想史

＜主要研究業績＞ウェブサイト参照

【Outline (in English)】

This course helps students improve academic skills.

POL700A3（政治学 / Politics 700）

博士論文演習ⅢA

河野 有理

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、博士課程に在籍の学生に対し、博士論文執筆に向けて指導を行うものである。

【到達目標】

各自の博士論文執筆に向けた個別の指導を行い、論文完成へと導く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

毎回、学生から研究の進捗状況を聞き、研究上必要な文献の指摘や、論点についての解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文指導 1	論文の進捗状況の確認とコメント 1
第2回	論文指導 2	論文の進捗状況の確認とコメント 2
第3回	論文指導 3	論文の進捗状況の確認とコメント 3
第4回	論文指導 4	論文の進捗状況の確認とコメント 4
第5回	論文指導 5	論文の進捗状況の確認とコメント 5
第6回	論文指導 6	論文の進捗状況の確認とコメント 6
第7回	論文指導 7	論文の進捗状況の確認とコメント 7
第8回	論文指導 8	論文の進捗状況の確認とコメント 8
第9回	論文指導 9	論文の進捗状況の確認とコメント 9
第10回	論文指導 1 0	論文の進捗状況の確認とコメント 1 0
第11回	論文指導 1 1	論文の進捗状況の確認とコメント 1 1
第12回	論文指導 1 2	論文の進捗状況の確認とコメント 1 2
第13回	論文指導 1 3	論文の進捗状況の確認とコメント 1 3
第14回	論文指導 1 4	論文の進捗状況の確認とコメント 1 4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講義前に、各自が必要な時間を用いて、その都度の研究状況についてメモにまとめ、質問点を整理しておく。

【テキスト（教科書）】

その都度、指定する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

論文執筆に向けた進捗度により評価する。平常点100点。

【学生の意見等からの気づき】

今後、アンケートをふまえ対応する。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野>政治学

<研究テーマ>日本政治思想史

<主要研究業績>

『明六雑誌の政治思想』『田口卯吉の夢』

【Outline (in English)】

This class aims to help students in the doctoral course to write their theses,

POL700A3（政治学 / Politics 700）

博士論文演習ⅢB

河野 有理

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、博士課程に在籍の学生に対し、博士論文執筆に向けて指導を行うものである。

【到達目標】

各自の博士論文執筆に向けた個別の指導を行い、論文完成へと導く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

毎回、学生から研究の進捗状況を聞き、研究上必要な文献の指摘や、論点についての解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文指導1	論文の進捗状況の確認とコメント1
第2回	論文指導2	論文の進捗状況の確認とコメント2
第3回	論文指導3	論文の進捗状況の確認とコメント3
第4回	論文指導4	論文の進捗状況の確認とコメント4
第5回	論文指導5	論文の進捗状況の確認とコメント5
第6回	論文指導6	論文の進捗状況の確認とコメント6
第7回	論文指導7	論文の進捗状況の確認とコメント7
第8回	論文指導8	論文の進捗状況の確認とコメント8
第9回	論文指導9	論文の進捗状況の確認とコメント9
第10回	論文指導10	論文の進捗状況の確認とコメント10
第11回	論文指導11	論文の進捗状況の確認とコメント11
第12回	論文指導12	論文の進捗状況の確認とコメント12
第13回	論文指導13	論文の進捗状況の確認とコメント13
第14回	論文指導14	論文の進捗状況の確認とコメント14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講義前に、各自が必要な時間を用いて、その都度の研究状況についてメモにまとめ、質問点を整理しておく。

【テキスト（教科書）】

その都度、指定する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

論文執筆に向けた進捗度により評価する。平常点100点。

【学生の意見等からの気づき】

論文執筆に向けた進捗度により評価する。平常点100点。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞政治学

＜研究テーマ＞政治思想史

＜主要研究業績＞

『明六雑誌の政治思想』『田口卯吉の夢』

【Outline (in English)】

毎回、学生から研究の進捗状況を聞き、研究上必要な文献の指摘や、論点についての解説を行う。

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

政治学特別講義1

山口 二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の民主政治において政策が立案，決定，実施される過程を理解するための基本的な理論枠組み，概念を理解する。

【到達目標】

日本の民主政治の特徴を理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義。

授業を補完するために課題を出しますので、提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	冷戦崩壊とグローバル化によって、日本の戦後はどう変わったのかを論じる。
第2回	1 政治とは何か	政治という活動の定義を明らかにする。
第3回	1 政治とは何か2	政府の仕事とは何か、他のシステムとの対比で明らかにする。
第4回	1 市場と政府	市場に対する政府の任務を明らかにする。
第5回	2 政治に参加すること	政治参加と民主主義を論じる。
第6回	2 政治に参加すること	多数決と民主主義の関係について考える。
第7回	3 人間の不完全性と民主政治	人間の不完全性と民主政治－人間の認識におけるステレオタイプと言葉の問題について考える。
第8回	4 民主政治の理念とは何か	政治と生命の関係を考える。
第9回	4 民主政治の理念とは何か2	政治における自由と平等について考える。
第10回	4 民主政治の理念とは何か3	政治における共同体と国家について考える。
第11回	5 民主政治の基本的な原理と構成	民主政治と議会政治について考える。
第12回	5 民主政治の基本的な原理と構成2	民主政治における政党と政治家、官僚制について考える。
第13回	6 政治はどのように展開されるのか	政策形成の動態について観察し、そのメカニズムを明らかにする。
第14回	7 民主政治のこれから	これからの民主政治の可能性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山口二郎 今を生きるための政治学 岩波書店

【参考書】

文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】

課題レポートと期末レポートの総合による

【学生の意見等からの気づき】

双方向的な議論の時間を確保したい

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムから講義の資料をあらかじめダウンロードしておくこと。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞政治学、行政学

＜研究テーマ＞現代日本の政策過程、政官関係

＜主要研究業績＞

内閣制度（東京大学出版会、2007年）

政権交代とは何だったのか（岩波書店、2012年）

【Outline (in English)】

This lecture aims at providing basic theoretical framework and concepts to understand dynamics of modern democracy.

POL500A3 (政治学 / Politics 500)

政治学特別講義2

山口 二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Francis Fukuyama, *Liberalism and Its Discontents* (Picador Paper, 2023)

上記の文献を講読する。

欧米におけるポピュリズムの隆盛、政党政治の機能不全が民主政治に及ぼす影響と、民主政治再建のための諸課題について考える。

【到達目標】

現代民主主義の変化、危機について理解を深める。

民主政治の再生の道筋について考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、テキストを読み、翻訳しながら、著者の主張について吟味する。参加者は毎回指定された部分をあらかじめ読み、翻訳を準備すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Liberalism and Its Discontents chapter 1	訳読と討論
第2回	Liberalism and Its Discontents chapter 1	訳読と討論
第3回	Liberalism and Its Discontents chapter 1	訳読と討論
第4回	Liberalism and Its Discontents chapter 2	訳読と討論
第5回	Liberalism and Its Discontents chapter 2	訳読と討論
第6回	Liberalism and Its Discontents chapter 2	訳読と討論
第7回	Liberalism and Its Discontents chapter 3	訳読と討論
第8回	Liberalism and Its Discontents chapter 3	訳読と討論
第9回	Liberalism and Its Discontents chapter 3	訳読と討論
第10回	Liberalism and Its Discontents chapter 4	訳読と討論
第11回	Liberalism and Its Discontents chapter 4	訳読と討論

第12回	Liberalism and Its Discontents chapter 4	訳読と討論
第13回	Liberalism and Its Discontents chapter 4	訳読と討論
第14回	Liberalism and Its Discontents chapter4	訳読と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Colin Crouch, *Post-Democracy After the Crises*, Polity 2020

【参考書】

コリン・クラウチ ポストデモクラシー 青灯社 2007年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

予習の負担は大きい、それだけ得られるものがあるというのが先輩の感想。

【担当教員の専門分野等】

現代政治

民主主義論

民主主義へのオデッセイほか

【Outline (in English)】

This seminar aims at investigating changes and crisis of contemporary liberal democracy caused by deterioration of party politics, through reading *Liberalism and Its Discontents* written by Francis Fukuyama.

LAW999A3（法学 / law 900）

博士論文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
---	-----	----

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

POL600A41000		
国際政治理論		
青野 利彦		
備考（履修条件等）：学部「国際政治学入門」、政治学「国際政治の基礎理論Ⅰ」、公共政策学・サステイナビリティ学「国際政治学基礎」と合同		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
国際政治学とはどのような学問か。この講義では国際政治学の基礎的な考えを学び、現実の国際政治を理解するための基本的な概念や理論について学ぶことを目的とします。		
【到達目標】		
1. 国際政治学における重要な概念や基礎的な理論について理解し、現実の国際政治を客観的に分析する道具を身につける。 2. 国際政治の出来事を学問的に理解し、思い込みや固定観念にとらわれない見方を養う。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
対面授業を基本として、講義形式で行います。授業では、定期的にリアクションペーパーを提出してもらう予定です。受講者数によってはディスカッション等を適宜取り入れる可能性があります。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション：国際政治学とはなにか	国際政治学とはなにかを、どのように考える学問か。どのように発展してきたか、概略を学ぶ。
2	主権国家体系とは何か	国際政治の舞台となる主権国家体系の成立過程とその性質について、近代ヨーロッパの国際関係を概観しながら検討する。
3	リアリズム	国際政治学の主要理論の一つであるリアリズムという見方について、その背後にある人間観や哲学を踏まえたうえで解説する。
4	リベラリズム	国際政治学の理論の一つであるリベラリズムについて、その背後にある人間観や哲学を踏まえて解説する。
5	ネオ・リアリズムとネオ・リベラリズム	「科学的」であろうとした1970年代以降の国際政治理論の二つの系譜について解説する。
6	構成主義論（コンストラクティビズム）	（ネオ）リアリズム、（ネオ）リベラリズムの説明力の限界を踏まえて冷戦後に登場した、新たな理論的潮流について説明する。
7	パワーとはなにか	リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムという三つの主要理論に関する講義を踏まえて、改めて国際政治学の中心概念である「パワー」について検討する。
8	勢力均衡と同盟	安全保障問題を考える際に必須の勢力均衡、同盟という二つの事象について、理論と歴史を踏まえながら解説する。
9	抑止と核抑止	安全保障問題を考える際に重要な抑止という概念について、核兵器の登場がもたらした影響を踏まえながら、理論と歴史の両面から検討する。
10	覇権安定論と覇権後	イギリスやアメリカのような突出したパワーを持つ国は、国際秩序の形成にどのような役割を果たしたか、歴史と理論の視角から検討する。
11	グローバル化と国際的相互依存	グローバル化として知られる国境を越えた経済的なつながりの拡大は、国際政治の力学をどう変えたのか解説する。
12	政策決定過程論	一国の対外政策はどのように決定されるのか。アリソンが提起した政策決定に関する三つのモデルと、パットナムが提起した「2レベル・ゲーム」モデルを中心に講義する。
13	ナショナリズム	ナショナリズムとはなにか。それは、どのように対外政策と国際関係に影響を与えるのか。理論と歴史の両面から検討する。
14	まとめ	13回の講義内容の総括
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
毎回の講義のレジュメの事前予習1時間、講義終了後の復習や参考文献の読解に2時間、合計3時間を目安とする。		
【テキスト（教科書）】		
特になし。毎回レジュメを配布する。		
【参考書】		
講義全体の参考書として、いくつか紹介する。テーマ毎の参考文献はレジュメに記載する。 ○国際政治学の入門書・教科書 ・大芝亮『国際政治理論－パズル・概念・解釈』（ミネルヴァ書房、2016年） ・藤原帰一『国際政治』（放送大学教育振興会、2007年） ・村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、栗栖薫子、秋山信将著『国際政治学をつかむ（第3版）』（有斐閣 2023年） ・山田敦・和田洋典・倉科一希編『新版 国際関係学：地球社会を理解するために』（有信堂高文社、2025年） ○国際政治史・外交史 国際政治学を履修する際は、高校の世界史や大学の国際政治史の教科書を手元に置いておくと、事例研究について調べる際に役立つ。例として以下をあげておく。 ・小川浩之、板橋拓己、青野利彦『国際政治史-主権国家体系のあゆみ（第二版）』（有斐閣 2024年） ・森聡、福田円編『入門講義 戦後国際政治史』（慶應義塾大学出版会 2022年）		
【成績評価の方法と基準】		
授業中のリアクションペーパー提出（30%）および期末試験（70%）の合計100%で総合的に評価する。		
【学生の意見等からの気づき】		
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。		
【Outline (in English)】		
What is international politics as a field of study? This course offers an introduction to basic technical terms and theoretical models for analyzing international politics. Students are expected to obtain basic knowledge and skills to better grasp the dynamics of world politics.		

POL600A41010

アメリカ外交史

青野 利彦

備考（履修条件等）：学部「アメリカ外交史Ⅰ」、政治学「アメリカ外交研究Ⅰ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、現在のアメリカ外交を理解するために必要な、歴史的背景や経緯について基礎的な知識を獲得することである。講義では主として第二次世界大戦後からベトナム戦争が泥沼化した1960年代末までの時期を扱うが、戦後アメリカ外交を理解する上で重要な20世紀初頭までの歴史的背景についても概観する。アメリカの対外政策を規定した内政上の要因や、逆に対外関係が内政に与えた影響についても留意しながら講義を進める。（なお、1970年代～2020年代までのアメリカ外交は、2027年度にアメリカ外交史Ⅱで扱う予定。）

【到達目標】

科目修得した時点で以下の諸点を把握していることが期待される。
(1) 建国期に起源を持つアメリカ外交の思想的基盤と、それが以降のアメリカ外交に与えた影響。
(2) 建国期から第二次世界大戦、冷戦開始期を経て、1960年代末にいたるまでのアメリカ対外政策の歴史の概要、
(3) アメリカの対外政策形成に影響を与えた国際環境や国内政治の影響。
(4) アメリカ外交が世界に与えたインパクト。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行うが、受講者数次第で適宜ディスカッションを取り入れる可能性がある。定期的にリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション「アメリカ外交を見る視角」	アメリカ外交をどのような歴史的視角から見るべきかについて検討し、授業の概要を紹介する。
第2回	アメリカ外交の歴史的基盤（1）	建国（1776年）から19世紀末まで
第3回	アメリカ外交の歴史的基盤（2）	20世紀初頭から第一次世界大戦まで
第4回	第二次世界大戦と冷戦の起源（1）	戦間期から第二次世界大戦まで
第5回	第二次世界大戦と冷戦の起源（2）	第二次世界大戦末期～冷戦初期
第6回	朝鮮戦争と冷戦の軍事化（1）	戦後アメリカの東アジア政策の展開
第7回	朝鮮戦争と冷戦の軍事化（2）	朝鮮戦争の勃発とその影響、米国内におけるマッカーシズムの展開
第8回	アイゼンハワー政権とニュールック戦略（1）	アイゼンハワー政権の登場とニュールック戦略の概観、大量報復戦略の適用
第9回	アイゼンハワー政権とニュールック戦略（2）	第三世界への介入拡大、1950年代のアメリカの内政・社会と冷戦
第10回	ケネディ政権とベルリン・キューバ危機（1）	アイゼンハワー政権後期の東西対立の高まり、ケネディ政権の冷戦戦略の概観
第11回	ケネディ政権とベルリン・キューバ危機（2）	ケネディ政権期の米ソ関係とキューバ危機の勃発・展開・解決および影響
第12回	ベトナム戦争とアメリカ的価値観の揺らぎ（1）（ケネディ期まで）	ジョンソン政権期の米ソ関係、ベトナム戦争の起源と展開
第13回	ベトナム戦争とアメリカ的価値観の揺らぎ（2）	ジョンソン政権のアメリカの直接介入、戦争の泥沼化とその影響、1960年代末の米国社会
第14回	まとめ	講義内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義のレジュメを事前に予習するのに1時間、講義終了後に内容を復習したり関連文献を読解するのに2時間、合計3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定せず、毎回レジュメを配布する。各テーマの参考文献はレジュメで紹介する。なお教科書指定はしないが、授業内容の確認に役立つ書籍として以下を参照。

青野利彦『冷戦史』上下、中公新書、2023年（上巻全体および下巻7章）
青野利彦・倉科一希・宮田伊知郎『現代アメリカ政治外交－「アメリカの世紀」から「アメリカ第一主義」まで』（ミネルヴァ書房、2020年）序章～第4章。

【参考書】

参考書として以下もあげておく
小川浩之、板橋拓巳、青野利彦『国際政治史――主権国家体系のあゆみ〔新版〕』有斐閣、2024年。特に5～10章。
佐々木卓也編『新版 戦後アメリカ外交史 第3版』有斐閣、2017年
佐々木卓也『冷戦』有斐閣、2011年
西崎文子『アメリカ外交史』東京大学出版会、2022年
益田実・齋藤嘉臣編著『冷戦史－超大国米ソの出現からソ連崩壊まで』法律文化社、2024年

【成績評価の方法と基準】

学期中のリアクションペーパー：30％
期末試験：70％
上記合計の100点満点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者につきフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

無し

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic knowledge of the historical background and context essential to understand contemporary American foreign policy. While the lectures primarily cover the period from the end of World War II to the late 1960s when the Vietnam War became entrenched, they also provide an overview of the historical background from the American Revolution in the late 18 century to the first four decades of the 20th century, which is crucial for understanding postwar American diplomacy. It also pays attention to the intersections between domestic political and social factors and foreign policy. (Note: American foreign policy from the 1970s to the 2020s is scheduled to be covered in American Diplomatic History II in the 2027 academic year.)

POL600A41001

政治理論研究 1

杉田 敦

備考（履修条件等）：学部「外国書講読（英語）Ⅰ」、政治学「政治理論研究 1」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治理論上の重要問題について、英語文献を講読し議論することで、知見を深める。

【到達目標】

権力、民主政治など政治理論上の重大な問題について、研究上必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、英語文献を講読して議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文献講読1	テキストを読んでディスカッションする1
第2回	文献講読2	テキストを読んでディスカッションする2
第3回	文献講読3	テキストを読んでディスカッションする3
第4回	文献講読4	テキストを読んでディスカッションする4
第5回	文献講読5	テキストを読んでディスカッションする5
第6回	文献講読6	テキストを読んでディスカッションする6
第7回	文献講読7	テキストを読んでディスカッションする7
第8回	文献講読8	テキストを読んでディスカッションする8
第9回	文献講読9	テキストを読んでディスカッションする9
第10回	文献講読10	テキストを読んでディスカッションする10
第11回	文献講読11	テキストを読んでディスカッションする11
第12回	文献講読12	テキストを読んでディスカッションする12
第13回	文献講読13	テキストを読んでディスカッションする13
第14回	文献講読14	テキストを読んでディスカッションする14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が必要とする時間を用いて、事前にテキストを熟読し、事後に論点を整理する。

【テキスト（教科書）】

その都度指定する。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

参加状況、知識の獲得状況を総合的に判断し、平常点100点。

【学生の意見等からの気づき】

今後、アンケートをふまえて対応する。

【その他の重要事項】

本講義は、学部における外書講読（英語）と合同で実施する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治学

<研究テーマ>政治理論

<主要研究業績>

『権力論』、『境界線の政治学 増補版』（いずれも岩波現代文庫）

【Outline (in English)】

This class aims to help you have advanced knowledges in political theory through reading academic literature in English.

POL600A41002

政治理論研究 2

杉田 敦

備考（履修条件等）：学部「外国語講読（英語）Ⅱ」、政治学「政治理論研究 2」と合同

その他属性：

【Outline (in English)】
This class aims to help you have advanced knowledges in political theory through reading academic literature in English.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治理論上の重要問題について、英語文献を講読し議論することで、知見を深める。

【到達目標】
権力、民主政治など政治理論上の重大な問題について、研究上必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回、英語文献を講読して議論する。対面で行う予定であるが、感染症の状況次第では、遠隔に切り替える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文献講読1	テキストを読んでディスカッションする1
第2回	文献講読2	テキストを読んでディスカッションする2
第3回	文献講読3	テキストを読んでディスカッションする3
第4回	文献講読4	テキストを読んでディスカッションする4
第5回	文献講読5	テキストを読んでディスカッションする5
第6回	文献講読6	テキストを読んでディスカッションする6
第7回	文献講読7	テキストを読んでディスカッションする7
第8回	文献講読8	テキストを読んでディスカッションする8
第9回	文献講読9	テキストを読んでディスカッションする9
第10回	文献講読10	テキストを読んでディスカッションする10
第11回	文献講読11	テキストを読んでディスカッションする11
第12回	文献講読12	テキストを読んでディスカッションする12
第13回	文献講読13	テキストを読んでディスカッションする13
第14回	文献講読14	テキストを読んでディスカッションする14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が必要とする時間を用いて、事前にテキストを熟読し、事後に論点を整理する。

【テキスト（教科書）】
その都度、指定する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
参加状況、知識の獲得状況を総合的に判断し、平常点100点。

【学生の意見等からの気づき】
今後、アンケートをふまえて対応する。

【その他の重要事項】
この講義は、学部における外書講読（英語）と合同で実施する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞政治学
＜研究テーマ＞政治理論
＜主要研究業績＞
『権力論』、『境界線の政治学 増補版』（いずれも岩波現代文庫）

POL600A41003

国際政治史研究 I

青野 利彦

備考（履修条件等）：政治学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、第二次世界大戦後、約45年にわたって世界政治を大きく規定し、その後の国際関係にも大きな影響を残した冷戦の歴史に関する基本的知識の獲得し、また、国際関係史の分析視点を学ぶことをめざす。これを課題文献を参加者全員で輪読し、ディスカッション通じて行っていく。必要に応じて、他の参考文献や一次史料の読解も行っていく。

【到達目標】

- ①冷戦史を分析するための基本的な視点や研究史上の論点について学ぶ。
- ②冷戦史上の事象・出来事が、その後の世界政治の形成にどのように影響を与えたかについて理解する。
- ③冷戦というテーマを通じて、国際関係を歴史的・理論的に把握するための分析視角や視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

演習形式を取り、参加者全員が講読文献を読んだうえで授業に参加し、議論を行う方たちで進める。毎回、報告担当を決め、議論の出発点となる論点の提示を行う。教員は学生間での議論の進展を整理したり、コメントや質問を行うことで、議論が活発なものとなるよう促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、課題文献/参考文献の紹介。
第2回	文献講読（1） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 冷戦史研究の発展に関する論文
第3回	文献講読（2） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 序章・第1章
第4回	文献講読（3） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 第2章
第5回	文献講読（4） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 第3章
第6回	文献講読（5） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 第4章
第7回	文献講読（6） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 第5章
第8回	文献講読（7） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 第6章
第9回	文献講読（8） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	教科書 第7章
第10回	文献講読（9） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 第8章
第11回	文献講読（10） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 第9章

第12回	文献講読（11） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 第10章
第13回	文献講読（12） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	教科書 第11章
第14回	文献講読（13） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 終章および全員での総括的な議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習に要する時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

青野利彦『冷戦史（上・下）』中公新書、2023年

【参考書】

授業において随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業での報告及び議論への参加（100％）

【学生の意見等からの気づき】

学生の関心に応じて、相談の上で、文献および授業計画を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

受講生に応じて、授業計画を調整することがある。

【専門領域】

アメリカ政治外交史、冷戦史、国際関係史

【研究テーマ】

冷戦とアメリカ外交、アジア冷戦史

【主要研究業績】

青野利彦『冷戦史（上・下）』中公新書、2023年
小川浩之・板橋拓己・青野利彦『国際政治史-主権国家体系のあゆみ [新版]』有斐閣、2024年
青野利彦・倉科一希・宮田伊知郎編『現代アメリカ政治外交史－「アメリカの世紀」から「アメリカ第一主義」まで』ミネルヴァ書房、2020年

【Outline (in English)】

This course is a reading seminar on the international history of the Cold War. Students are expected to obtain basic knowledge of the origins, development, and end of the Cold War while developing analytical skills and various perspectives for studying international history. Depending on their academic interests, students will also read primary sources related to the subject.

POL600A41004

国際政治史研究Ⅱ

青野 利彦

備考（履修条件等）：政治学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、20世紀以降の国際関係のなかで大きな役割を果たしたアメリカ合衆国の政治外交史に関する基本的知識の獲得し、一国の対外政策を分析するための視点を学ぶことをめざす。これを課題文献を参加者全員で輪読し、ディスカッションを通じて行っていく。必要に応じて、他の参考文献や一次史料の読解も行っていく。

【到達目標】

- ①アメリカ外交史を分析するための基本的な視点や研究史上の論点について学ぶ。
- ②アメリカの対外政策形成に影響を与えた、アメリカ国内政治や社会の動向について把握する。
- ③米国政治外交史というテーマを通じて、一国の外交政策決定や対外政策の形成について歴史的・理論的に把握するための分析視角や視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

演習形式を取り、参加者全員が講読文献を読んだうえで授業に参加し、議論を行う方たちで進める。毎回、報告担当を決め、議論の出発点となる論点の提示を行う。教員は学生間での議論の進展を整理したり、コメントや質問を行うことで、議論が活発なものとなるよう促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、課題文献 / 参考文献の紹介。
第2回	文献講読（1） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 序章
第3回	文献講読（2） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 第1章
第4回	文献講読（3） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 第2章
第5回	文献講読（4） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 第3章
第6回	文献講読（5） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 第4章
第7回	文献講読（6） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 第5章
第8回	文献講読（7） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 第6章
第9回	文献講読（8） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	教科書 第7章
第10回	文献講読（9） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 第8章
第11回	文献講読（10） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 第9章

第12回	文献講読（11） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 第10章
第13回	文献講読（12） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	教科書 第11章
第14回	文献講読（13） （受講生による報告と全員によるディスカッション）	課題文献 終章および全員での総括的な議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習に要する時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

青野利彦・倉科一希・宮田伊知郎編『現代アメリカ政治外交史－「アメリカの世紀」から「アメリカ第一主義」まで』（ミネルヴァ書房、2020年）

【参考書】

授業において随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業での報告及び議論への参加（100％）

【学生の意見等からの気づき】

学生の関心に応じて、相談の上で、文献および授業計画を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

受講生に応じて、授業計画を調整することがある。

【専門領域】

アメリカ政治外交史、冷戦史、国際関係史

【研究テーマ】

冷戦とアメリカ外交、アジア冷戦史

【主要研究業績】

青野利彦『冷戦史（上・下）』中公新書、2023年
小川浩之・板橋拓己・青野利彦『国際政治史- 主権国家体系のあゆみ [新版]』有斐閣、2024年
青野利彦・倉科一希・宮田伊知郎編『現代アメリカ政治外交史－「アメリカの世紀」から「アメリカ第一主義」まで』ミネルヴァ書房、2020年

【Outline (in English)】

This course is a reading seminar on US diplomatic history. Students are expected to obtain basic knowledge of the development of the American foreign policy after 1945, while developing analytical skills and various perspectives for studying international history. Depending on their academic interests, students will also read primary sources related to the subject.

POL600A41006

国際公共政策研究 2

坂根 徹

備考（履修条件等）：政治学「国際行政研究 2」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、「国際公共政策分野：International Public Policy Areas」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考力も涵養していくことを目的とする。

【到達目標】

本科目の到達目標は、国際公共政策（国際行政研究 2 では、以下と上記の国際公共政策の記載を国際行政に読み替えて頂きたい）について、複数の政策分野を取り上げ理解を深めつつ、各自が関心を持つ具体的なテーマや政策分野について調査研究を行い、その考察結果を発表し議論することができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

まずガイダンスで、本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心や関連科目・文献等の既習状況を確認する。そして、具体的な国際公共政策分野について関係する国連システム諸機関に注目して日本との関係を含めて検討する。また、履修者が各自の関心に基づき選定したテーマについて、調査研究を行い、その中間及び最終結果を発表し、あわせて発表後に検討・議論等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本科目のテーマや進め方について説明する
2	国際公共政策分野 1	持続可能な開発(SDGs)政策又は地球環境・エネルギー政策についての検討
3	各自の関心の表明と検討	国際公共政策についての各自の関心テーマの表明と取り上げる政策分野を含めた検討
4	各自の関心テーマを踏まえた今後の調査研究の検討	国際公共政策についての各自の関心に基づく調査研究テーマの選定と今後の調査研究の検討
5	国際公共政策分野 2	国際安全保障・国連PKO政策又は防災・人道・危機管理政策についての検討
6	国際公共政策分野 3	上記で取り上げなかった方の政策についての検討
7	国際公共政策分野 4	国際貿易・金融・経済政策又は国際感染症・保健医療・公衆衛生政策についての検討
8	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する進捗状況や課題についての中間発表
9	国際公共政策分野 5	移民・難民・国際人権政策又は国際教育・文化・科学技術政策についての検討
10	国際公共政策分野 6	上記で取り上げなかった方の政策についての検討

11	調査研究テーマの最終発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関して最終発表に向けての検討
12	調査研究テーマの最終発表 1	各自の調査研究テーマに関する最終発表の開始
13	調査研究テーマの最終発表 2	各自の調査研究テーマに関する最終発表の継続
14	調査研究テーマの最終発表 3 とまとめ	各自の調査研究テーマに関する最終発表の継続とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業テーマの学習に加えて、特に調査研究発表に向けての事前準備にまとまった時間を充当して行うこと。本授業の準備・復習に要する時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

福田耕治・坂根徹『国際行政の新展開：国連・EUとSDGsのグローバル・ガバナンス』法律文化社、2020年。

【参考書】

開講時やその後の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学習状況・最終発表よりも前の発表・授業での積極的貢献・参加度（平常点）を50%、最終発表・議論を50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

以下の【その他の重要事項】を参照されたい。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、実際の授業の進捗、履修生の数や関心テーマ等により修正・変更されることがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際公共政策・国連研究・行政学等

<研究テーマ>国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・調達行政等

<研究業績の例（単著論文から3篇を抜粋）>

・「国連システム諸機関の財政の変容—加盟国からの財政収入に焦点を当てた分析」（日本国際連合学会編『変容する国際社会と国連』国連研究第20号、国際書院、2019年に所収）

・「国連PKOの財政支出構造と政府・企業からの調達」（日本国際連合学会編『日本と国連—多元的視点からの再考』国連研究第13号、国際書院、2012年に所収）

・“Public Procurement in the United Nations System” (in Khi V. Thai ed., International Handbook of Public Procurement, Taylor and Francis, 2008)

【Outline (in English)】

Main theme of this course is to learn and consider about international public policy areas. By taking this course, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various policies.

In average, your study time outside of each class will be about 4 hours. Actual needed time will be varied depending on various elements especially when each student is assigned and scheduled presentations and final report submission due date. Grading will be decided based on presentations and discussion (50%), and in-class contribution (50%).

POL600A41007

国際協力政策研究

武貞 稔彦

備考（履修条件等）：政治学「国際開発政策研究1」、公共政策学・サステナビリティ学「国際協力論」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義のテーマは貧困削減のための国際協力、開発援助のありようである。SDGs（持続可能な開発目標）に示されているように、戦後国際社会の大きな課題の一つ-貧困-に立ち向かうために行われている営みである開発援助や国際協力は、どのような動機や意図をもって行われ、どのような効果をこれまでもたらしてきたかを検討し、将来の国際協力のあり方、さらには国際社会のあり方についても議論する。

【到達目標】

一連の講義と議論を通じ、受講生は以下の諸点を達成することが期待される。(1)現代の国際社会の中で行なわれる様々な国際協力や援助、特に、貧困、開発、環境をめぐる国際協力や援助の歴史と制度について基礎的な知識を獲得すること、(2)国際協力や援助をめぐる現代の主要なトピックに関する基礎的な知識を獲得すること、および、(3)誰が何のためにどのような国際協力や援助を行なっているのか、について批判的に見る目を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各回の講義は、①教員による講義、②基本的な文献に関する学生の報告、③ディスカッションで構成する。事前に指定された文献を読んで各回の授業に参加することが必須であり、予習に十分な時間を割くことが必要となる。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせる。

報告対象とする文献については、2026年度秋学期開始前に学習支援システムを通じて通知／配布予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1,2回	オリエンテーション 国際協力はなぜ行なわれるのか	国際協力という取り組みが必要とされる理由や背景—途上国の貧困と先進国との格差—について概観する。
第3,4回	国際協力をめぐる歴史と制度（1）経済成長と国際協力	第二次世界大戦後の国際社会秩序形成と、その後1970年代までの国際協力の取り組みを、国際社会の政治／歴史の文脈に位置づけて概観する。
第5,6回	国際協力をめぐる歴史と制度（2）経済成長路線から人間開発路線へ	1980年代、90年代の国際協力の変遷をたどり、基本的な考え方／取り組みの重点の変化を概観する。
第7,8回	国際協力をめぐる歴史と制度（3）環境と持続可能な開発	2000年代以降の国際協力の変遷を国際社会における課題設定や変動の中に位置づける。
第9,10回	日本による国際協力	日本による国際協力の歴史と制度について概観する。そのうえで、その成果および評価を検討する。

第 11,12 回 「開発」とは何か：開発と文化、社会科学

現在すすめられている開発の到達目標（行き着く先）について文化や社会科学の方法論の観点も含め批判的に検討する。

第 13,14 回 民間企業と国際協力

国際協力の主要なアクターの一つとなっている民間企業の活動について概観し、その将来像について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

松本勝男著（2023年）『日本型開発協力 一途上国支援はなぜ必要なのか』（ちくま新書）
牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』（学陽書房）
勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）
外務省（毎年発行）『日本の開発協力』（ODA白書）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末レポート(50%)、各回の担当報告の内容(30%)、授業やディスカッションへの貢献(20%)を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】

過去には議論の時間の充実（拡大）を求める声があったことから、授業運営には留意することとする。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 開発の自然環境・社会環境への影響、開発援助、開発と倫理

<研究テーマ> 「望ましい（望ましくない）「開発」とは何か」「ダム建設に伴う立ち退きと補償、生活再建」
<主要研究業績>

"Japanese Experience of Involuntary Resettlement: Long-Term Consequences of Resettlement for the Construction of the Ikawa Dam," *International Journal of Water Resources Development*, Routledge, Vol. 25, Issue 3, September 2009, pp. 419- 430,

『開発介入と補償：ダム立ち退きをめぐる開発と正義論』勁草書房2012年,

"Participation and diluted stakes in river management in Japan: the challenge of alternative constructions of resource governance" in Sato, J. ed., *Governance of Natural Resources: Uncovering the social purpose of materials in nature*. United Nations University Press, pp.141-161, July 2013

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course is an advanced course for International Development and Development Assistance. Development is one of the global issues in the current world as shown in the Sustainable Development Goals (SDGs). International Development Assistance has been perceived not only as a strong tool for development of many societies and/or economies but also as a way to strengthen world peace. The class consists of lectures and readings focusing on the history and the objectives of international development efforts and relationship between rich countries and poor countries putting a special emphasis on Japan's role in the international society.

[Learning Objectives]

Completing the course, students are expected;

- 1) to acquire basic knowledge on history and institutions in international development efforts,
- 2) to acquire basic knowledge on current/important issues in international development, and

3) to critically analyze who engages in international development efforts and why.

[Learning Activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on a comprehensive evaluation of the final report (50%), the content of each assigned report (30%), and contributions to the class and discussions (20%).

POL600A41012

非伝統的安全保障研究

本多 美樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、現在の国際社会を理解するうえで不可欠な「非伝統的安全保障研究」の最前線について学ぶ。非伝統的安全保障研究とは、多くは非軍事的ではあるが、国家や人にとって「安全を脅かす」とみなされる事象について、事象の性質を見極めたうえで、どのような視点から分析できるかを考察する研究分野である。主権国家を単位とする近代の国際社会において、安全保障は重要視される価値のひとつだが、その概念は国際秩序の状況に応じて対象となる問題領域は変化してきた。とくに冷戦後は、経済危機、環境、難民・避難民、感染症などが安全保障上の重要な問題として顕在化したことによって安全保障をめぐる概念は多義化し、民主主義、人権、責任などの価値の広がり背景に大きく変容してきた。授業では、変容してきた安全保障概念について整理した後、「誰が誰をどのような脅威からどう守るのか」という点に注目して、非軍事的で越境的な脅威とそれらに取り組む国際社会がどのように研究されてきたのかを考察する。

【到達目標】

- ・変容する安全保障の概念について理解する。
- ・非伝統的安全保障問題の分析方法について学ぶ。
- ・非伝統的安全保障分野の事例を扱った研究論文を通じて、現在の安全保障研究の最前線を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

担当教員が理論の整理などを行ったあと、受講生がそれぞれ関心のある非伝統的安全保障問題を選択し、報告を行い、議論を持つ。事前の文献購読（英書）を必須とする。報告の回数は受講者の人数による。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、安全保障概念の変遷①
第2回	安全保障概念の変遷	安全保障概念の変遷②
第3回	非伝統的安全保障とは何か	非伝統的安全保障研究の系譜
第4回	非伝統的安全保障問題へのアプローチⅠ	理論と方法①
第5回	非伝統的安全保障問題へのアプローチⅡ	理論と方法②
第6回	民族紛争と安全保障	理論と事例
第7回	貧困と経済の安全保障	理論と事例
第8回	環境と安全保障	理論と事例
第9回	食糧と安全保障	理論と事例
第10回	エネルギーと安全保障	理論と事例
第11回	人の移動と安全保障	理論と事例
第12回	グローバル・ヘルスと安全保障	理論と事例
第13回	組織犯罪と安全保障	理論と事例

第14回 まとめ

これまでの授業と報告の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定された文献を必ず購読してから授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上を要する。

【テキスト（教科書）】

授業内で案内する。

【参考書】

- ・Thierry Balzacq, *Securitization Theory: How Security Problems Emerge and Dissolve* (Routledge, 2011)
- ・Mely Caballero-Anthony, *Negotiating Governance on Non-Traditional Security in Southeast Asia and Beyond* (Columbia Univ Press, 2018)
- ・山田満・本多美樹編著『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築』（明石書店、2021年）
- その他、授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発表報告（40%）、議論への参加（10%）、期末レポート（50%）から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム上で配布する教材にアクセスしておくこと。

【その他の重要事項】

関連科目として「地球規模課題政策研究」があるが今年度は開講せず、2027年度秋に開講する。「地球規模課題政策研究」は、国家や国際機構、市民社会などのさまざまなアクターがグローバル・イシューを解決するために取り組んでいる政策と実践について国際機構論の視点から考察する科目である。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究

<研究テーマ>

国際社会による「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障

<主要研究業績>

最近の主な著書として、『『ルールに基づく国際秩序』の妥当性：修正か強化か？』『グローバル・ガバナンス』第11号（2025年3月）、『国際平和論』（有斐閣、2024年）、「主権国家体制と国連：グローバル化の潮流の中で」『国連研究』第25号（国際書院、2024年6月）、『新しい国際協力論—グローバル・イシューに立ち向かう』（明石書店、2023年）、『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』（明石書店、2021年）、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁：効果の追求と副次的影響の回避を模索して」『国連の金融制裁：法と実務』（東信堂、2018年）、*Peacebuilding in Southeast Asia* (Springer, 2024), *COVID-19 and Atrocity Prevention in East Asia* (Routledge, 2023), "United Nations Financial Sanctions" (Routledge, 2020) がある。執筆した主な教科書として、『入門国際政治経済学』（法律文化社、2025年）、『国際機構論 活動編』（国際書院、2020年）、『国際機構論 総合編』（国際書院、2015年）などがある。

【Outline (in English)】

Who secures safety of whom from what kinds of threats and how? – Concept of security has changed with the times. The objective of this course is to know the changes in security concepts from the historical perspective and to learn "securitization theory." With the end of the Cold War era, the international community met the decrease in interstate conflicts but the increase in intrastate conflicts originated from religious/ethnic frictions. And states have faced newly-emerged threats, so-called non-military issues or "non-traditional" security issues which include infectious diseases, environment degradation, and displaced persons. States recognize those non-traditional issues as "threats" to their national safety, and politicize them, and then securitize them by formulating national policies. This course analyzes non-traditional issues by using securitization theory to know usefulness and limitations of the theory.

POL600A40100

Academic Reading (初級)

Alan MEADOWS

備考（履修条件等）：※他研究科・他専攻の履修不可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This lower-level graduate course aims to help students acquire the skills needed to be able to read texts related to Global Politics in English with increasing levels of efficiency, comprehension and critical judgement.

【到達目標】

Although the main focus will be on reading, the course will enable students to develop all four language skills: speaking, listening, writing and reading.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The course is thematically organised, thereby enabling concepts, topics and vocabulary to be recycled and reinforced. A wide variety of sources, including magazine and newspaper articles, essays and papers published in academic journals will be studied. The aim throughout will be to boost academic reading and critical thinking skills, together with the acquisition, and active use of, the academic vocabulary necessary to function at this level of study. Interaction with classmates in pair, small group and whole class activities will offer ample opportunity to exchange information and opinions. Students will also undertake reading exercises leading to a variety of oral and written assignments to be submitted throughout the course.

It is your responsibility to check for updates and announcements both (i) on the course page within Hoppii, and (ii) in emails sent to your registered email address.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Orientation and Introductions	Overview of course.
2	How to be an Active Reader	Advice on practical reading skills. Introduction to the Academic Word List.
3	Reading Theme I: Learning Styles	Reading based on analysis of different learning styles.
4	Reading Theme II: College Life	Readings based on overseas student life at universities in the English speaking world.
5	Reading Theme II: College Life (continued)	Readings based on overseas student life at universities in the English speaking world
6	Reading Theme III: Political Science	Readings on issues related to Political Science
7	Reading Theme IV: Environmental Science	Readings on issues related to Environmental Science.
8	Reading Theme: To be announced	Reading on a global political issue.
9	Reading Theme: To be announced	Reading on a global political issue.
10	Reading Theme: To be announced	Reading on a topical global political issue.
11	Reading Theme: To be announced	Reading on a topical global political issue.
12	Reading Theme: To be announced	Reading on a topical global political issue.
13	Make-up Class (if necessary)	Reading on a topical global political issue.
14	Make-up class (if necessary)	Reading on a topical global political issue

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

There is no set text for this course.

【参考書】

Materials will be provided by the instructor or accessible via the internet or through the university library / bookshop.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on a combination of attendance, attitude, in-class quizzes and the quality of the submitted work, both oral and written.

Further details relating to the grading criteria will be provided during the first lesson.

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

English Language Education.

Environmental Politics.

<研究テーマ>

Environmental Politics

<主要研究業績>

The International Politics of Whaling

【Outline (in English)】

The length and level of difficulty of the selected reading materials will increase as the course proceeds. Students will be expected to have thoroughly read specific reading materials before each lesson, and will be encouraged to engage in an active analysis and evaluation of those materials during class time.

Grades will be based on a combination of attendance, attitude, in-class quizzes and the quality of the submitted work, both oral and written. Further details relating to the grading criteria will be provided during the first lesson.

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

POL600A40101

Academic Reading (上級)

Z A H I R H A S A N

備考（履修条件等）：※他研究科・他専攻の履修不可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This higher-level graduate course aims to help students improve the skills needed to be able to read texts related to Global Politics in English with increasing levels of efficiency, comprehension and critical judgement.

【到達目標】

The main focus is to improve student's reading comprehension, critical thinking skills regarding the content and vocabulary development through interaction with increasingly complex reading material.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The course will attempt to utilize and improve all four language skills to increase comprehension and vocabulary development through interaction with increasingly complex reading material. The course is thematically organised, thereby enabling concepts, topics and vocabulary to be recycled and reinforced. A wide variety of media, including magazine and newspaper articles, essays and papers published in academic journals and web-based material will be utilized and studied with the aim of boosting academic reading and critical thinking skills, along with vocabulary acquisition. Interaction with classmates in pair work, small group and whole class activities will offer ample opportunities to exchange information and opinions in an interactive manner. Reading circles will be used for discussions based on reading material with group member having various responsibilities to perform.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course Orientation	Explanation of course content and introductions
第2回	Reading Preparation Discussions	Reading practice
第3回	Reading Assignment Discussions	Reading Practice
第4回	Reading Tasks Discussions	Reading exercises
第5回	Reading abstracts Discussions	Reading exercises
第6回	Reading tasks Discussions	Reading tools
第7回	Reading tools Discussions	Reading exercises
第8回	Reading articles Discussions	Reading tasks
第9回	Reading tools Discussions	Reading exercises
第10回	Global Politics Reading Theme II	Action Plans and global and local problems
第11回	Global Politics Reading Theme II (continued)	Action Plans and global and local problems
第12回	Global Politics Reading Theme II (continued)	Action Plans and global and local problems
第13回	Global Politics Reading Theme II (continued)	Action Plans and global and local problems
第14回	Global Politics Reading Theme II Final Presentations Final Essay exam	Action Plans and global and local problems Final exam and course feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Longman Academic Reading Series 5

Reading Skills for College

Lorraine C. Smith

Pearson

ISBN 9780132760676

【参考書】

Relevant materials will be provided by the instructor in the early stages of the course. Students will be responsible for gathering and organizing their own research materials as the course proceeds.

【成績評価の方法と基準】

30% Advanced academic reading and negotiation. 20% Action Plans on global and local problems 30% Active class participation and homework. 20% Final Reading Exam

【学生の意見等からの気づき】

This course will focus on reading with critical thinking. Students will also read research papers and summarize them.

【学生が準備すべき機器他】

n/a

【その他の重要事項】

n/a

【担当教員の専門分野等】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

This level of reading is advanced and is meant to make the student read and understand complex texts. Different reading material will be provided and skills taught.

POL600A40102

Thesis Writing (初級)

Alan MEADOWS

備考（履修条件等）：※他研究科・他専攻の履修不可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is the lower-level Thesis Writing course.

【到達目標】

The course aims to give students the necessary tools to be able to write in a precise and logical manner in English. They will be challenged to construct ideas and arguments in a logical manner, and to employ critical thinking skills when considering a range of contemporary global political issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

This lower-level graduate course will enable students to become familiar with the fundamentals of the writing process: from brainstorming and note-making, through the organisational stages to the final editing and proofreading of a completed piece of work. During the course, students will be expected to hone their writing skills by submitting regular summaries and discussion documents on topical global political issues. Regular 'language clinics' will help to minimize common organizational, grammatical and stylistic errors. Most of the actual writing will be done outside of the classroom, with time set aside during the lessons for discussion, peer group evaluation and a variety of other activities. It is your responsibility to check for updates and announcements both (i) on the course page within Hoppii, and (ii) in emails sent to your registered email address.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Explanation of the course requirements and self-introductions.
2	The Writing Process I	Narrowing down a topic and writing an outline.
3	The Writing Process II	Writing the introduction.
4	The Writing Process III	Working on the thesis statement. Writing the conclusion
5	Paragraph Structure I	Unity within a paragraph.
6	Paragraph Structure II	Unity between paragraphs.
7	Supports I	Illustrative examples.
8	Supports II	Paraphrasing.
9	Supports III	Summarising.
10	Supports IV	Quotations.
11	Supports V	Facts and statistics. In-text citations and the bibliography.
12	Academic Style I	Formality
13	Academic Style II	Hedging and tentative language
14	Academic Style III	Synonyms and modal verbs.
	Course Wrap up	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

There is no set text for this course.

【参考書】

Relevant materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】

60% Classwork, in-class quizzes and homework assignments

40% Report

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【その他の重要事項】

This syllabus is flexible and subject to change in line with the ability level and particular needs of the students, as assessed by the instructor.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

English Language Education.

Environmental Politics.

<研究テーマ>

Environmental Politics

<主要研究業績>

The International Politics of Whaling

【Outline (in English)】

The course aims to help students acquire the fundamental skills needed to write an academic thesis in English.

Grading criteria:

60% Classwork, in-class quizzes and homework assignments

40% Report

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

POL600A40103

Thesis Writing (上級)

ZAHIR HASAN

備考（履修条件等）：※他研究科・他専攻の履修不可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This higher-level graduate course will guide students from the fundamentals of the writing process; pre-writing including brainstorming and note-making, paragraph structure, and concepts of unity and coherence to more complex written structures; paraphrasing and summarizing and argumentation.

【到達目標】

The goal of this course is to help students expand and formalize the skills needed to write an academic thesis in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

During the course, students will be expected to develop their writing skills by submitting regular summaries and discussion documents on topical global political issues. Grammatical mini-clinics will attempt to minimize common stylistic, grammatical and organizational errors. Much of the actual writing will be done outside of the classroom, with time set aside during the lessons for discussion, self and peer group evaluation and a variety of other activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course Orientation	Overview of the course and self-introductions
第2回	Pre-writing	Topic generation and brainstorming
第3回	Writing the Introduction	The Thesis Statement
第4回	Paragraph Structure	Review of the three parts of a paragraph
第5回	Unity and Coherence	How to unify the content within a paragraph
第6回	Supporting Details	How to find and explain facts quotations and statistics
第7回	Facts vs. Opinions	How to decide what is fact and what is opinion
第8回	Paraphrasing and Quotations	The differences between paraphrasing and quoting
第9回	Summarizing	How to state the main idea in your own words
第10回	Argumentation	Investigating collecting generating and evaluating evidence
第11回	Types of sentences	Writing dependent and independent clauses
第12回	Parallel Structures	Showing how two or more ideas have the same level of importance
第13回	Opposition Clauses	Focusing on adverb clauses showing unexpected results
第14回	Participial Phrases	How to make your sentences more powerful and richer
	Course Review and Evaluation	Summary of ideas covered and individual conferences

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Longman Academic Writing Series Level 5 - Essays to Research Papers
Alan Meyers
Pearson
ISBN 9780132912747

【参考書】

Relevant materials will be provided by the instructor in the early stages of the course. Students will be responsible for gathering and organizing their own research materials as the course proceeds.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on a combination of attendance, in-class participation, and the quality of in-class and submitted written work. Further details relating to the grading criteria will be announced during the first class.

The final Thesis product will comprised 50% of the final grade

【学生の意見等からの気づき】

This course will focus on writing various kinds of essays, research papers and proper citation training. Students will summarise and write abstracts of research papers.

【学生が準備すべき機器他】

n/a

【その他の重要事項】

n/a

【担当教員の専門分野等】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

This higher-level graduate course will guide students from the fundamentals of the writing process; pre-writing including brainstorming and note-making, paragraph structure, and concepts of unity and coherence to more complex written structures; paraphrasing and summarizing and argumentation.

POL600A40104

Presentation & Debate (初級)

Alan MEADOWS

備考（履修条件等）：※他研究科・他専攻の履修不可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is the lower-level Presentation and Debate course.

The course will present students with a range of topical global issues that lend themselves to discussion, debate and formal presentations. It is designed to give students the ability to identify, analyze, explain, summarize and evaluate the key arguments that underpin a variety of global political issues. Practical advice will be given advice on how to give academic presentations. Students will learn the mechanics of debate and how to hone their analytical and delivery skills so as to more effectively defend their case within an academically challenging environment.

【到達目標】

This course aims to develop students' presentation and debating skills so that they are able to exchange opinions and enhance critical thinking and reasoned decision making abilities. The focus will be on building, presenting and evaluating arguments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

A variety of topical issues related to global politics will be examined, with students given the opportunity to investigate topics related to their own particular interests as the course progresses. Students will be offered guidance in their research and information gathering activities, instruction in using appropriate language and delivery techniques, and help in developing their critical listening and evaluation skills.

By the end of the course students will have an improved understanding of the procedures and constrictions of making academic presentations and should be able to conduct debates with increased confidence and effectiveness.

It is your responsibility to check for updates and announcements both (i) on the course page within Hoppii, and (ii) in emails sent to your registered email address.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Explanation of the course requirements and self-introductions.
2	Key Presentation and Debate Skills	Voice control, body language, content. Organizing, explaining and supporting opinions. Challenging supports and organizing your refutation.
3	News briefs (1)	Presentation on a topical news story in the field of global politics.

4	News briefs (2)	Presentation on a topical news story in the field of global politics.
5	Case Study	Examination of the arguments relating to a debate topic to be decided in consultation with the students.
6	Case Study	Continuation of the previous lesson.
7	In-class Debate	Debate.
8	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
9	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
10	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
11	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
12	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
13	Presentation and/or Debate	Continuation of previous lessons.
14	Course wrap up	Reflection of progress made during the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

There is no set text for this class.

【参考書】

All necessary materials will be provided by the instructor. More information will be given during the course orientation.

【成績評価の方法と基準】

A total of two graded presentations and two graded debates each worth a maximum of 20% =80%.
Class participation 20%.

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【その他の重要事項】

Note: This syllabus is flexible and subject to change. The amount of time needed for the class to complete assignments and each round of presentations and debates is difficult to predict. Stay alert in class for precise dates for assignments.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

English Language Education.

Environmental Politics.

<研究テーマ>

Environmental Politics

<主要研究業績>

The International Politics of Whaling

【Outline (in English)】

The emphasis throughout the will be on the active engagement by students in all aspects of the course. To this end, thorough preparation and a willingness to participate actively at all stages of any given debate and/or presentation will be expected. The final grade will be based upon:

i. A total of two graded presentations and two graded debates each worth a maximum of 20% =80%.

ii. Class participation 20%.

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

POL600A40105

Presentation & Debate (上級)

ZAHIR HASAN

備考（履修条件等）：※他研究科・他専攻の履修不可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This higher-level graduate course aims to help students practice fluency, formulate and exchange opinions and enhance critical thinking and reasoned decision making skills through the study of debate and presentation.

【到達目標】

For students to develop critical thinking skills regarding the global political environment. Cooperative learning will be a main focus with students learning about various content areas from each other. Teamwork, autonomy, and research skills will be developed.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

A variety of topical issues related to Global Politics will be examined, with students given the opportunity to investigate topics related to their own particular interests as the course progresses. In the early stages of the course, students will prepare for the debate process through topic identification, research into that topic, both for and against a position, write either affirmative or negative case positions and anticipate problems with their positions and then present their position in formal class debates and presentations. Following the debates, specific proposals will be written, discarding some of the weaker aspects of their position and incorporating some of the stronger aspects of the opposition. Finally, formalized debates will take place with a goal of seeking a solution agreeable to the interests of both parties.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course Orientation	Explanation of course content and introductions
第2回	Presentation 1	Three greatest accomplishments
第3回	Presentation 1 (cont.)	Three greatest accomplishments
第4回	Presentation 2 preparation	Future Nobel Peace Prize winners
第5回	Presentation 2	Future Nobel Peace Prize winners
第6回	Presentation 2 (cont.)	Future Nobel Peace Prize winners
第7回	Persuasive Presentations	Persuasive presentations introduction
第8回	Persuasive Presentations (cont.)	Persuasive presentations
第9回	Persuasive Presentations (cont.)	Persuasive presentations

第10回	Problem solving presentations	Problem solving presentations
第11回	Problem solving presentations (cont.)	Problem solving presentations
第12回	Problem solving presentations (cont.)	Problem solving presentations
第13回	Final Presentation Preparation	Final Presentation Preparation
第14回	Final Presentations	Final Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

There is no set text for this course.

【参考書】

Relevant materials will be provided by the instructor in the early stages of the course. Students will be responsible for gathering and organizing their own research materials as the course proceeds.

【成績評価の方法と基準】

20% First In-Class debate and presentation.
20% Second In-Class debate and presentation.
20% Third In-Class debate and presentation.
20% Fourth In-Class debate and presentation.
20% Active class participation and homework.

【学生の意見等からの気づき】

This course will focus on cooperative learning. Students will research and prepare various types of debates and presentations on various topics and learn from each other. The syllabus is flexible and subject to change. The choice of topics to be studied may change in line with the particular interests of the students. Please be aware of such changes along with date for homework assignments and in-class activities and quizzes.

【学生が準備すべき機器他】

n/a

【その他の重要事項】

n/a

【担当教員の専門分野等】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

This higher-level graduate course aims to help students practice fluency, formulate and exchange opinions and enhance critical thinking and reasoned decision making skills through the study of debate and presentation.

POL600A42301

アジア比較政治

福田 円

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、東アジア諸国・地域の政治制度の比較について学ぶ。

【到達目標】

この授業では、受講者がアジア諸国における政治体制の違いについて既に基本的な知識を持っているという前提のもと、各国・地域における特定の政治制度を比較政治学的な視点から理解する。そして、東アジア諸国・地域における同政治制度のよりよいあり方について議論を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

今年度の授業においては、対象とするアジア諸国の政治制度と社会との関係に関する基礎知識を確認するという意味で、まず教員が講義を行う。その後、東アジア各国・地域の社会における人口動態について比較した文献や論文を精読し、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明と精読文献の紹介
第2回	文献精読の準備（1）	比較政治学とは何か
第3回	文献精読の準備（2）	東アジア諸国の政治体制
第4回	文献精読（1）	中国
第5回	文献精読（2）	北朝鮮
第6回	文献精読（3）	ベトナム
第7回	文献精読（4）	ミャンマー
第8回	文献精読（5）	カンボジア
第9回	文献精読（6）	パキスタン
第10回	文献精読（7）	中央アジア
第11回	文献精読（8）	韓国
第12回	文献精読（9）	台湾
第13回	文献精読（10）	インドネシア
第14回	議論：まとめ	精読した文献の論点をまとめ、発展させるための議論を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の部分では、事前に指定する配布資料を読んでから、次の授業に臨む必要がある。また、輪読に際しては担当部分の報告資料を準備し、担当ではない箇所についても事前に読んでおいて、質問や論点を積極的に発表して欲しい。学期末にはレポートを提出してもらう。

【テキスト（教科書）】

輪読文献の他には特に指定しない。2026年度は以下の文献と別途配布する論文（英語論文を含む）を輪読する予定である。ただし、輪読文献は履修者の顔ぶれによっては変更する可能性もある。

根本敬・粕谷祐子編『アジアの独裁と「建国の父」』彩流社、2024年

【参考書】

（比較政治学の分析枠組みを理解するための文献）

粕屋祐子『比較政治学』ミネルヴァ書房、2014年

建林正彦編『比較政治制度論』有斐閣、2008年

河野勝・岩崎正洋編『アクセス比較政治学』日本経済評論社、2002年

（過去に輪読した文献）

粕谷祐子『アジアの脱植民地化と体制変動』（白水社、2022年）

粕屋祐子編『アジアにおける大統領の比較政治学』ミネルヴァ書房、2010年

末廣昭・大泉啓一郎編『東アジアの社会大変動—人口センサスが語る世界』名古屋大学出版会、2017年

【成績評価の方法と基準】

授業における報告とディスカッションへの貢献度（50%）、および期末レポート（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない

【担当教員の専門分野等】

東アジア国際政治（史）、中国・台湾論

【Outline (in English)】

This course teaches students about comparative political systems in East Asian countries.

POL600A42326

アジア国際関係研究 1

福田 円

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アジア諸国の国際関係について学ぶ。

【到達目標】

この授業では、受講者がアジア諸国の歴史や政治制度について既に基本的な知識を持っているという前提のもと、同地域の国際関係について論じた近年の学術書や論文を精読し、議論する。そして、同地域における国際関係の課題を理解し、それらの展望について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業においては、アジアにおける国際関係の歴史と現状、調査の仕方などについてまず教員が講義を行う。その後、アジア（またはインド太平洋）の二国間関係、多国間関係、地域協力などについて論じた文献や論文を精読し、議論を行う。英語や中国語の文献を扱うこともあるので、履修者にはそれらの文献を読んで、報告をできる能力が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明と精読文献の紹介
第2回	文献精読の準備（1）	アジア国際関係の歴史と現状
第3回	文献精読の準備（2）	アジア国際関係の歴史と現状
第4回	文献精読の準備（3）	アジア国際関係の歴史と現状
第5回	文献精読（1）	各文献担当者の報告と議論
第6回	文献精読（2）	各文献担当者の報告と議論
第7回	文献精読（3）	各文献担当者の報告と議論
第8回	文献精読（4）	各文献担当者の報告と議論
第9回	文献精読（5）	各文献担当者の報告と議論
第10回	文献精読（6）	各文献担当者の報告と議論
第11回	文献精読（7）	各文献担当者の報告と議論
第12回	文献精読（8）	各文献担当者の報告と議論
第13回	ディスカッション（1）	アジア国際関係の課題
第14回	ディスカッション（2）	アジア国際関係の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の部分では、事前に指定する課題文献を読んでから、次の授業に臨む必要がある。また、文献の精読に際しては担当部分の報告資料を準備し、担当ではない箇所についても事前に読んでおいて、質問や論点を積極的に発表して欲しい。学期末にはレポートを提出してもらう。

【テキスト（教科書）】

精読文献以外には指定しない。以下の参考書は精読文献の候補でもある。また、文献精読を進展させるために、別途参考論文を配布することもある。

【参考書】

大庭三枝編『東アジアのかたち』千倉書房、2016年

大庭三枝『重層的な地域としてのアジア』有斐閣、2014年

寺田貫『東アジアとアジア太平洋』東京大学出版会、2013年

P.J カッツェンスタイン『世界政治と地域主義 - 世界の上のアメリカ、ヨーロッパの中のドイツ、アジアの横の日本』書籍工房早山、2012年

【成績評価の方法と基準】

授業における報告とディスカッションへの貢献度（50%）、および期末レポート（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への変更も想定されるので、オンライン講義や課題にアクセスできる環境を準備しておくこと。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは水曜3限なので、この時間に個別の相談などを必要とする学生は、事前にメールにて連絡をすること。

【担当教員の専門分野等】

東アジア国際政治（史）、中国・台湾論

【Outline (in English)】

This course aims to introduce and analyze international relations in Asia.

POL600A42308

対外政策研究（朝鮮半島）（1）

権 鎬淵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、韓国の対外政策を分析する。
まず、歴代政権が目指していた国家的な目標がどう変化してきたのかを分析し、それに伴いどこに対外政策の目標が置かれてきたのかをみる。まず、北朝鮮に対する政策として、太陽政策・北風政策・放置政策の論理と具体的な中身を取り上げ、韓国の歴代政権の政策がどのように変化してきたかを考察する。また、対米、対日、対中、対口政策において、どのような政策を追求し、どのような成果を得てきたのかを検討する。

【到達目標】

韓国の対外政策の中身を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員による授業が行われたあと、院生側が事前に用意してきた論点や疑問点が発表され、それらについて自由討議を行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	過去のリベラル政権の基本目標と政策方向	金大中政権・盧武鉉・文在寅政権
第2回	保守政権の基本目標と政策方向	李明博政権・朴槿恵政権
第3回	李在明政権の基本目標と政策方向	
第4回	対米政策1	リベラル政権
第5回	対米政策2	保守政権
第6回	対中国政策1	リベラル政権
第7回	対中国政策2	保守政権
第8回	対日本政策1	リベラル政権
第9回	対日本政策2	保守政権
第10回	対ロシア政策	
第11回	対途上国政策	
第12回	対北朝鮮政策1	軍事政策
第13回	対北朝鮮政策2	南北交流、有和政策
第14回	対北朝鮮政策3	有事対策、統一対策、脱北者政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に2回ほど熟読した上、ほかの院生と教員と討論したい論点や疑問点をA4用紙にまとめ、毎回の授業初めに提出すること。

【テキスト（教科書）】

開講の際に開示する

【参考書】

開講の際に開示する

【成績評価の方法と基準】

授業に対する積極的な貢献度（発表・出席等）30％、討論参加度40％、レポート30％

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

日本の防衛政策
南北朝鮮情勢
東アジアの軍事情勢

【Outline (in English)】

This lecture analyzes South Korea's foreign policy.

First, we will analyze how the national goals of previous administrations have changed, and then look at where the priority of foreign policy has been set. First, as a policy for North Korea, we will take up the logic and contents of the Sunshine Policy, North Wind Policy, and Do-nothing Policy, and consider how the policies of successive South Korean governments have changed. In addition, we will consider what kind of policies have been pursued and what kind of results have been achieved in the policies toward the United States, Japan, China, and Russia.

POL600A42309

対外政策研究（朝鮮半島）（2）

権 鎬淵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、北朝鮮の対外政策を分析する。まず、独裁者の個人研究と、朝鮮労働党、行政府、軍の権力機関をつかんだ上に、軍事力・経済状況実態を分析する。それから、対韓国、対米国、対中国、対日本、対ロシアの対外政策を比較検討する。

【到達目標】

北朝鮮の対外政策の骨子とその構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員による授業が行われたあと、院生側が事前に用意してきた論点や疑問点が発表され、それらについて自由討議を行う。
(隔週で2限連続の授業)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	金日成、金正日について	金日成、金正日について
第2回	金正恩と権力機関について	金正恩と権力機関について
第3回	兵役制度、教育制度の分析	兵役制度、教育制度の分析
第4回	経済事情1	経済事情1
第5回	経済事情2	自生的市場経済の台頭の状況
第6回	軍事力の状況	核とミサイル
第7回	軍事力の状況	通常戦力
第8回	対韓国政策	対韓国政策
第9回	対米国政策	対米国政策
第10回	対中国政策	対中国政策
第11回	対日本政策	対日本政策
第12回	対ロシア政策	対ロシア政策
第13回	その他の国に対する政策	国連、フランス、ドイツ等に関する政策
第14回	総括	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生側は指定されたテキストの部分を2回ほど熟読した上、授業で討論すべき論点や疑問点を事前に紙に整理して、毎回の授業開始の際に提出する。

【テキスト（教科書）】

開講の際に開示する

【参考書】

開講の際に開示する

【成績評価の方法と基準】

出席・発表40%、討論参加度30%、レポート30%

【学生の意見等からの気づき】

活発な質疑応答や討論を重視する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 韓国・北朝鮮研究・東アジア軍事問題

<研究テーマ> 南北統一後の北朝鮮の土地制度移行について

【Outline (in English)】

This course analyzes the foreign policy of North Korea. First, we will examine the personal leadership of the dictator and the key power structures, including the Workers' Party of Korea, the executive branch, and the military, alongside an analysis of the country's actual military capabilities and economic conditions. We will then conduct a comparative study of North Korea's foreign policies toward South Korea, the United States, China, Japan and Russia.

POL600A42312

国際地域研究（中国）（1）

熊倉 潤

備考（履修条件等）：政治学「国際地域研究1」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の政治及び現代史について学ぶ。中国の政治・社会の特徴、歴史的な形成過程等についてゼミ形式で論じ、認識を深める。

【到達目標】

本授業の目標は、中国語の研究書、論文等の読解を通じて、中国政治、現代史に関する学術論文を執筆する基礎的な力を養うことにある。また中国語がネイティブでない学生の中国語力、日本語がネイティブでない学生の日本語力を高めることにある。研究者を目指す学生に関しては、特に本授業での学問的修練を経て、次代の中国地域研究を担う人材となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は演習（ゼミ）形式で、【授業計画】に沿って中国語、日本語の研究書、論文等を輪読する。対面授業を想定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	初回ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第2回	毛沢東時代（1）	受講者による文献の読解とディスカッション
第3回	毛沢東時代（2）	受講者による文献の読解とディスカッション
第4回	毛沢東時代（3）	受講者による文献の読解とディスカッション
第5回	毛沢東時代（4）	受講者による文献の読解とディスカッション
第6回	毛沢東時代（5）	受講者による文献の読解とディスカッション
第7回	毛沢東時代（6）	受講者による文献の読解とディスカッション
第8回	フィールドワーク	アジア経済研究所図書館を訪問しての実地研修を予定
第9回	毛沢東時代（7）	受講者の研究報告とディスカッション
第10回	毛沢東時代（8）	受講者の研究報告とディスカッション
第11回	毛沢東時代（9）	受講者の研究報告とディスカッション
第12回	毛沢東時代（10）	受講者の研究報告とディスカッション
第13回	毛沢東時代（11）	受講者の研究報告とディスカッション
第14回	学期末の総括	今学期の授業内容を振り返るとともに、各自が夏休みの研究計画、修士論文執筆計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。受講者の研究テーマに応じて、中国語、日本語の研究書、論文を指示する。

【参考書】

参考書は指定しないが、参考となる論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（50%）、議論への参加度（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見を踏まえて、受講生の関心に近い文献を取り上げている

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

中国語の文献を扱うため、中国語が読めることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>中国、旧ソ連の政治、現代史

<研究テーマ>中ソ関係、民族問題

<主要研究業績>『民族自決と民族団結——ソ連と中国の民族エリート』東京大学出版会、2020年。

【Outline (in English)】

In this class, we will study Chinese politics and modern history, and discuss characteristics of Chinese politics and society, and the historical process.

POL600A42313

国際地域研究（中国）（2）

熊倉 潤

備考（履修条件等）：政治学「国際地域研究2」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の政治及び現代史について学ぶ。中国の政治・社会の特徴、歴史的形成過程等についてゼミ形式で論じ、認識を深める。

【到達目標】

本授業の目標は、中国語の研究書、論文等の読解を通じて、中国政治、現代史に関する学術論文を執筆する基礎的な力を養うことにある。また中国語がネイティブでない学生の中国語力、日本語がネイティブでない学生の日本語力を高めることにある。研究者を目指す学生に関しては、特に本授業での学問的修練を経て、次代の中国地域研究を担う人材となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は演習（ゼミ）形式で、【授業計画】に沿って中国語、日本語の研究書、論文等を輪読する。対面授業を想定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	初回ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第2回	ポスト毛沢東時代（1）	受講者による文献の読解とディスカッション
第3回	ポスト毛沢東時代（2）	受講者による文献の読解とディスカッション
第4回	ポスト毛沢東時代（3）	受講者による文献の読解とディスカッション
第5回	ポスト毛沢東時代（4）	受講者による文献の読解とディスカッション
第6回	中国社会研究の専門家の講演	専門家の講演を通じて、中国社会への理解を深める
第7回	ポスト毛沢東時代（5）	受講者による文献の読解とディスカッション
第8回	ポスト毛沢東時代（6）	受講者による文献の読解とディスカッション
第9回	ポスト毛沢東時代（7）	受講者の研究報告とディスカッション
第10回	ポスト毛沢東時代（8）	受講者の研究報告とディスカッション
第11回	ポスト毛沢東時代（9）	受講者の研究報告とディスカッション
第12回	ポスト毛沢東時代（10）	受講者の研究報告とディスカッション
第13回	ポスト毛沢東時代（11）	受講者の研究報告とディスカッション
第14回	総括	今年度の学習内容を振り返り、今後の研究計画につなげる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者の研究テーマに応じて、中国語、日本語の研究書、論文を指示する。

【参考書】

参考書は指定しないが、参考となる論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（50%）、議論への参加度（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見を踏まえて、受講生の関心に近い文献を取り上げている

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

中国語の文献を扱うため、中国語が読めることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞中国、旧ソ連の政治、現代史

＜研究テーマ＞中ソ関係、民族問題

＜主要研究業績＞『民族自決と民族団結——ソ連と中国の民族エリート』東京大学出版会、2020年。

【Outline (in English)】

In this class, we will study Chinese politics and modern history, and discuss characteristics of Chinese politics and society, and the historical process.

POL600A42318

国際地域研究（東南アジア）（1）

浅見 靖仁

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

タイの政治経済についての理解を深めるとともに、受講生が社会的な議論の組み立て方や因果関係についての推論を行うためのスキルも習得できる授業構成にします。タイの比較対象として、他の東南アジア諸国やラテンアメリカ諸国の事例にも言及します。

【到達目標】

受講生がタイをはじめとする東南アジア諸国についての理解を深めるとともに、反証可能な仮説を提示して社会科学的分析ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

4月13日の最初の授業以外は、毎回事前に指定された文献（reading assignment）を読んだ上で授業に出席してもらいます。その文献を読んだ上で考えてもらいたい質問を事前にいくつか提示します。授業ではそれらの質問に履修者に答えてもらい、それに対して教員がコメントや追加の質問をすることによって、文献に書かれていたことに対する理解を深めてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	因果関係の推論の重要性と社会科学のなりたちクエスチョンの作り方について解説します。
第2回	東南アジアの政治的組織原理に関する仮説の検証(1)	東南アジアの政治的組織原理についての先行研究を題材にして、少ない事例に基づいて仮説を検証する方法について考察します。
第3回	東南アジアの政治的組織原理に関する仮説の検証(2)	東南アジアの政治的組織原理についての対抗仮説を検討し、複数の仮説を比較検討する方法について考察します。
第4回	複雑な現実の単純化：ルイスの2部門モデルの事例	ルイスの2部門モデルを題材にして、複雑な現実を単純化することのメリットとデメリットについて考察します。
第5回	1930年代から50年代のタイの社会経済状況と政治情勢	1930-50年代のタイを事例にして、複雑な現実をどのように描写するかについて考察します。
第6回	輸入代替型工業化と輸出指向型工業化	輸入代替型工業化と輸出指向型工業化の政治体制との関係について考察します。
第7回	国際関係と国内政治	1950-70年代のタイを事例にして、国際関係と国内政治の相互関係について考察します。
第8回	王政とナショナリズム	1970-80年代のタイを事例にして、王政とナショナリズムの関係について考察します。
第9回	中間層の台頭と政治変化	1970-90年代のタイを事例にして、中間層の台頭が政治にもたらす変化について考察します。

第10回	民主化と政治的対立構造の変化	1990-2000年代のタイを事例に、民主化の進展と政治的対立構造の変化について考察します。
第11回	人口ボーナス／オーナスと中進国の罠	人口ボーナス、人口オーナス、中進国の罠といった東南アジアの経済を理解する上で重要なキー概念について2000年代以降のタイを事例にして考察します。
第12回	冷戦後のタイの外交政策	1990年代以降のタイの外交政策について、安全保障面だけでなく、貿易や投資に関する外交政策も含めて考察します。
第13回	タイの選挙分析	2001年以降に行われた選挙結果を分析することによって何をどこまで明らかにできるのかについて考察します。
第14回	授業のまとめ	1学期間の授業の総括を行うとともに、春休み期間中に受講生が行う調査研究の計画について発表してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to spend 4 hours to prepare materials for each class as well as review the materials discussed in previous classes.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course. Instead, a range of diverse materials will be assigned for each session and provided by the instructor.

【参考書】

片山裕・大西裕編『アジアの政治経済・入門』有斐閣、2006年／末廣昭編『岩波講座東南アジア史第9巻 「開発」の時代と「模索」の時代』岩波書店、2002年／赤木攻・安井三吉編『講座東アジア近現代史第5巻 東アジア政治のダイナミズム』青木書店、2002年／古田元夫編『岩波講座世界歴史第26巻 経済成長と国際緊張：1950年代～70年代』岩波書店、1999年／古田元夫編『＜南＞から見た世界02 東南アジア・南アジア：地域自立の模索と葛藤』大月書店、1999年／G. キング、R. コヘイン、S. ヴァーバ『社会科学のリサーチ・デザイン：定性的研究における科学的推論』勁草書房、2004年。

【成績評価の方法と基準】

Students will be regularly evaluated based on their contributions to class discussion and in-class problem-solving tasks. This component accounts for 60% of the final grade. In addition, students are required to deliver at least two oral presentations during the semester. The oral presentations account for the remaining 40% of the final grade.

【学生の意見等からの気づき】

これまでの受講生たちから寄せられた、東南アジアの政治や経済についての知識を得るだけでなく、社会科学的分析を行うための基礎的なスキルも身に付けたいという要望に応えるために、因果関係の推論に関する基本的な手法の習得にも重点を置いた授業構成にしました。

【学生が準備すべき機器他】

Reading assignmentはpdfファイルのかたちで提供するので、pdfファイルを閲覧したり、書き込みしたりするためのPCあるいはタブレットが必要です。

【その他の重要事項】

秋学期に開講する「国際地域研究（東南アジア）(2)」は履修せずに、春学期に開講する「国際地域研究（東南アジア）(1)」だけを履修することも認めますが、その場合は秋学期開始までに電子メール（asami@hosei.ac.jp）が担当教員に連絡してください。

【Outline (in English)】

This course aims to deepen students' understanding of Thailand's political economy while equipping them with the skills for constructing social scientific arguments and drawing causal inferences. In addition to focusing on Thailand, the course incorporates comparative perspectives by examining selected cases from other Southeast Asian and Latin American countries.

POL600A42319

国際地域研究（東南アジア）（2）

浅見 靖仁

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

タイの政治経済についての理解を深めるとともに、受講生が社会科学的な議論の組み立て方や因果関係についての推論を行うためのスキルも習得できる授業構成にします。受講生が、分析可能で、分析する意義のあるリサーチ・クエスチョンを見出すことができるようになることを重視します。

【到達目標】

受講生がタイをはじめとする東南アジア諸国についての理解を深めるとともに、反証可能な仮説を提示して社会科学的分析ができるようになり、さらにはそのために必要な情報を収集し、分析結果を発信できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

毎回事前に指定された文献（reading assignment）を読んだ上で授業に出席してもらいます。その文献を読んだ上で考えてもらいたい質問を事前にいくつか提示します。授業ではそれらの質問に履修者に答えてもらい、それに対して教員がコメントや追加の質問をすることによって、文献に書かれていたことに対する理解を深めてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	受講生によるプレゼンテーション	夏休み中に行った調査の結果を受講生に発表してもらいます。
第2回	王政の政治学的分析	タイの王政についてのさまざまな言説について比較政治学的に考察します。
第3回	タイの外交政策	外交政策の分析についてのいくつかのアプローチを比較しながら、タイの外交政策について考察します。
第4回	記憶をめぐる政治学	タイの現代史の描き方をめぐるタイ人の間の論争を題材に、記憶をめぐる政治学について考察します。
第5回	タイのナショナリズム	タイのナショナリズムと日本のナショナリズムを比較することによって、ナショナリズムについての理解を深めます。
第6回	社会的亀裂と民主主義	社会的亀裂と民主主義についての一般理論も学びながら、タイの事例について考察します。
第7回	雁行モデルとタイの経済発展	雁行モデルを使ってタイの経済発展と日本との関係について考察します。
第8回	説明変数としての宗教	タイの政治や経済、外交について考える際に宗教を説明変数の1つとすることの妥当性について考察します。

第9回	後発性の利益とタイ経済	「後発性の利益」という概念について、タイを事例にして考察します。
第10回	政策決定論とタイ	いくつかの政策決定論を学んだ上で、それらをタイの事例に当てはめたらどのような説明ができるかについて考察します。
第11回	政治的アクターとしての軍	タイの軍が果たしてきた政治的役割とその変化について考察します。
第12回	タイの政党	タイの政党について、日本や他の東南アジア諸国と比較しながら考察します。
第13回	タイの格差	タイの階層格差と地域の際について考察します。
第14回	授業のまとめ	1学期間の授業の総括を行うとともに、春休み期間中に受講生が行う調査研究の計画について発表してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to spend 4 hours to prepare materials for each class as well as review the materials discussed in previous classes.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course. Instead, a range of diverse materials will be assigned for each session and provided by the instructor.

【参考書】

恒川恵市（編）『民主主義アイデンティティ：新興デモクラシーの形成』早稲田大学出版部、2006年／末廣昭編『岩波講座東南アジア史 第9巻 「開発」の時代と「模索」の時代』岩波書店、2002年／赤木攻・安井三吉編『講座東アジア近現代史第5巻 東アジア政治のダイナミズム』青木書店、2002年／古田元夫編『＜南＞から見た世界 02 東南アジア・南アジア：地域自立の模索と葛藤』大月書店、1999年／G.キング、R.コヘイン、S.ヴァーバ『社会科学のリサーチ・デザイン：定性的研究における科学的推論』勁草書房、2004年。

【成績評価の方法と基準】

Students will be regularly evaluated based on their contributions to class discussion and in-class problem-solving tasks. This component accounts for 60% of the final grade. In addition, students are required to deliver at least two oral presentations during the semester. The oral presentations account for the remaining 40% of the final grade.

【学生の意見等からの気づき】

これまでの受講生たちから寄せられた、東南アジアの政治や経済についての知識を得るだけでなく、社会科学的な分析を行うための基礎的なスキルも身に付けたいという要望に応えるために、因果関係の推論に関する基本的な手法の習得にも重点を置いた授業構成にしました。

【学生が準備すべき機器他】

Reading assignmentはpdfファイルのかたちで提供するので、pdfファイルを閲覧したり、書き込みしたりするためのPCあるいはタブレットが必要です。

【その他の重要事項】

春学期に開講する「国際地域研究（東南アジア）(1)」は履修せずに、秋学期に開講する「国際地域研究（東南アジア）(2)」だけを履修することもできますが、その場合は、秋学期が始まる前に、担当教員に電子メール（asami@hosei.ac.jp）で連絡してください。

【Outline (in English)】

This course aims to deepen students' understanding of Thailand's political economy while equipping them with the skills necessary to construct social scientific arguments and draw causal inferences. It also emphasizes the development of students' ability to formulate research questions that are both analytically tractable and academically meaningful.

POL600A42322

国際地域研究（ヨーロッパ）（1）

宮下 雄一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：一次史料としての外交文書の分析と文献購読

授業の目的：本講義の目的は、ヨーロッパ国際関係の問題について歴史的観点から研究する際に必須となる史料読解に習熟することである。

【到達目標】

本授業の目標は、国際関係史に関する学术论文を執筆するに際し、一次史料を利用できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則、履修者による報告によって講義を実施する。

対面を軸としつつも、Zoomなどオンライン形式での授業を行う可能性もある。

なお、最終回の講義では、春学期に扱った史資料に関する説明、そしてレポートなどに対する講評を実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第2回	受講者による史料読解・報告（1）	戦間期に関する外交①
第3回	受講者による史料読解・報告（2）	戦間期に関する外交②
第4回	受講者による史料読解・報告（3）	戦間期に関する外交③
第5回	受講者による史料読解・報告（4）	戦間期に関する外交④
第6回	受講者による史料読解・報告（5）	戦間期に関する外交⑤
第7回	受講者による史料読解・報告（6）	第二次世界大戦期の外交①
第8回	受講者による史料読解・報告（7）	第二次世界大戦期の外交②
第9回	受講者による史料読解・報告（8）	第二次世界大戦期の外交③
第10回	受講者による史料読解・報告（9）	第二次世界大戦期の外交④
第11回	受講者による史料読解・報告（10）	第二次世界大戦期の外交⑤
第12回	受講者による史料読解・報告（11）	第二次世界大戦期の外交⑥
第13回	受講者による史料読解・報告（12）	第二次世界大戦期の外交⑦
第14回	講義で扱った史資料に関する説明／レポートに関する講評	国際関係史と史料分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各国の外交文書からの抜粋（Foreign Relations of the United States, 『日本外交文書』など）

【参考書】

瀬畑源『公文書をつかうー公文書管理制度と歴史研究』（青弓社、2011年）

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（70％）、議論への参加度（30％）

【学生の意見等からの気づき】

学术论文を執筆する際に、必要となる技法の習得に直結する講義の実施

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

履修するに際しては、国際関係史・国際政治史・外交史の基礎的な文献を読んでおくこと。

なお、報告に際し、利用する外交文書の言語は、日本語・英語、あるいはフランス語のいずれかであることが望ましい。その他の言語の利用も可能だが、事前に相談すること。

購読する文献については、受講者の人数を踏まえながら、考えたい。

なお演習形式の授業の進行状況によっては、シラバスの内容を見直すこともあり得る。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際関係史／戦争史

<研究テーマ>フランス外交史／ヨーロッパ統合論

<主要研究業績>『フランス再興と国際秩序の構想ー第二次世界大戦期の政治と外交』（勁草書房、2016年）など

【Outline (in English)】

Outline: Analyzing diplomatic papers

Objectives: The aim of this course is to learn how to use archival materials, which is the most important skill for research of international relations based on historical methods.

POL600A42323

国際地域研究（ヨーロッパ）（2）

宮下 雄一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：一次史料としての外交文書の分析と文献購読

授業の目的：本講義の目的は、ヨーロッパ国際関係の問題について歴史的観点から研究する際に必須となる史料読解に習熟することである。国際地域研究（ヨーロッパ）（1）をすでに履修していることを前提とする。

【到達目標】

本授業の目標は、国際関係史に関する学術論文を執筆するに際し、必須となる一次史料の利用に習熟することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、履修者の報告に基づく演習形式で実施する。

対面での演習とする。なお、オンライン演習も実施する予定である。

最終回の演習で、秋学期に扱った史資料の解説や履修者が執筆したレポートなどに関する講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進行方法／報告者の順番決め
第2回	受講者による史料読解・報告（1）	第二次世界大戦終焉直後のヨーロッパ統合構想①
第3回	受講者による史料読解・報告（2）	第二次世界大戦終焉直後のヨーロッパ統合構想②
第4回	受講者による史料読解・報告（3）	第二次世界大戦終焉直後のヨーロッパ統合構想③
第5回	受講者による史料読解・報告（4）	冷戦期の外交①
第6回	受講者による史料読解・報告（5）	冷戦期の外交②
第7回	受講者による史料読解・報告（6）	冷戦期の外交③
第8回	受講者による史料読解・報告（7）	冷戦期の外交④
第9回	受講者による史料読解・報告（8）	冷戦期の外交⑤
第10回	受講者による史料読解・報告（9）	脱植民地化と外交①
第11回	受講者による史料読解・報告（10）	脱植民地化と外交②
第12回	受講者による史料読解・報告（11）	脱植民地化と外交③
第13回	受講者による史料読解・報告（12）	脱植民地化と外交④
第14回	史資料に関する解説／レポートなどに関する講評	外交史研究の動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各国の外交文書からの抜粋（Foreign Relations of the United States, 『日本外交文書』など）

【参考書】

モーリス・ヴァイス（細谷雄一・宮下雄一郎監訳）『戦後国際関係史—二極化世界から混迷の時代へ』（慶應義塾大学出版会、2018年）

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（70％）、議論への参加度（30％）

【学生の意見等からの気づき】

秋学期に開催する授業ということもあり、修士論文の執筆を念頭に置いた演習を実施する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

報告に際し、利用する外交文書の言語は、日本語・英語・フランス語のいずれかであることが望ましい。その他の言語の利用も可能だが、事前に相談すること。

購読する文献については、受講者の人数を踏まえながら、考えたい。

春学期と同じく、授業の進行状況によってはシラバスの内容の修正もあり得る。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞国際関係史／戦争史

＜研究テーマ＞フランス外交史／ヨーロッパ統合論

＜主要研究業績＞『フランス再興と国際秩序の構想—第二次世界大戦期の政治と外交』（勁草書房、2016年）など

【Outline (in English)】

Outline: Analyzing diplomatic papers

Objectives: The aim of this course is to learn how to use archival materials, which is the most important skill for research of international relations based on historical methods. It is required to take "International Area Studies (Europe) (1)" in the spring semester.

POL600A42324

日本外交研究1

高橋 和宏

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、外交文書公開の進展や政治家等に対するオーラルヒストリーの蓄積により、戦後日本外交史上の様々な争点を実証的に解明されつつある。本講義では、戦後期の日本外交に関する文献講読を通じて、こうした研究の最前線を理解するとともに一次史料の利用方法といった方法論を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

戦後日本外交の主要な論点について一次史料に基づく専門知識を習熟する。また、そうした論点が現代の外交課題にどのようにつながっているのかを考える学問的素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

演習方式。講読対象文献を基に議論する。当該テーマに関する一次史料の読解を課題に課すことがある。
学生による報告に対して教員からコメントや質疑を行い、その問題点や評価点をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、講読文献の紹介
第2回	方法論（1）	戦後日本外交史の研究動向
第3回	文献講読（1） （受講生による報告）	敗戦と占領（1945-50年） （教科書 第1章）
第4回	文献講読（2） （受講生による報告）	冷戦下の講和と日本外交（1950年代〈1〉） （教科書 第2章）
第5回	文献講読（3） （受講生による報告）	戦後体制の成立（1950年代〈2〉） （教科書 第3章）
第6回	文献講読（4） （受講生による報告）	経済大国日本の外交（1960年代） （教科書 第4章）
第7回	文献講読（5） （受講生による報告）	デタント下の日本外交（1970年代） （教科書 第5章）
第8回	文献講読（6） （受講生による報告）	国際国家日本の外交（1980年代） （教科書 第6章）
第9回	文献講読（7） （受講生による報告）	冷戦後の日本外交（1990年代） （教科書 第7章）
第10回	文献講読（8） （受講生による報告）	小泉外交から民主党外交へ（2000年代） （教科書 第8章）
第11回	文献講読（9） （受講生による報告）	第二次安倍政権の外交（2012年－） （教科書 第9章）
第12回	方法論（2）	一次史料（外交文書）の探し方、使い方
第13回	論文指導（1） （受講生による報告）	受講生に対する修士論文作成指導
第14回	論文指導（2） （受講生による報告）	受講生に対する修士論文作成指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習に要する時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

添谷芳秀『入門講義 戦後日本外交史』慶応義塾大学出版会、2019年

【参考書】

授業において随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業での報告及び議論への参加（100％）

【学生の意見等からの気づき】

学生の関心に応じて、国内外の外交文書やその他の一次史料の具体的な入手方法を説明する。また、それらを用いた学術論文の執筆についても指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

受講生に応じて、授業計画を調整することがある。

【専門領域】

日本外交史、経済外交論、国際関係史

【研究テーマ】

冷戦期の日米関係、国際経済秩序をめぐる日本外交

【主要研究業績】

『ドル防衛と日米関係 高度成長期日本の経済外交 1959 1969年』（千倉書房、2018年）など。

【Outline (in English)】

(Outline and objectives)

This course aims to help students understand Japan's diplomatic history since the end of the Second World War. Through intensive document reading, students will learn the latest research findings as well as basic research methodology on historical archives.

(Learning activities outside of the classroom)

Students should expect to spend an additional four hours before/after the lecture class engaged in reading, review, and writing activities.

(Grading Criteria/Policy)

Grading will be decided based on the in-class contribution(100%).

POL600A42325

日本外交研究 2

高橋 和宏

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、外交と内政との連関という視点から冷戦期の日米関係史を展望し、その特質を理解することを目的とする。戦後日米関係は占領期という特殊な時期を起点として、政治、経済、安全保障、文化と多層的な関係を築いてきた。経済摩擦や基地問題の例に顕著にみられるように、この間のプロセスは外交と内政とが密接に絡み合うものであり、双方の視点からその歴史的位置を見定めることが必要である。講義ではまた、実践的な史料の使い方や研究の方法論についても議論していく。

【到達目標】

戦後日米関係史上の主要な論点について専門的知識を習熟するとともに、そうした論点が現代日本の政治外交にどう繋がっているかを実証的に考察できる学術的知見を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

演習方式。博士論文をベースとして刊行された戦後日米関係（日米安保体制の確立、安保条約改定、沖縄返還、核、経済摩擦）に関する研究書を輪読する。一つの研究書を2回の授業で読了していく。対象とする研究書の選定は初回のガイダンスを行う。

学生による報告に対して教員からコメントや質疑を行い、その問題点や評価点をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、講読文献の紹介
第2回	文献講読（1） （受講生による報告）	日米安保体制の確立①
第3回	文献講読（2） （受講生による報告）	日米安保体制の確立②
第4回	文献講読（3） （受講生による報告）	安保条約改定①
第5回	文献講読（4） （受講生による報告）	安保条約改定②
第6回	文献講読（5） （受講生による報告）	沖縄返還①
第7回	文献講読（6） （受講生による報告）	沖縄返還②
第8回	文献講読（7） （受講生による報告）	核をめぐる諸問題①
第9回	文献講読（8） （受講生による報告）	核をめぐる諸問題②
第10回	文献講読（9） （受講生による報告）	経済摩擦①
第11回	文献講読（10） （受講生による報告）	経済摩擦②
第12回	文献講読（11） （受講生による報告）	冷戦後の日米安保①
第13回	文献講読（12） （受講生による報告）	冷戦後の日米安保②
第14回	論文指導 （受講生による報告）	受講生の修士論文作成指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習に要する時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講読対象文献については初回の授業の際に確定する。

【参考書】

授業において随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業での報告及び議論への参加（100％）

【学生の意見等からの気づき】

学生の関心に応じて、国内外の外交文書やその他の一次史料の具体的な入手方法を説明する。また、それらを用いた学術論文の執筆についても指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

受講生に応じて、授業計画を調整することがある。

【専門領域】

日本外交史、経済外交論、国際関係史

【研究テーマ】

冷戦期の日米関係、国際経済秩序をめぐる日本外交

【主要研究業績】

『ドル防衛と日米関係 高度成長期日本の経済外交 1959 1969年』（千倉書房、2018年）など。

【Outline (in English)】

(Outline and objectives)

The main purpose of this course is to provide a basic perspective on the Japan-U.S. relationship during the Cold War era, with a special focus on the links between diplomacy and domestic politics. The following topics are to be covered: formulation of the security arrangements, amendment of the Security Treaty, Okinawa reversion, nuclear problems, and economic friction.

(Learning activities outside of the classroom)

Students should expect to spend an additional four hours before/after the lecture class engaged in reading, review, and writing activities.

(Grading Criteria/Policy)

Grading will be decided based on the in-class contribution(100%).

POL600A42400

グローバル政治経済特別セミナー

坂根 徹

備考（履修条件等）：※他研究科・他専攻の履修可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本特別セミナーは、「国際・国家防災管理：主にフィリピン・ASEAN・国連機関からの考察」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の知識を得るとともに、国際とフィリピンの防災管理等の考察を通して国際・国家公共政策の事例などを考察・分析する能力を涵養していくことも目的とする。

【到達目標】

This seminar aims students to deepen understanding about the theme of this seminar, to conduct in-class feedback and contribution, and to summarize understanding and consideration in final reflection report.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

This seminar will be based on mainly lectures, and supplementarily feedback between students and the lecturer (the invited distinguished guest speaker).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Opening	Introduction and guidance
第2回	Trends of disasters 1	Global trends
第3回	Trends of disasters 2	Regional and national trends in ASEAN region and Philippines
第4回	International disaster management 1	UNDRR and IPCC
第5回	International disaster management 2	ASEAN AHA Centre
第6回	International disaster management 3	WB and Other International Actors
第7回	National arrangements for disasters 1	Legal, administrative and policy arrangements
第8回	National arrangements for disasters 2	Regional and local assistance arrangements
第9回	National arrangements for disasters 3	Community assistance arrangements and acceptance arrangements of international assistance
第10回	National disaster management 1	Management of floods, heavy rains and typhoons
第11回	National disaster management 2	Management of earthquakes and volcano eruptions

第12回	National disaster management 3	Management of climate change
第13回	Major remaining challenges	Major remaining challenges for future disaster management
第14回	Closing	Summary and reflection report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

In average, your study time outside of each class will be about 4 hours.

【テキスト（教科書）】

none

【参考書】

will be introduced in the class

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on in-class feedback and contribution (60%) and final reflection report (40%).

【学生の意見等からの気づき】

not applicable

【その他の重要事項】

This intensive seminar will be conducted starting on 25 Monday, January 2027 and ending on 29 Friday, January 2027. Detailed schedule, including when and where each seminar time slot is going to be conducted, will be posted by administration. Details of this seminar will be explained in the opening and might be slightly modified.

Not only students of the Graduate School of Politics but also students of other Graduate Schools are able to take this seminar. In addition, undergraduate students of the Department of Global Politics, Faculty of Law, who has a score more than TOEIC 550 in the on-campus English placement test are also eligible to take this seminar. Maximum number of undergraduate students who can take this seminar is set as 30.

If there is any student who can't attend to any time slot of this seminar because of an inevitable reason, it shall be notified at the opening session of this seminar. If there is any student who can't attend to the opening session of this seminar, it must be notified enough before the opening session.

【Brief Introduction of the Lecturer】

Dr. Kristoffer B. Berse is Dean, Professor, and Scientist II at the University of the Philippines National College of Public Administration and Governance (UP NCPAG) in Diliman, Quezon City. Dr. Kris earned his Ph.D. and master's degrees in Urban Engineering and Environmental Studies, respectively, from the University of Tokyo, and his bachelor's degree in Public Administration from UP. Dr. Kris works broadly in the intersecting areas of public policy, sustainable development, inter-local cooperation, crisis management, climate adaptation, and disaster governance.

【Outline (in English)】

Main theme of this seminar is "International and National Disaster Management: Consideration Mainly from Philippines, ASEAN and UN Organizations". By taking this seminar, students are expected to acquire related knowledge and foster ability to consider and analyze various international and national disaster management referring mainly to Philippines' ASEAN's and UN's disaster management and international and national public policy examples.

POL600A42404

総合講座・国際協力講座

木内 真理子

備考（履修条件等）：学部「国際協力講座」と合同
 ※学部卒で学部在籍時に履修済みの場合は履修不可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座は、現実の国際協力実務に携わるプロフェッショナルによるオムニバス形式の講義をとおして、国際協力のさまざまな取り組みの現状と課題を学習・理解することを目的とする。これにより、将来、地球共生社会の実現を目指して国際協力の世界で活躍する人材の育成も目的とする。

【到達目標】

- ・国際協力分野に携わる様々なアクターによる政策や活動について、また、アクター間の連携について知識を深める。
- ・国際協力分野の実態と課題について知る。
- ・国際協力分野における課題に気づき、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

ゲストスピーカーによる講義と学生からの質疑応答で授業を構成する。授業後には講義への理解度を確認するため、支援システムを通じて毎回課題の提出を求める。
 ゲストスピーカーの予定によってシラバスに変更が生じる場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際協力の形態と種類	国際協力の意義、形態と種類
第2回	国際協力の世界的潮流	開発協力専門家による講義と質疑応答
第3回	持続可能な開発のための2030アジェンダとSustainable Development Goals (SDGs)	開発援助専門家による講義と質疑応答
第4回	日本の国際協力：開発協力大綱と日本の政府開発援助 (ODA)	ODAの実務家による講義と質疑応答
第5回	国際協力機構(JICA)の役割、活動と課題	JICA職員による講義と質疑応答
第6回	国際協力機構(JICA)の役割、活動と課題	JICA職員による講義と質疑応答
第7回	国際機関の役割、活動と課題	国際機関職員による講義と質疑応答
第8回	国際協力における開発コンサルタントの役割、活動と課題	開発コンサルタントによる講義と質疑応答
第9回	国際協力における市民社会団体・NGOの役割、活動と課題	NGOの職員による講義と質疑応答
第10回	国際協力における市民社会団体・NGOの役割、活動と課題	NGOの職員による講義と質疑応答

第11回	国際協力における民間企業の役割、活動と課題	民間企業による講義と質疑応答
第12回	国際協力とメディア	報道機関の職員による講義と質疑応答
第13回	国際協力におけるアクター間の連携について	連携推進機関の職員による講義と質疑応答
第14回	まとめ	復習と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。レジュメ、資料を適宜Hoppii上で配布する。

【参考書】

- ・山田満ほか編著『新しい国際協力論—グローバル・イシューに立ち向かう』（第3版）明石書店、2023年
- ・紀谷昌彦、山形辰史『私たちが国際協力する理由 人道と国益の向こう側』日本評論社、2019年
- ・南博、稲場雅紀『SDGs 危機の時代の羅針盤』岩波新書、2020年
- ・蟹江憲史『SDGs（持続可能な開発目標）』中公新書、2020年
- ・勝間靖（編）『持続可能な地球社会をめざして わたしのSDGsへの取り組み』国際書院、2018年
- ・下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由起子『国際協力 その新しい潮流 第3版』有斐閣選書、2016年
- ・浅沼信爾・小浜裕久『ODAの終焉』勁草書房、2017年
- ・Yasutami Shimomura, John Page, Hiroshi Kato (eds.), Japan's Development Assistance: Foreign Aid and the Post-2015 Agenda, Palgrave Macmillan, 2016
- ・Michael P. Todaro and Stephen C. Smith, Economic Development Thirteenth Edition, Pearson, 2020.

【成績評価の方法と基準】

質疑応答への積極的な参加などの平常点（30%）、課題の提出状況と内容（70%）から総合的に判断する。
 ※遅刻は20分まで。それ以降の入室は欠席と見なす。
 ※4回以上課題未提出の場合は単位の授与はない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

担当教員は、政府開発援助(ODA)とNGOの双方で開発支援事業を、NGOでは組織経営を経験した実務者です。これらの現場経験を踏まえて講義を進めます。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞開発経済学、開発社会学、国際協力、NPO/NGOマネジメント

【Outline (in English)】

This course will examine the various approaches, forms, and actors of international cooperation in different fields. Different lecturers who are involved in international cooperation from the Japanese government, international organizations, NGOs, and the private sector will give lectures on the activities that they are undertaking and hold discussions with the students. Through these lectures and discussions, the students will deepen their understanding on the broad range of international cooperation activities and issues involved.

POL600A42410

NPO/NGO マネジメント研究

木内 真理子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府や企業では解決しにくい社会課題に挑む非営利組織（NPO）は、慈善の枠を超えた専門性と革新性によって新たな公共を形づくってきた。一方で、その組織基盤の脆弱さから、活動の拡充や持続性の確保が大きな課題となっている。

本講義では、NPOが社会的インパクトを生み続けるために不可欠な「組織基盤の強化」に焦点を当て、一見「慈善・ボランティア」とは距離があるように見える「組織マネジメント」を中心に、理論と国内外の実例を用いて多角的に検討する。こうした学びを通じて、将来、社会人として多様な立場から社会課題に関わる際の基礎的な視座を得ることを目的とする。

なお、非営利組織には一般社団法人、財団法人、社会福祉法人、学校法人など多様な形態が含まれるが、本講義では主として、日本国内の特定非営利活動法人（狭義のNPO）および国内外でNGOと呼ばれる組織を対象に考察する。

【到達目標】

1. 様々な問題が絡み合う、現代の複雑な社会課題解決において、サードセクターである非営利組織（NPO）の存在意義・役割を理解する
2. NPOがそのミッションを実現し、持続的な活動を行うために必要な、NPOの組織基盤強化とマネジメントとは何かを理解する
3. 将来、NPO／行政／企業など多様な立場から社会課題に関わる際の基礎的な視座を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は以下2つの構成で行う。なお、プレゼンテーションの回数や内容は受講人数や関連分野の知識などに応じて検討・変更する可能性がある。

1. テーマに関する教員によるインプット（最大50分）とグループワーク/ディスカッション（10回）
2. 過去2～3回で扱ったテーマに関する学生によるプレゼンテーションとディスカッション（4回）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション /ガイダンス	授業の進め方、プレゼンテーション割り当て。 NPO定義・存在意義、NPOセクター概観、国際比較
第2回	導入：NPOになぜマネジメントが必要なのか	非営利組織（NPO）になぜマネジメントが必要なのか。企業との相違、非営利性と公共性が組織行動に与える影響。
第3回	NPOの組織運営（1）ーミッションが形作るNPOの組織マネジメント	NPOの存在を支えるミッション、ビジョン、パーパスとは何か。ミッションが組織戦略、人材マネジメント、意思決定を方向づける仕組み。

第4回	プレゼンテーションとディスカッション ①（NPOの存在意義、ミッション、NPO国際比較）	院生によるプレゼンテーションとディスカッション
第5回	NPOの組織運営（2）ーマネジメント（戦略、人材、ミッションアライメント）	NPOに必要な戦略的思考と中期計画、人的資源マネジメントの必要性和効果と課題。
第6回	NPOの組織運営（3）ーガバナンス	NPOにおけるガバナンスの目的・役割。機能するガバナンスとしないガバナンス。
第7回	プレゼンテーションとディスカッション ②（戦略・人材・ガバナンス編）	院生によるプレゼンテーションとディスカッション
第8回	NPOの事業運営（1）ー事業形成、実施と評価。ロジックモデル	NPOが行う事業の形成・実施・評価。プロジェクトサイクル。ロジックモデル。
第9回	NPOの事業運営（2）ーインパクト評価とコレクティブ・インパクト	NPOの「成功」とは何か。成果（インパクト）を評価することの重要性和課題。多様なステークホルダーとの相互補完・協働によるインパクト。
第10回	プレゼンテーションとディスカッション ③（事業運営編）	院生によるプレゼンテーションとディスカッション
第11回	NPOの財務ー財務基盤の現状と課題：日本と世界の比較から考える	NPOの財務基盤、国内外の寄付市場の動向、財務の健全性とミッション遂行の関係、ミッション・ドリフトのリスク
第12回	NPOのもうひとつの「ミッション」ーファンドレイジング・広報	「広げる」ためのファンドレイジングと広報。海外と日本のNPOの相違。
第13回	プレゼンテーションとディスカッション ④（財務・資金調達編）	院生によるプレゼンテーションとディスカッション
第14回	総括・未来展望／NPOのこれから	まとめ。NPOの『出口戦略』。NPOのこれから／NPOの出口戦略

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

通常は授業以外に2時間程度の予習・復習、この他にプレゼンテーション準備のためには3時間程度の準備を標準とするが、ケースによりそれ以上を要することがある。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。授業で扱う文献等については授業内で適宜必要に応じて連絡する。

【参考書】

P.F. ドラッカー著（2007年）「非営利組織の経営」（ダイヤモンド社）
パブリックリソースセンター編（2022年）「NPO実践マネジメント入門（第3版）」（東信堂）
雨森孝悦著（2020年）「テキストブックNPO 非営利組織の制度・活動・マネジメント（第3版）」（東洋経済新報社）
その他必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート50%、担当するプレゼンテーション（内容、スライド、デリバリー）30%、ディスカッションへの参加・貢献度など平常点20%を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

1. 担当教員は、政府開発援助(ODA)とNGOの双方で開発支援事業を、NGOでは組織経営を経験した実務者です。これらの現場経験を踏まえて講義を進めます。
2. 外部講師による講義を取り入れる可能性があります。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞＜専門領域＞開発経済学、開発社会学、国際協力、NPO/NGOマネジメント

【Outline (in English)】

(Course outline and learning objectives)

Nonprofit organizations (NPOs) play a critical role in addressing social challenges that governments and private firms alone cannot resolve. Moving beyond traditional charity, many NPOs now operate with professional management and innovative approaches, while facing persistent challenges related to organizational capacity and sustainability. This course examines nonprofit management through theory and case studies from Japan and abroad, focusing on strategy, governance, evaluation, and fundraising. It aims to provide students with a foundational perspective for engaging with social issues in future careers across NPOs, government, and the private sector.

(Grading Criteria /Policy)

Final grades will be determined based on the following components: a final paper (50%), an assigned presentation — including content, slide design, and delivery (30%)— and class participation and contribution to discussions (20%).

POL600A42411

グローバル課題と市民社会組織研究

木内 真理子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く貧困、飢餓、保健、紛争、ジェンダーといったグローバル課題に対し、国際社会では政府、国際機関、企業、市民社会組織など多様なアクターが取り組んできた。その中には、効果的な実践が共有され、面的展開を通じて一定の進捗が見られる分野がある一方、課題の複雑化や拡大が解決のスピードを上回り、達成が困難となっている分野も少なくない。本授業では、SDGsの達成可能性を検証することを通じて、近い将来におけるグローバル課題解決の現実性を批判的に考察する。その上で、サードセクターのアクターとしての市民社会組織（CSO）、とりわけ非営利組織（NGO／NPO）が果たしてきた役割とその限界を整理し、今後その特性と強みをいかに活かし、課題解決への貢献を高めていくために何を変える必要があるのかを考察する。

【到達目標】

1. 主要なグローバル課題について、SDGsを評価軸として用いながら、2030年に向けた達成可能性を分析し、その根拠を説明できる。
2. 貧困、飢餓、保健、紛争、ジェンダー等の分野において、国際社会の多様なアクター（政府、国際機関、企業、市民社会組織）の役割分担と相互関係を整理し、市民社会組織の位置づけを相対化して捉えることができる。
3. サードセクターのアクターとしての市民社会組織（CSO）、特に非営利組織（NGO／NPO）が果たしてきた役割とその限界を、資金構造、評価、権力関係といった観点から分析できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、テーマに関する教員によるインプット（最大30分）と、事前に割り振ったテーマに関する学生によるプレゼンテーションとディスカッションで構成します。

なお、プレゼンテーションの回数や内容は受講人数や関連分野の知識などに応じて検討・変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション / ガイダンス	授業の目的と進め方の説明。プレゼンテーションテーマの割り当て
第2回	市民社会組織（CSO）とは	CSO、非営利組織（NPO）、非政府組織（NGO）の定義。非営利組織の運営を形作るものは何か。
第3回	貧困	貧困削減の潮流、国際協力アクターによる介入。SDG1は達成可能か。達成に何が必要か。
第4回	飢餓	飢餓の原因は自然災害か政治問題か。SDG2達成の見込みと必要な取組み。
第5回	保健・水・衛生	グローバルヘルス、感染症危機の高まり。「行動変容」をもたらす支援。SDGs3, 6の達成見込みと必要な取組み。

第6回	ジェンダー	開発事業におけるジェンダー分析手法。ジェンダー主流化のポイント。SDG5達成の見込みと必要な取組み。
第7回	教育	最も「取り残されている」紛争地にいる若者・子どもたちの教育。SDG4達成の見込みと必要な取組み。
第8回	気候変動	気候変動の緩和策、適応策におけるNGOの介入。SDG13達成の見込みと必要な取組み
第9回	SDGs達成におけるアクター分析	国、国際機関、企業、市民社会組織の役割。誰が何を担うと最も効果的か。
第10回	中間まとめ・振り返り	SDGs未達の最大の要因は何か。市民社会組織の役割は「代替」か「補完」か。
第11回	資金と持続可能性とアカウンタビリティ	ODA、民間資金、フィランソロピー。市民社会組織は誰にアカウンタブルであるべきか。
第12回	市民社会組織の評価	NGOの成功とは何か。成果評価の重要性と限界。
第13回	市民社会組織の出口戦略	NGOに出口戦略は必要か。出口戦略は「成功」の証左なのか。
第14回	総括	全体まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

通常は授業以外に2時間程度の予習・復習、この他にプレゼンテーション準備のためには3時間程度の準備を標準とするが、ケースによりそれ以上を要することがある。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。授業で扱う文献等については授業内で適宜必要に応じて連絡する。

【参考書】

高須直子・山形辰史編 （2025年）「これからの国際協力ー私たちが望む未来のために」（有斐閣）
雨森孝悦著 （2020年）「テキストブックNPO 非営利組織の制度・活動・マネジメント（第3版）」（東洋経済新報社）
Alice Gugeleve & Andrew Stern （2015年）「What's your endgame?」（Stanford Social Innovation Review）
その他、必要に応じて授業内で指定します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート50%、担当するプレゼンテーション（内容、スライド、デリバリー）30%、ディスカッションへの参加・貢献度など平常点20%を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

1. 担当教員は、政府開発援助(ODA)とNGOの双方で開発支援事業を、NGOでは組織経営を経験した実務者です。これらの現場経験を踏まえて講義を進めます。
2. 外部講師による講義を取り入れる可能性があります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 開発経済学、開発社会学、国際協力、NPO/NGO マネジメント

【Outline (in English)】

(Course outline and (Learning Objectives)

Global challenges such as poverty, hunger, health inequities, conflict, and gender inequality have been addressed by a wide range of international actors, including governments, international organizations, corporations, and civil society organizations (CSOs). While some issue areas have shown measurable progress through the replication of effective practices, many others continue to fall behind as the scale and complexity of problems outpace current solutions.

This course critically examines the feasibility of achieving the Sustainable Development Goals (SDGs) and explores what “global problem-solving” realistically looks like in the coming decades. Students will analyze both the potential and the limitations of CSOs — particularly non-profit organizations (NGOs and NPOs)— as key third-sector actors to address global challenges. Through case studies, student presentations, and structured discussions, the course invites students to rethink how CSOs can better leverage their unique strengths and what institutional, strategic, and organizational changes may be required to enhance their contribution to global development. (Grading Criteria /Policy)

Final grades will be determined based on the following components: a final paper (50%), an assigned presentation — including content, slide design, and delivery (30%)— and class participation and contribution to discussions (20%).

POL600A40500

国際政治学特殊演習

坂根 徹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は国際政治学専攻1年次の学生が、最終学年での修士論文・リサーチペーパーの完成に向けて、アカデミック・マナーや学術論文作成の基礎能力を修得することを目的とする。具体的には、研究倫理や資料・文献の検索・収集方法、文献引用の仕方、学術論文の構成要件（リサーチ・クエスチョン、先行研究のレビュー、研究仮説・研究視角、参考文献リスト）を学ぶ。

【到達目標】

修士論文・リサーチペーパー作成に必要なアカデミック・マナーと学術的技法を修得し、学期末に実施する論文構想発表会において、自身の修士論文・リサーチペーパーの構想を適切に発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」「DP3」は強く関連している。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

アカデミック・マナーと学術論文執筆の基礎的素養を着実に修得できるよう、教員による講義と受講生の実践を交差させながら授業を実施していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この科目の概要や授業スケジュールを説明する
第2回	資料・文献の検索・収集方法1	図書館の利用方法を修得する
第3回	資料・文献の検索・収集方法2	オンラインデータベースの使い方修得する
第4回	研究倫理	研究倫理についての研修プログラムから研究倫理を学ぶ
第5回	学術論文とは何か1	学術論文の基本（リサーチ・クエスチョン、先行研究の批判的レビュー、研究視角等）を学習する
第6回	学術論文とは何か2	現時点での論文構想を報告し、学術論文としての課題を確認する
第7回	アカデミック・マナー1	文献の引用方法を学ぶ
第8回	アカデミック・マナー2	参考文献リストの作成方法を学ぶ
第9回	論文構想の準備1	論文の構想をまとめ、報告資料の作成を開始する
第10回	論文構想の準備2	論文構想発表の準備として報告資料を作成する
第11回	論文構想発表会1	論文構想発表会において自身の修士論文・リサーチペーパーの構想を報告し、教員からの指導を受ける
第12回	論文構想発表会2	他の院生による報告を聞き、その内容を自身の論文構想にフィードバックする

第13回	論文構想発表会の振り返り1	論文構想発表会での指摘事項を振り返り、具体的な修正点を確認する
第14回	論文構想発表会の振り返り2	論文構想発表会での指摘事項を振り返り、最終学年での修士論文・リサーチペーパーの執筆に向けての計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究の収集・精読や論文構想の作成には多くの時間を要する。論文構想発表に向けて計画的に準備を進めること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（20％）
- ・論文構想発表の提出資料及びプレゼンテーション（80％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

シラバスの内容に変更が生じる場合もあることに留意していただきたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際公共政策・国連研究・行政学等

<研究テーマ>国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・調達行政等

<研究業績の例（単著論文から3篇を抜粋）>

・「国連システム諸機関の財政の変容—加盟国からの財政収入に焦点を当てた分析」（日本国際連合学会編『変容する国際社会と国連』国連研究第20号、国際書院、2019年に所収）

・「国連PKOの財政支出構造と政府・企業からの調達」（日本国際連合学会編『日本と国連—多角的視点からの再考』国連研究第13号、国際書院、2012年に所収）

・“Public Procurement in the United Nations System” (in Khi V. Thai ed., International Handbook of Public Procurement, Taylor and Francis, 2008)

【Outline (in English)】

This course aims to help students majoring in Global Politics acquire basic academic skills and academic writing in preparation for completing their master's thesis or research paper in their final year. Specifically, students will learn research ethics, how to search and collect materials and literature, how to cite literature, and the requirements for constructing an academic paper (research question, review of previous research, research hypothesis and perspective, and reference list).

LAW988A4（法学 / law 900）

修士論文

国際政治学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

LAW988A4（法学 / law 900）

リサーチ・ペーパー

国際政治学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

